Symantec NetBackup™ for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド

Windows

リリース 7.6



Symantec NetBackup™ for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド

このマニュアルで説明するソフトウェアは、使用許諾契約に基づいて提供され、その内容に同意す る場合にのみ使用することができます。

マニュアルバージョン: 7.6

法的通知と登録商標

Copyright © 2013 Symantec Corporation. All rights reserved.

Symantec、Symantec ロゴ、チェックマークロゴ、Veritas、NetBackup は Symantec Corporation またはその関連会社の、米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社 名、製品名は各社の登録商標または商標です。

このシマンテック製品には、サードパーティ(「サードパーティプログラム」)の所有物であることを示 す必要があるサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラム の一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含ま れる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利 または義務を変更しないものとします。サードパーティプログラムについて詳しくは、この文書のサー ドパーティの商標登録の付属資料、またはこのシマンテック製品に含まれる TRIP ReadMe File を 参照してください。

本ソフトウェアの一部は、RSA Data Security, Inc. の MD5 Message-Digest Algorithm から派生 したものです。Copyright 1991-92, RSA Data Security, Inc. Created 1991. All rights reserved.

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限 するライセンスに基づいて頒布されています。Symantec Corporation からの書面による許可なく本 書を複製することはできません。

Symantec Corporation が提供する技術文書は Symantec Corporation の著作物であり、Symantec Corporation が保有するものです。保証の免責:技術文書は現状有姿のままで提供され、Symantec Corporation はその正確性や使用について何ら保証いたしません。技術文書またはこれに記載される情報はお客様の責任にてご使用ください。本書には、技術的な誤りやその他不正確な点を含んでいる可能性があります。Symantec は事前の通知なく本書を変更する権利を留保します。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212の規定によって商業用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202「Rights in Commercial Computer Software or Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

弊社製品に関して、当資料で明示的に禁止、あるいは否定されていない利用形態およびシステム 構成などについて、これを包括的かつ暗黙的に保証するものではありません。また、弊社製品が稼 動するシステムの整合性や処理性能に関しても、これを暗黙的に保証するものではありません。

これらの保証がない状況で、弊社製品の導入、稼動、展開した結果として直接的、あるいは間接的 に発生した損害等についてこれが補償されることはありません。製品の導入、稼動、展開にあたって は、お客様の利用目的に合致することを事前に十分に検証および確認いただく前提で、計画およ び準備をお願いします。

Symantec Corporation 350 Ellis Street Mountain View, CA 94043

http://www.symantec.com



第1章	NetBackup for SharePoint Server の概要	9
	NetBackup for SharePoint Server の概要	9
	NetBackup for SharePoint の機能	10
	SharePoint Server のバックアップ操作	12
	SharePoint Server 2010 または 2013 のバックアップコンテンツおよび	
	SharePoint Foundation 2010 または 2013 のバックアップコンテンツ	
		13
	SnarePoint Server 2007 ねよい Windows SnarePoint Services 3.0 の	4 -
	ハックノッノの内谷	10
	ShareDoint Server のバックアップな上びリストアの判阻車頂	10
	ShareFull Selver のパックテック ねよいウベトラの前候事項	17
	NetBackup $D = 27 IV$	17
		10
第2章	NetBackup for SharePoint Server のインストー	
N - +		19
		10
	NetBackup for SharePoint のインストールの計画	19
	NetBackup for SharePoint のオペレーティングシステムおよびプラット	
	フォームの互換性の確認	20
	NetBackup for SharePoint の NetBackup サーバーおよびクライアントの	00
	要件	20
	NetBackup for SharePoint の SharePoint サーハーソフトウェアの要	21
	〒 クラスタ構成における SOI バックエンドサーバーのインストールの要	21
	件	22
	NetBackup for SharePoint のライセンスキーについて	22
笛3音	SharePoint 個別リカバリのための NFS のインストー	
77 J +	ルと構成 (SharePoint 2010 以前)	23
	SharePoint 個別リカバリテクノロジ用 Network File System (NFS) のイン	
	ストールおよび構成	24
	SharePoint 個別リカバリの要件	25
	SharePoint Server の個別リカバリテクノロジでサポートされている構	
	成	25

Windows 2012 での NFS 用サービスの構成について	25
Windows 2012 での NFS 用サービスの有効化	27
Windows 2012 クライアントでのネットワークファイルシステム (NFS)	
用サービスの有効化	30
Windows 2008 と Windows 2008 R2 での NES 用サービスの構成につ	
	33
Windows Sonver 2008 tot Windows Sonver 2008 D2 TO NES	55
Willidows Server 2000 または Willidows Server 2000 RZ での NFS	~~
	35
メディアサーバーでの Client for NFS の無効化	37
Server for NFS の無効化	39
Windows 2003 R2 SP2 での NFS 用サービスの構成について	41
Windows 2003 R2 SP2 メディアサーバーへの NFS 用サービスのイ	
ンストール	43
Windows Server 2003 R2 SP2 の SQL バックエンドサーバーへの	
NFS 用サービスのインストール	46
個別リカバリテクノロジノ(CPT)を信うバックアップレリストアでの LINIX メディ	10
回加ジン・ジノノンロン (ONT)を使力・ジノノ ジントア Cジ ONIX ハノイ アサービート Windows カライア 人の構成	47
	47
NBFSD 用の個別のネットワークホートの構成	48
NetBackup for SharePoint Server の構成	. 49
NetBackup for SharePoint の構成について	4 0
ShareDoint 非個別バックアップレ個別リカバリテクノロジ (CDT) を使用]	
Silder Olite Fill かい シンテック と Min Silder Olite Fill を Childer	E 1
$H_{\text{L}}(M) = \frac{1}{2} \frac{1}{2$	51
個別リルハリテクノロン (GRT) を使う SnarePoint ハックチッノの構成	
5 2	
SharePointの個別リカバリテクノロジ (GRT) でサボートされるディスク	
ストレージュニット	53
SharePoint 個別リカバリテクノロジ (GRT) を使用したリストアの制限	
事項および条件	53
NetBackup for SharePoint 用 NetBackup Client Service のログオンア	
カウントの構成	54
NetBackup for SharePoint 用 NetBackup Legacy Network Service Ø	-
ログオンアカウントの構成	55
ShareDoint $+ - バ - の - カ ル セキュリティの 佐限の 構成$	55
Share Doint クライア、小のエフトプロパティの提出	55
SildleFolint クノイノントのホペトノロハノイの構成	50
OLE DITENT STATES TO BE AND A DESCRIPTION	57
SnarePointアフリケーションサーハーにログオンするアカリントの指	
定	58
NetBackup for SharePoint バックアップを使用した一貫性チェックの	
実行	59
SharePoint Server の一貫性チェックのオプション	60
複数のサーバーを含む SharePoint ファームのリストアの構成	60

第4章

	MS-SharePoint ポリシーの手動バックアップの実行	61
5章	NetBackup for SharePoint のバックアップポリシー の構成	63
	SharePoint Server の個別バックアップとリカバリのバックアップポリシーに ついて	63
	SharePointファームのバックアップとリカバリのバックアップポリシーについ	
	て SharePoint Server のディザスタリカバリのバックアップポリシーについ て	64
	SharePoint Server を保護する VMware バックアップポリシーについ	00
	くSharePoint データベースのバックアップポリシーの構成 新しい NetBackup for SharePoint ポリシーの追加	66 67 67
	NetBackup for SharePoint のポリシー属性について	69
	NetBackup for SharePoint ボリシーへのスケジュールの追加	70
	NetBackup for SharePoint ホッシー・マックノイナントの追加	75
	SharePoint クライアントのエクスクルードリストの構成	79
6章	SharePoint Server、SharePoint Foundation、 Windows SharePoint Services のバックアップお よびリストアの実行	82
	SharePoint Server、SharePoint Foundation、Windows SharePoint Services のユーザー主導バックアップ	82
	Shaleroint Server ハッシアック 操作を実行 する デー・および シノ イアントの指定	83
	NetBackup for SharePoint のバックアップオプションについて SharePoint Server、SharePoint Foundation または Windows	83
	SharePoint Services のユーザー主導バックアップの実行	84
	SharePoint Server、SharePoint Foundation、Windows SharePoint Services のリストア	85
	SharePoint Server リストア操作を美行するサーバー、クライアントお よびポリシー形式の指定	86
	SharePoint Server の[Microsoft SharePoint]タブのリストアオプショ	07
	ン SharePoint Server の [全般 (General)] タブのリストアオプショ	87
		90
	NetBackup Recovery Assistant を使って SharePoint Server、 SharePoint Foundation、Windows SharePoint Services をリ	
	ストアする方法	90

第

第

	SharePoint Server、SharePoint Foundation または Windows	
	SharePoint Services のリストア	91
	SharePoint 2010 の Search Service アプリケーションのリストア	96
	SharePoint 2007 共有サービスプロバイダのリストア	98
	個別リカバリテクノロジ (GRT) を使用した個々の SharePoint 項目の	
	リストアのための要件	. 101
	完全データベースバックアップからの個々の SharePoint 項目のリス トア	102
	「シーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー	. 102
	アプリケーションのリカバリ	106
	テラフラク マヨマ シラスシック	100
	ファーム内の SharePoint Web アプリケーションのリダイレクトリスト	105
	7	113
	リ 別のファームへの SharePoint Web アプリケーションのリダイレクトリス	. 110
		116
	SharePoint サーバー Web アプリケーションコンテンツデータベース	
	の代替 SOL インスタンスへのリストアのリダイレクト	119
	個々の SharePoint 項目のファイルパスへのリダイレクトリストア	. 122
1/1.4	wara バックマップた 市田した CharoDaint Carvar	
VIVI		
VIVI	water インクテッシンを使用した Shater officient Server	125
VIVI	データの保護	. 125
V IVI VMw	ware パックアックファクアンを使用した ShareFornt Server データの保護 are バックアップによる SharePoint Server データの保護につい	. 125
V IVI VMw	wareアイワクアックションで用した ShareFornt Server データの保護 are バックアップによる SharePoint Server データの保護につい て	. 125 . 125
V IVI VMw	waleアイワクアッククを使用した ShareFoint Server データの保護 are バックアップによる SharePoint Server データの保護につい て wSphere 用の Symantec VSS プロバイダについて	. 125 . 125 126
V IVI	wareアイワクアクランを使用した ShareFornt Server データの保護 are バックアップによる SharePoint Server データの保護につい て vSphere 用の Symantec VSS プロバイダについて SharePoint Server を保護する VMware バックアップのサポートと必	. 125 . 125 126
V IVI	ware パックアップ シン を (文) 用 こっこ Share Fornt Server データの保護 are バックアップによる SharePoint Server データの保護につい て vSphere 用の Symantec VSS プロバイダについて SharePoint Server を保護する VMware バックアップのサポートと必 要条件	. 125 . 125 126 . 126
V IVI	ware パックアップ シン を (2) 用 こ / こ Share Fornt Server データの保護 are バックアップによる SharePoint Server データの保護につい て wSphere 用の Symantec VSS プロバイダについて SharePoint Server を保護する VMware バックアップのサポートと必 要条件 SharePoint Server を保護する VMware ポリシーの使用に関する制	. 125 . 125 . 126 . 126
VMw	ware バックアップによる SharePoint Server データの保護について wSphere 用の Symantec VSS プロバイダについて SharePoint Server を保護する VMware バックアップのサポートと必 要条件 SharePoint Server を保護する VMware ポリシーの使用に関する制 限事項	. 125 . 125 . 126 . 126 . 126
V IVI VMw Shar	ware バックアップによる SharePoint Server データの保護につい て wSphere 用の Symantec VSS プロバイダについて SharePoint Server を保護する VMware バックアップのサポートと必 要条件 SharePoint Server を保護する VMware ポリシーの使用に関する制 限事項 ePoint Server を保護する NetBackup for VMware バックアップの構	. 125 . 125 . 126 . 126 . 126
V IVI VMw Shar	ware パックアップによる SharePoint Server データの保護につい て wSphere 用の Symantec VSS プロバイダについて SharePoint Server を保護する VMware バックアップのサポートと必 要条件 SharePoint Server を保護する VMware ポリシーの使用に関する制 限事項 ePoint Server を保護する NetBackup for VMware バックアップの構 成について	. 125 . 125 126 . 126 . 126 . 126 . 127
V IVI VMw Shar	ware バックアップによる SharePoint Server データの保護につい て wSphere 用の Symantec VSS プロバイダについて SharePoint Server を保護する VMware バックアップのサポートと必 要条件 SharePoint Server を保護する VMware ポリシーの使用に関する制 限事項 ePoint Server を保護する NetBackup for VMware バックアップの構 成について wSphere 用の Symantec VSS プロバイダのインストール SharePoint Server を保護する NetBackup for VMware バックアップの構 の構成	. 125 . 125 126 . 126 . 126 . 127 . 129
V IVI VMw	ware バックアップによる SharePoint Server データの保護につい て wSphere 用の Symantec VSS プロバイダについて SharePoint Server を保護する VMware バックアップのサポートと必 要条件 SharePoint Server を保護する VMware ポリシーの使用に関する制 限事項 ePoint Server を保護する NetBackup for VMware バックアップの構 成について wSphere 用の Symantec VSS プロバイダのインストール SharePoint Server を保護する VMware バックアップポリシーの構成	. 125 . 125 . 126 . 126 . 126 . 127 . 129
V IVI VMw	ware バックアップでよる SharePoint Server データの保護につい て wSphere 用の Symantec VSS プロバイダについて SharePoint Server を保護する VMware バックアップのサポートと必 要条件 SharePoint Server を保護する VMware ポリシーの使用に関する制 限事項 ePoint Server を保護する NetBackup for VMware バックアップの構 成について wSphere 用の Symantec VSS プロバイダのインストール SharePoint Server を保護する VMware バックアップポリシーの構成 たついて	. 125 . 125 . 126 . 126 . 126 . 127 . 129 . 129
V IVI VMw Shar	ware バックアップでよる SharePoint Server データの保護 are バックアップによる SharePoint Server データの保護につい て vSphere 用の Symantec VSS プロバイダについて SharePoint Server を保護する VMware バックアップのサポートと必 要条件 SharePoint Server を保護する VMware ポリシーの使用に関する制 限事項 ePoint Server を保護する NetBackup for VMware バックアップの構 成について vSphere 用の Symantec VSS プロバイダのインストール SharePoint Server を保護する VMware バックアップポリシーの構成 結合 SharePoint 構成の個別リストア用プロキシホストの構成	. 125 . 125 . 126 . 126 . 126 . 127 . 129 . 129 . 131
V IVI VMw Shar	ware パックアップ シン を (2) 用 こ / こ Share Point Server データの保護 are バックアップによる SharePoint Server データの保護につい (、	. 125 . 125 . 126 . 126 . 126 . 127 . 129 . 129 . 131 . 132
VIVI VMw Shar VMw ディ	データの保護 are バックアップによる SharePoint Server データの保護につい て vSphere 用の Symantec VSS プロバイダについて SharePoint Server を保護する VMware バックアップのサポートと必 要条件 SharePoint Server を保護する VMware ポリシーの使用に関する制 限事項 ePoint Server を保護する NetBackup for VMware バックアップの構 成について vSphere 用の Symantec VSS プロバイダのインストール SharePoint Server を保護する VMware バックアップポリシーの構成 たて SharePoint Server を保護する VMware バックアップポリシーの構成 たて が SharePoint Server を保護する VMware バックアップポリシーの構成 たて SharePoint Server を保護する VMware バックアップポリシーの構成 たて SharePoint Server を保護する VMware バックアップポリシーの構成 SharePoint Server を保護する VMware バックアップポリシーの構成 SharePoint 構成の個別リストア用プロキシホストの構成 SharePoint 構成の個別リストア	. 125 . 125 . 126 . 126 . 126 . 127 . 129 . 129 . 129 . 131 . 132 . 133
VIVI VMw Shar VMw ディ	ware バックアップ シン を ほ 用 こ パン Share Formt Server データの保護 are バックアップによる SharePoint Server データの保護につい て wSphere 用の Symantec VSS プロバイダについて SharePoint Server を保護する VMware バックアップのサポートと必 要条件 SharePoint Server を保護する VMware ポリシーの使用に関する制 限事項 ePoint Server を保護する NetBackup for VMware バックアップの構 成について wSphere 用の Symantec VSS プロバイダのインストール SharePoint Server を保護する VMware バックアップポリシーの構成 たついて wSphere 用の Symantec VSS プロバイダのインストール SharePoint Server を保護する VMware バックアップポリシーの構成 たついて wSphere 用の Symantec VSS プロバイダのインストール SharePoint Server を保護する VMware バックアップポリシーの構成 たっこう が 第二のの などう の の などう の の などう の の の などう の の などう の の の な の の な いて い の の な の の な い の の な い の の の な い の の の の の い の い の の の の の の の の の の の の の	. 125 . 125 126 . 126 . 126 . 127 . 129 . 129 . 131 132 133
VIM VMw Shar VMw ディ Shar	ware バックアップ シン を ほ 用 こ パン Share Point Server データの保護 are バックアップによる SharePoint Server データの保護につい て wSphere 用の Symantec VSS プロバイダについて SharePoint Server を保護する VMware バックアップのサポートと必 要条件 SharePoint Server を保護する VMware ポリシーの使用に関する制 限事項 ePoint Server を保護する NetBackup for VMware バックアップの構 成について wSphere 用の Symantec VSS プロバイダのインストール SharePoint Server を保護する VMware バックアップポリシーの構成 結合 SharePoint 構成の個別リストア用プロキシホストの構成 are バックアップからの SharePoint データのリストア ・ ザスタリカバリ ePoint Server のディザスタリカバリ ePoint Server のディザスタリカバリ ePoint Server のディザスタリカバリ	. 125 . 125 126 . 126 . 126 . 127 . 129 . 129 . 131 132 133 133
VIVI VMw Shar VMw ディ Shar Shar	ware バックアップ シン を ほ 用 こいない れっかい からい アータの保護 「一タの保護	. 125 . 125 126 . 126 . 126 . 127 . 129 . 129 . 131 132 133 133
VIM VMw Shar VMw ディ Shar Shar Shar	ware バックアップ シン を ほ 用 こ いない 場合) データの保護 are バックアップによる SharePoint Server データの保護につい て wSphere 用の Symantec VSS プロバイダについて SharePoint Server を保護する VMware バックアップのサポートと必 要条件 SharePoint Server を保護する VMware ポリシーの使用に関する制 限事項 ePoint Server を保護する NetBackup for VMware バックアップの構 成について wSphere 用の Symantec VSS プロバイダのインストール SharePoint Server を保護する VMware バックアップポリシーの構成 たついて wSphere 用の Symantec VSS プロバイダのインストール SharePoint Server を保護する VMware バックアップポリシーの構成 たついて wSphere 用の Symantec VSS プロバイダのインストール wSphere 用の Symantec VSS プロバイダのインストール State State	. 125 . 125 . 126 . 126 . 126 . 127 . 129 . 129 . 131 . 133 . 133 . 134

第7章

第8章

第9章	トラブルシューティング	136
	NetBackup for SharePoint デバッグログ	136
	Metbackup for ShareFoint クノイナントのナハックログの自動的な有 効化	137
	NetBackup for SharePoint のデバッグログの手動での有効化	137
	NetBackup for SharePoint Windows クライアントのデバッグレベル	
	の設定	138
	Symantec VSS プロバイダのログ	139
	NetBackup の状態レポート	140
	NetBackup for SharePoint 操作の進捗レポートの表示	141
	異なる SharePoint サービスパックまたは異なる累積更新プログラムのレベ	
	ルへのリストア	141
	個別リカバリテクノロジ (GRT)を使用したトラブルシューティング SharePoint	
	ジョブ	141
	SharePoint リストア操作のトラブルシューティングの概要	143
	NetBackup for SharePoint とクライアント側の重複排除について	143
	SharePoint Server の VMware のバックアップとリストアのトラブルシュー	
	ティング	144
索引		146

NetBackup for SharePoint Server の概要

この章では以下の項目について説明しています。

- NetBackup for SharePoint Server の概要
- NetBackup for SharePoint の機能
- SharePoint Server のバックアップ操作
- SharePoint Server 2010 または 2013 のバックアップコンテンツおよび SharePoint Foundation 2010 または 2013 のバックアップコンテンツについて
- SharePoint Server 2007 および Windows SharePoint Services 3.0 のバックアッ プの内容
- SharePoint Server のリストア操作
- SharePoint Server のバックアップおよびリストアの制限事項
- NetBackup File System デーモン
- NetBackup のマニュアル

NetBackup for SharePoint Server の概要

NetBackup for SharePoint は、オンラインバックアップを実行できるように NetBackup の機能を拡張し、SharePoint Server をリストアします。NetBackup for Microsoft SharePoint Server Agent は、Windows の NetBackup クライアントソフトウェア用のオプションのアドオンコンポーネントです。この製品は、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースと緊密に統合されているため、このマニュアルでは、NetBackup の機能の概要だけを説明します。SharePoint Server のバックアップ操作とリストア操作は、特に記述されていないかぎり、他の NetBackup ファイルの操作と同じです。

Microsoft SharePoint Server、Microsoft Office SharePoint Server または Microsoft SharePoint Portal Server を、略して SharePoint Server または SharePoint と呼ぶ場 合があります。特に記述のないかぎり、SharePoint の説明は SharePoint Foundation または Windows SharePoint Services を意味します。

NetBackup for SharePoint の機能

表 1-1 に	NetBackup for	SharePoint Agent	の機能を示します。
---------	---------------	------------------	-----------

	表 1-1 NetBackup for SharePoint Agent の機能	
機能	説明	
オンラインバックアップ	SharePoint Server を停止することなく、SharePoint Server オブジェクトのバックアップを行うこ とができます。 SharePoint のサービスおよびデータは、バックアップ中も利用可能です。	
SharePoint Server のバッ クアップ方式	NetBackup では、SharePoint の完全バックアップおよび差分増分バックアップがサポートされています。	
NetBackup との密接な統	NetBackup との完全な統合化とは、次のことを意味します。	
合化	 NetBackup の手順およびソフトウェアに詳しい管理者は、SharePoint Server のバックアップおよびリストア操作を行うために NetBackup の構成および使用を簡単に行うことができます。 	
	 SharePoint Server のバックアップのユーザーは、NetBackup 製品群の機能および利点を 活用できます。これらの機能には、スケジュールされた操作とユーザー主導の操作、複数デー タストリームのバックアップ、インラインテープコピーなどが含まれます。これらの機能について は、詳細な説明があります。 	
	次を参照してください。『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』。	
集中管理	インストールされている複数の SharePoint Server のバックアップおよびリカバリを中央サイトから管理できます。	
メディア管理	SharePoint Server のバックアップは、NetBackup がサポートする各種のストレージデバイスに、 直接保存されます。	
自動バックアップ	管理者は、ローカルクライアントまたはネットワークを介したリモートクライアントに対して、自動的 な無人のバックアップを行うスケジュールを設定することができます。これらのバックアップは、 NetBackup サーバーによって中央サイトから完全に管理されます。管理者が手動でクライアント をバックアップすることもできます。SharePoint Server のインストールでは、自動検出が使用され ます。SharePoint のフロントエンドの Web サーバーからトポロジーが読み込まれ、バックアップ 対象リストが自動的に作成されます。	
	p.13 の「SharePoint Server 2010 または 2013 のバックアップコンテンツおよび SharePoint Foundation 2010 または 2013 のバックアップコンテンツについて」を参照してください。	
	p.15 の「SharePoint Server 2007 および Windows SharePoint Services 3.0 のバックアップの内容」を参照してください。	

機能	説明	
ユーザー主導バックアップ	フロントエンドの Web サーバーでクライアントのバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを使用して、SharePoint Server リソースのバックアップを実行できます。	
スタンドアロンの SharePoint Foundation ま たは Windows SharePoint Services (WSS) のバック アップおよびリストア	NetBackup では、スタンドアロンの SharePoint Foundation または Windows SharePoint Services のバックアップおよびリストアを行うことができます。	
SharePoint を保護する VMware バックアップのサ ポート	SharePoint サーバーを保護する VMware バックアップは、個別リカバリ、ファームの完全な保護 および Windows ファイルシステムの SharePoint コンポーネントの保護を提供します。	
バックアップの圧縮	圧縮することによって、ネットワーク上のバックアップのパフォーマンスが向上し、ディスクまたは テープに格納されるバックアップイメージのサイズが縮小します。NetBackup では、個別リカバリ テクノロジ (GRT)を使ったバックアップの圧縮はサポートされません。	
暗号化	[暗号化 (Encryption)]属性が有効な場合、サーバーでは、ポリシーに示されているクライアントのバックアップが暗号化されます。NetBackup では、GRT を使用するバックアップの暗号化は サポートされていません。	
リストア操作	管理者は、バックアップ、アーカイブ、およびリストアインターフェースを使用して、SharePoint Server のバックアップを参照したり、リストアを行うバックアップを選択することができます。	
VMware バックアップでの NetBackup アクセラレータ のサポート	NetBackup アクセラレータを使うと、SharePoint を保護する VMware バックアップの実行にか かる時間を最大 90% 短縮できます。バックアップ時間の短縮によって、VMware バックアップを バックアップ処理時間帯内に簡単に完了できるようになります。SharePoint 向けのアクセラレー タのサポートは、現在、完全スケジュール形式のバックアップだけに制限されています。この制限 は、SharePointを保護する VMware バックアップをアクセラレータなしで実行する場合にも適用 されます。	
個別リカバリテクノロジ (GRT)を使用した個々の 項目および文書セットのリ ストア	バックアップに GRT を使うと、Web アプリケーションのデータベースのどの完全バックアップから でも、個々のリスト、項目、文書のセットを直接リストアできます。この機能を使用する場合、データ ベース内部の項目を識別するための手順が追加されます。この手順によって、後で個々の項目 のリカバリが可能になります。(ファーム全体のバックアップを別に作成する必要があることに注意 してください。) メモ: NetBackup 7.6 では、SharePoint 2013 の GRT はサポートされません。この機能は、将	
	来のリリースで追加される予定です。	

機能	説明
クレームベース認証のサ ポート	クレームベース認証 (CBA) は、SharePoint 2010 以降の Web アプリケーションでサポートされ るようになりました。 次のプロバイダがサポートされます。
	 Windows 認証 (LDAP) Facebook LinkedIn Live Id フォームベース認証 (FBA) (SQL Server を使用) ADFS 2.0
リダイレクトリストア	 次のようなリダイレクトリストアを実行できます。 ファーム内の SharePoint Web アプリケーション SharePoint Web アプリケーションを別のファームへ SharePoint の個々の文書や画像を同一サイト上のファイルパスまたは UNC パスへ SharePoint コンテンツデータベースを別の SQL インスタンスへ (接続されていないコンテン ツデータベースからのデータリカバリを利用)
マルチテナント環境	SharePoint Server データベースのバックアップとリカバリはマルチテナント環境でも全面的にサポートされます。NetBackup はマルチテナントの SharePoint 環境で Microsoft SharePoint Server バックアップを用いた GRT をサポートしません。
NetBackupの以前のバー ジョンで作成されたバック アップのサポート	NetBackup 7.0 などの旧バージョンで作成されたバックアップをリストアすることが可能です。ただし、旧バージョンで作成されたバックアップの場合は、7.6 の新機能はサポートされません。たとえば、NetBackup 7.5 以前のバックアップから代替 SQL インスタンスにデータベースをリダイレクトすることはできません。
NetBackup 7.6 での SharePoint 2013 のサ ポート	NetBackup 7.6 は、SharePoint 2013 のデータベースバックアップのサポートを含んでいます。 GRT は SharePoint 2013 ではサポートされません。この機能は、将来のリリースで追加される予 定です。

SharePoint Server のバックアップ操作

NetBackup for SharePoint Server エージェントを使用して、SharePoint Server の ファーム全体または個々のコンポーネントをバックアップできます。NetBackup には、次 のバックアップ方法があります。

- 自動
- 手動
- ユーザー主導

NetBackup でのバックアップ方法については、次を参照してください。『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』。

第1章 NetBackup for SharePoint Server の概要 | 13 SharePoint Server 2010 または 2013 のバックアップコンテンツおよび SharePoint Foundation 2010 または 2013 のバック アップコンテンツについて |

NetBackup の管理者は、NetBackup サーバーが制御を行う、自動的な無人のバック アップのスケジュールを指定することができます。次の形式の自動バックアップが実行可 能です。

完全バックアップ バックアップ対象リストの内容全体がバックアップされます。

差分増分 前回に行った完全バックアップまたは増分バックアップ以降に追加 または変更された内容だけがバックアップされます。

手動バックアップは、特別な場合に使用されます。手動バックアップでは、バックアップに 際して選択したポリシーのバックアップ対象リストに含まれるすべての項目がバックアップ されます。

ユーザー主導バックアップを実行するには、ユーザーバックアップのスケジュールを、 NetBackup サーバー上の SharePoint ポリシーで定義する必要があります。ユーザー 主導バックアップでは、バックアップの対象として選択した項目の内容全体がバックアッ プされます。このバックアップ形式は、SharePoint アプリケーションホストだけでサポート されます。SharePoint オブジェクトが存在しているだけの他のホストではサポートされま せん。

SharePoint Server 2010 または 2013 のバックアップコ ンテンツおよび SharePoint Foundation 2010 または 2013 のバックアップコンテンツについて

SharePoint 2010 および 2013 はタグ、ソーシャルブックマーク、コンテンツ評価を含む 新しいメタデータ機能を提供します。メタデータのこれらの種類はコンテンツデータベー ス以外の場所に存在するサービスアプリケーションに保存されます。たとえば、コンテン ツ評価は Managed Metadata Service アプリケーションに存在します。また、カスタム サービスアプリケーションを作成し、それらにメタデータを保存できます。すべてのメタデー タが確実に保護されるようにサービスアプリケーションすべてをバックアップすることを確 認する必要があります。

(SharePoint 2010) メタデータは、コンテンツデータベース以外の場所に保存されるため、個別リカバリテクノロジ(GRT)を使ってリストアできません。ただし、メタデータが付属する SharePoint データをリストアするために GRT を使うことができます。メタデータが同じサービスアプリケーションに存在する限り、SharePoint は2つの項目間のリンクを保持します。

表 1-2 に、NetBackup for SharePoint で保護できる SharePoint Server のファームまたは SharePoint Foundation のコンポーネントを示します。

第1章 NetBackup for SharePoint Server の概要 | 14 SharePoint Server 2010 または 2013 のバックアップコンテンツおよび SharePoint Foundation 2010 または 2013 のバック アップコンテンツについて |

表 1-2 SharePoint Server 2010 および 2013 のコンポーネント、および SharePoint Foundation 2010 および 2013 のコンポーネント

SharePoint Server 2010 および 2013 のファームコンポーネント、および SharePoint Foundation 2010 および 2013 のコンポーネント

構成データベース

InfoPath Forms Services

SharePoint Server State Service

Microsoft SharePoint Foundation Web Application

WSS Administration

SharePoint Server State Service $\mathcal{T}^{\Box \mp \mathcal{Y}}$

SPUserCodeV4

Microsoft SharePoint Server Diagnostics Service

グローバル検索の設定

SharePoint Foundation ヘルプ検索

SharePoint Server 2010 および 2013 のファームコンポーネント、および SharePoint Foundation 2010 および 2013 のコンポーネント

共有サービス

- 共有サービスアプリケーション
 - Access Services
 - Secure Store Service
 - PerformancePoint Service アプリケーション
 - Visio Graphics Service
 - Managed Metadata Service
 - Excel Services アプリケーション
 - Security Token Service アプリケーション
 - Word Automation Services
 - User Profile Service アプリケーション
 - Business Data Connectivity Service
 - Search Service アプリケーション
- 共有のサービスプロキシ

メモ: 共有サービスのプロキシは個別にはリストアされません。NetBackup がサービスアプリケーションをリストアすると、サービスアプリケーションの新しいURIとプロキシが生成されます。

- Business Data Connectivity Service
- Word Automation Services
- Managed Metadata Service
- PerformancePoint Service アプリケーション
- Secure Store Service
- Search Service アプリケーション
- Web Analytics Service アプリケーション
- User Profile Service アプリケーション
- Visio Graphics Service

SharePoint Server 2007 および Windows SharePoint Services 3.0 のバックアップの内容

表 1-3 に、NetBackup for SharePoint でバックアップおよびリストアが可能な SharePoint Server のファームコンポーネントまたは Windows SharePoint Services を示します。

表 1-3 SharePoint Server 2007 および Windows SharePoint Services 3.0 のコンポーネントの比較

SharePoint Server 2007 のファーム	Windows SharePoint Services
構成データベース	構成データベース

SharePoint Server 2007 のファーム	Windows SharePoint Services
グローバル設定	
シングルサインオンデータベース	
共有サービス	WSS ヘルプ検索
 サービスデータベース 共有検索インデックス インデックスファイル 検索データベース Web アプリケーション コンテンツデータベース 	 インデックスファイル 検索データベース
Web アプリケーション	WSS 管理 Web アプリケーション コンテンツデータベース

SharePoint Server のリストア操作

SharePoint Server のリストア操作を開始するには、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを使用します。このインターフェースでは、リストアするオブジェクトが存在する NetBackup サーバーおよびバックアップの表示を行うクライアントを選択できます。これらの選択に基づいて、バックアップの履歴の表示、個々の項目の選択およびリストアの開始を行うことができます。NetBackup Recovery Assistantを使用すると、SharePointリソースを1回クリックするだけでリストアを実行したり、リソースをリストアする順序を決定したりすることができます。

管理者は、データベースおよび個々の項目を参照し、リストアすることができます。ユー ザーも、選択した項目のセキュリティ設定をリストアすることができます。ユーザーがリスト アできるオブジェクトは、次のとおりです。

- 1つ以上のデータベース
- ドキュメントライブラリ内の個々の文書
- サイト全体
- サブサイト
- リストまたはライブラリ全体
- 文書セット
- 個々のリスト項目またはドキュメント

SharePoint Web アプリケーションは異なる Web アプリケーションにリダイレクトできます。個々の文書または項目のリダイレクトリストアは、ファイルシステムに対して実行できます。

SharePoint Server のバックアップおよびリストアの制限 事項

SharePoint Server のバックアップおよびリストアを実行する際、次の制限事項があります。

- 次の場合は、別の Web アプリケーションにリダイレクトできません。
 - 文書およびフォルダ (これらの項目はファイルシステムにリダイレクトできます。)
 - ファームの構成データベースおよびシングルサインオンデータベース
 - インデックスファイルまたはインデックスデータベース
- 個別リカバリテクノロジ (GRT)を使って SharePoint 2010 の項目のリストアを実行す れば、SharePoint 2010 のユーザーの評価とタグはそれぞれのメタデータのデータ ベースのユーザーの評価とタグの現在の設定に同期されます。
- Microsoft 社の API の制限事項が原因で、NetBackup は Application Registry Service アプリケーションのバックアップをサポートしません。
- Project Server データベースは保護されません。
- GRT のバックアップはファームの複数のサーバーに存在するコンテンツデータベースをサポートしません。
- SQL 2012 Reporting Services は NetBackup 7.6 でサポートされません。
- NetBackup はマルチテナントの SharePoint 環境で Microsoft SharePoint Server バックアップを用いた個別リカバリテクノロジ(GRT)をサポートしません。
- NetBackup はカスタマイズされた SharePoint ソリューションパッケージ (.wsp) また はサードパーティの Web パーツのカスタマイズのリストアをサポートしません。

NetBackup File System デーモン

NetBackup メディアサーバー上の NetBackup File System デーモン (NBFSD) は、 NetBackup クライアントによる tar イメージのマウント、参照、および読み込みを許可する プロセスです。このプロセスは、クライアントで個別リカバリテクノロジ (GRT) 操作に使用 されます。これらの操作には、バックアップ、バックアップイメージの参照、リストアおよび 複製が含まれます。

NetBackup のマニュアル

NetBackup のサポート対象である各リリースのマニュアルの完全なリストは、次のURLで、 NetBackup リリースノート、管理、インストール、トラブルシューティング、スタートガイド、 およびソリューションガイドのページを参照してください。

http://www.symantec.com/docs/DOC5332

マニュアルは Adobe® Portable Document Format (PDF) ファイル形式で、Adobe Acrobat Reader を使用して閲覧できます。Reader は http://www.adobe.com からダ ウンロードしてください。

シマンテック社は、Adobe Acrobat Reader のインストールおよび使用についての責任 を負いません。

Symantec のサポート Web サイトのNetBackup ランディングページ には、有用な解説 ページや製品の警告トピックが掲載されています。

2

NetBackup for SharePoint Server のインストール

この章では以下の項目について説明しています。

- NetBackup for SharePoint のインストールの計画
- NetBackup for SharePointのオペレーティングシステムおよびプラットフォームの互換性の確認
- NetBackup for SharePoint の NetBackup サーバーおよびクライアントの要件
- NetBackup for SharePoint の SharePoint サーバーソフトウェアの要件
- クラスタ構成における SQL バックエンドサーバーのインストールの要件
- NetBackup for SharePoint のライセンスキーについて

NetBackup for SharePoint のインストールの計画

NetBackup for SharePoint を使用するには、次の作業を実行します。

表 2-1 NetBackup for SharePoint のインストール手順

手順	処理	説明
手順 1	オペレーティングシステムおよびプラットフォームの互 換性を確認します。	p.20 の「NetBackup for SharePoint のオペレーティ ングシステムおよびプラットフォームの互換性の確認」 を参照してください。
手順 2	NetBackup for SharePoint の NetBackup サーバー とクライアントの要件を確認します。	p.20 の「NetBackup for SharePoint の NetBackup サーバーおよびクライアントの要件」を参照してください。

手順	処理	説明
手順3	マスターサーバーに適用可能なライセンスキーを追加 してください。	p.22 の「NetBackup for SharePointのライセンスキー について」を参照してください。

NetBackup for SharePointのオペレーティングシステム およびプラットフォームの互換性の確認

ご使用のオペレーティングシステムまたはプラットフォームで NetBackup for SharePoint エージェントがサポートされていることを確認してください。

オペレーティングシステムおよび互換性を確認する方法

1 シマンテック社のサポート Web ページに接続します。

http://www.symantec.com/business/support/index.jsp

- 2 [NetBackup Enterprise Server]リンクをクリックします。
- 3 文書のリストで、次の文書をクリックします。

NetBackup Database Agent Compatibility List

4 VMware でのサポートについて詳しくは、次のマニュアルを参照してください。

Statement of Support for NetBackup in a Virtual Environment (Virtualization Technologies)

NetBackup for SharePointのNetBackupサーバーお よびクライアントの要件

NetBackup サーバーが次の要件を満たしていることを確認します。

- NetBackup サーバーソフトウェアが NetBackup サーバー上にインストールされ、実行可能な状態である。NetBackup サーバーのプラットフォームは、NetBackup がサポートするものであれば、どのプラットフォームでも問題ありません。 次を参照してください。『Symantec NetBackup インストールガイド』。
- ストレージュニットで使用されるバックアップメディアが構成されている。必要なメディ アボリュームの数は、いくつかの要因によって異なります。
 - 使用中のデバイスおよびメディアのストレージ容量
 - バックアップを行うデータベースのサイズ
 - アーカイブを行うデータの量
 - バックアップのサイズ

- バックアップまたはアーカイブの間隔
- バックアップイメージの保持期間

次を参照してください。『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』。

NetBackup クライアントが次の要件を満たしていることを確認します。

- NetBackup クライアントソフトウェアが、検索サーバーまたはジョブサーバーを除くす べての SharePoint サーバーにインストールされている。VMware 環境では、 SharePoint ファームに属する仮想マシンに、NetBackup クライアントソフトウェアが インストールされている必要があります。
- NetBackup 7.6 の NetBackup for SharePoint に含まれる新しい機能を使うには、 NetBackup for SharePoint クライアントをアップグレードする必要があります。メディ アサーバーと NetBackup for SharePoint クライアントは、NetBackup の同じバー ジョンである必要があります。

NetBackup for SharePoint の SharePoint サーバーソ フトウェアの要件

NetBackup サーバーまたはクライアント上の SharePoint サーバーソフトウェアに関する 次の項目について確認します。

- SharePoint サーバーソフトウェアがインストールされ、実行可能な状態になっている 必要がある。
- Microsoft.NET Framework 3.5 が SharePoint Server にインストールされている。
- 複数の SharePoint フロントエンドサーバーを使う場合、すべてのフロントエンドサーバーの Web サイトが IIS によって一様に識別される必要があります。サイトの識別には、ホストのヘッダーと IP アドレスの両方ではなく、どちらか片方のみを使用します。 複数のフロントエンドサーバーでホストのヘッダーと IP アドレスが混在する環境はサポートされません。
- リストアの失敗を回避するために、デフォルトの IIS アプリケーションプールの ID は SharePoint の有効なユーザー ID である必要がある。
- SharePoint ユーザーは管理者ユーザーアカウントである必要がある。

p.20の「NetBackup for SharePoint の NetBackup サーバーおよびクライアントの要件」を参照してください。

クラスタ構成における SQL バックエンドサーバーのイン ストールの要件

Veritas Cluster Server (VCS) または Microsoft Cluster Server (MSCS) 環境において、NetBackup は SQL バックエンドサーバーのクラスタをサポートしています。

詳しくは、VCS または MSCS のマニュアルを参照してください。

NetBackup for SharePoint のライセンスキーについて

NetBackup for SharePoint エージェントは NetBackup クライアントソフトウェアとともに インストールされます。個別のインストールは必要ありません。エージェントの有効なライ センスがマスターサーバーに存在する必要があります。

ライセンスキーを追加する方法について、より多くの情報が利用可能です。

次を参照してください。『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』。

NetBackup for SharePoint とエージェントでサポートされる機能を使うには、次のキーが必要です。

バックアップ形式または機能	必要なライセンス
NetBackup for SharePoint エージェント	NetBackup for SharePoint
SharePoint を保護する VMware バックアップ	Enterprise Client
アクセラレータ	Data Protection Optimization Option

3

SharePoint 個別リカバリの ための NFS のインストール と構成 (SharePoint 2010 以 前)

この章では以下の項目について説明しています。

- SharePoint 個別リカバリテクノロジ用 Network File System (NFS) のインストールおよび構成
- SharePoint 個別リカバリの要件
- SharePoint Server の個別リカバリテクノロジでサポートされている構成
- Windows 2012 での NFS 用サービスの構成について
- Windows 2008 と Windows 2008 R2 での NFS 用サービスの構成について
- Windows 2003 R2 SP2 での NFS 用サービスの構成について
- 個別リカバリテクノロジ (GRT) を使うバックアップとリストアでの UNIX メディアサーバーと Windows クライアントの構成
- NBFSD 用の個別のネットワークポートの構成

SharePoint 個別リカバリテクノロジ用 Network File System (NFS) のインストールおよび構成

NetBackup Granular Recovery では、Network File System、つまり NFS を利用して、 データベースのバックアップイメージから個々のオブジェクトを読み込みます。具体的に は、NetBackup クライアントは、NFS を使用して NetBackup メディアサーバーのバック アップイメージからデータを抽出します。NetBackup クライアントは、NetBackup メディ アサーバーに接続されるマッピングされたドライブのマウントおよびそのドライブへのアク セスに「Client for NFS」を使用します。クライアントからの I/O 要求は、NBFSD を介して NetBackup メディアサーバーで処理されます。

NBFSD は、メディアサーバーで実行する NetBackup File System (NBFS) サービスで す。NBFSD は、セキュリティ保護された接続を介して NetBackup クライアントに NetBackup バックアップイメージがファイルシステムフォルダとして表示されるようにしま す。

Network File System、つまり NFS は、クライアントおよびサーバーがネットワーク上でファイルにアクセスするためのオープンスタンダードとして広く認識されています。NFS により、クライアントは共有の TCP/IP ネットワークを介して異なるサーバー上のファイルにアクセスできます。通常、NFS はホストオペレーティングシステムに含まれています。 NetBackup では、個別リカバリテクノロジ (GRT) および NFS を使用して、データベースのバックアップイメージに存在する次のような個々のオブジェクトをリカバリします。

- Active Directory データベースバックアップのユーザーアカウント
- Exchange データベースバックアップの電子メールメッセージまたは電子メールフォ ルダ
- SharePoint データベースバックアップの文書

GRT をサポートする複数の NetBackup エージェント (Exchange、SharePoint、Active Directory など) は、同じメディアサーバーを使用できます。

メモ: NFS が正しく構成されない場合、GRT を使用した個々の項目のリストアは失敗し、 エラー 223 ([無効なエントリが発生しました。(An invalid entry was encountered)]) が 表示されます。

SharePoint 個別リカバリの要件

表 3-1

手順	処理	説明
手順 1	サポート対象の SharePoint Server の構成が備わっている。	次を参照してください。「NetBackup Database Agent Compatibility List」。
手順 2	GRT をサポートするメディアサーバープラットフォー ムが備わっている。	次を参照してください。「NetBackup Operating System Compatibility List」。
手順 3	すべての SQL バックエンドサーバーおよびメディア サーバーで、バックアップイメージのマウント先となる 割り当て済みドライブ文字が各ノードに割り当てられ ていることを確認します。	
手順 5	ご使用の環境に合わせて NFS を有効化または構成 します。	p.25 の「Windows 2012 での NFS 用サービスの構成について」を参照してください。
	 Windows 2012 メディアサーバーおよびクライアントの場合 Windows 2008 と Windows 2008 R2 メディアサーバーとクライアントの場合 Windows 2003 R2 SP2 メディアサーバーおよび クライアントの場合 UNIX メディアサーバーと Windows クライアントの場合 	 p.33の「Windows 2008 と Windows 2008 R2 での NFS 用サービスの構成について」を参照してください。 p.41の「Windows 2003 R2 SP2 での NFS 用サー ビスの構成について」を参照してください。 p.47の「個別リカバリテクノロジ (GRT)を使うバック アップとリストアでの UNIX メディアサーバーと Windows クライアントの構成」を参照してください。

SharePoint 個別リカバリの要件

SharePoint Server の個別リカバリテクノロジでサポート されている構成

Granular Recovery Technology (GRT) をサポートする SharePoint と SQL Server の バックエンドバージョン、Windows Server のリリースについて詳しくは、次を参照してく ださい。「NetBackup Database Agent Compatibility List」。

Granular Recovery Technology (GRT) をサポートするメディアサーバープラットフォー ムについては、次を参照してください。「NetBackup Operating System Compatibility List」。

Windows 2012 での NFS 用サービスの構成について

データベースバックアップから個々の項目をリストアするには、NetBackup メディアサーバーと SQL バックエンドサーバーで NFS 用サービスを構成する必要があります。

メモ: SharePoint の VMware バックアップおよびリストアの場合、NFS の構成が必要な システムは、バックアップを参照するために使用するシステムと、リストアを実行するため に使用するシステムのみです。この構成は、仮想マシンのバックアップ時にデータをキャ プチャする場合は必要ありません。

Windows 2012 での NFS の構成

表 3-2

手順	処理	説明
手順 1	メディアサーバーで NFS を構 成します。	メモ: SharePoint を保護する VMware バックアップの場合、メディアサーバーで NFS を構成する必要はありません。
		メディアサーバーで次の操作を実行します。
		 ONC/RPC Portmapper サービスが存在する場合は停止して無効にします。 NFS を有効にします。 p.27 の「Windows 2012 での NFS 用サービスの有効化」を参照してください。
		 Server for NFS サービスを停止します。 n 39 の「Server for NFS の無効化」を参照してください。
		 Client for NFS サービスを停止します。
		p.37 の「メディアサーバーでの Client for NFS の無効化」を参照してく ださい。
		注意: SQL バックエンドサーバーがメディアサーバーに存在する場合、Client for NFS を無効にしないでください。
		 サーバーの再起動時にポートマップサービスが自動的に起動するように構成します。
		コマンドプロンプトから次のコマンドを実行します。
		sc config portmap start= auto
		このコマンドは [SC] ChangeServiceConfig SUCCESSという状態を 返します。
手順 2	SQL バックエンドサーバーで	SQL バックエンドサーバーで次の操作を実行します。
	NFS を構成します。	 クライアントで NFS を有効にします。 p.30 の「Windows 2012 クライアントでのネットワークファイルシステム
		(NFS)用サービスの有効化」を参照してください。
		 Server for NFS サービスを停止します。 n 39 の「Server for NFS の無効化」を参照してください。
		hoo of content of a commutation with a content of the content of t

Windows 2012 での NFS 用サービスの有効化

個別リカバリテクノロジ (GRT) を使ったバックアップから個々の項目をリストアするには、 NFS 用サービスを有効にする必要があります。メディアサーバーおよびリストアホストでこの構成を完了すると、不要な NFS サービスを無効にすることができます。

Windows 2012 で NFS 用サービスを有効にする方法

- 1 サーバーマネージャを開きます。
- 2 [管理 (Manage)]メニューから、[役割と機能の追加 (Add Roles and Features)] をクリックします。



3 [役割と機能の追加ウィザード (Add Roles and Features Wizard)]の[開始する前 に (Before You Begin)]ページの[次へ (Next)]をクリックします。

4 [インストールの種類の選択 (Select installation type)]ページで、[役割ベースまた は機能ベースのインストール (Role-based or feature-based installation)]を選択 します。

Ra .	Add Roles and Fea	itures Wizard	_ D X
Select installation Before You Begin Installation Type Server Selection Server Roles Features Confirmation Results	Select the installation type. You can i machine, or on an offline virtual hard Role-based or feature-based in Configure a single server by addin Configure a single server by addin Configure a single services for Vi or session-based desktop deployn	Install roles and features on a running physic disk (VHD). stallation groles, role services, and features. Lation rtual Desktop Infrastructure (VDI) to create a nent.	DESTINATION SERVER com
		< Previous Next > In	istall Cancel

- 5 [次へ (Next)]をクリックします。
- 6 [サーバーの選択 (Sever Selection)]ページで、[サーバープールからサーバーを 選択 (Select a server from the server pool)]をクリックし、サーバーを選択してくだ さい。[次へ (Next)]をクリックします。

elect destinati	on server		DESTINATION SE
Before You Begin Installation Type Server Selection	Select a server or a Select a server Select a server 	i virtual hard disk on whic from the server pool hard disk	h to install roles and features.
Server Roles Features Confirmation	Server Pool		
	Name	IP Address	Operating System Microsoft Windows Server 2012 Standard
	1 Computer(s) fou This page shows si Add Servers comm collection is still in	nd ervers that are running Wi iand in Server Manager. C complete are not shown.	ndows Server 2012, and that have been added by usin ffline servers and newly-added servers from which dat

- **7** [サーバーの役割 (Server Roles)]ページで、[ファイルとストレージサービス (File and Storage Services)]および[ファイルと iSCSI サービス (File and iSCSI Services)]を展開します。
- 8 [ファイルサーバー (File Server)]および[NFS のサーバー (Server for NFS)]をク リックします。メッセージが表示された場合、[機能の追加 (Add Features)]をクリッ クします。[次へ (Next)]をクリックします。

<u>ک</u>	Add Roles and Features Wizard	X
Select server ro Before You Begin Installation Type Server Selection Server Roles Features Confirmation Results	Select one or more roles to install on the selected server. Roles	DESTINATION SERVER com Description Server for NFS enables this computer to share files with UNIX- based computers and other computers that use the network file system (NFS) protocol.
	Server for NfS Storage Services (Installed) C Previous Next	> Install Cancel

9 メディアサーバーが SQL バックエンドサーバーでもある場合、[機能 (Features)]の ページで、[NFS クライアント (Client for NFS)]をクリックします。[次へ (Next)]を クリックします。

Select features	and and	DESTINATION SERVER
Before You Begin Installation Type Server Selection	Select one or more features to install on the selected server. Features	Description Client for NFS enables this compute
Server Roles Features Confirmation Results	JAC In Framework 3.5 resurves (Installed) Background Intelligent Transfer Service (BITS) BitLocker Drive Encryption BitLocker Network Unlock BranchCache Client for NIS	to access files on UNIX-based NFS servers. When installed, you can configure a computer to connect to UNIX NFS shares that allow anonymous access.
	Data Center Bindging Drhanced Storage Fallover Clustering (Installed) Group Policy Management Ink and Handwriting Services (Installed) Internet Printing Client IP Address Management (IPAM) Server Y	
	< III >	

- 10 [確認 (Confirmation)]ページで、[インストール (Install)]をクリックします。
- 11 次のように、不要なサービスを無効にします。
 - メディアサーバーおよび SQL バックエンドサーバーとして機能する1つのホストを使用している場合は、Server for NFS サービスを無効にすることができます。
 p.39の「Server for NFS の無効化」を参照してください。
 - NetBackup メディアサーバーとしてのみ機能するホストについては、Server for NFS および Client for NFS サービスを無効にすることができます。
 p.39 の「Server for NFS の無効化」を参照してください。
 p.37 の「メディアサーバーでの Client for NFS の無効化」を参照してください。

Windows 2012 クライアントでのネットワークファイルシステム (NFS) 用 サービスの有効化

個別リカバリテクノロジ (GRT) を使ったバックアップから個々の項目をリストアするには、 NFS 用サービスを有効にする必要があります。この構成を SQL バックエンドサーバーで 完了すると、不要な NFS サービスを無効にすることができます。 Windows 2012 クライアントでネットワークファイルシステム (NFS) 用サービスを有効に する方法

- 1 サーバーマネージャを開きます。
- 2 [管理 (Manage)]メニューから、[役割と機能の追加 (Add Roles and Features)] をクリックします。

iه.	Serve	er Manager	X
🗲 🕘 🕶 🛯 🖌 🖌	bard	- © ľ	Manage Tools View Help
<u> </u>			Add Roles and Features
	WELCOME TO SERVE	R MANAGER	Remove Roles and Features
Local Server			Add Servers Create Server Group
All Servers		1 Configure	this Server Manager Properties
App Server File and Storage Services File and Storage Services File IIS	QUICK START	2 Add roles3 Add other	and features servers to manage
	WHAT'S NEW	4 Create a s	erver group
	LEARN MORE		Hide
	ROLES AND SERVER Roles: 3 Server groups App Server Manageability Events	GROUPS 1 Servers total: 1 1 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	File and Storage 1 Services 1 Manageability Events Activate Windows

3 [役割と機能の追加ウィザード (Add Roles and Features Wizard)]の[開始する前 に (Before You Begin)]ページの[次へ (Next)]をクリックします。 4 [インストールの種類の選択 (Select installation type)]ページで、[役割ベースまた は機能ベースのインストール (Role-based or feature-based installation)]を選択 します。

Ra .	Add Roles and Fea	itures Wizard	_ D X
Select installation Before You Begin Installation Type Server Selection Server Roles Features Confirmation Results	Select the installation type. You can i machine, or on an offline virtual hard Role-based or feature-based in Configure a single server by addin Configure a single server by addin Configure a single services for Vi or session-based desktop deployn	Install roles and features on a running physic disk (VHD). stallation groles, role services, and features. Lation rtual Desktop Infrastructure (VDI) to create a nent.	DESTINATION SERVER com
		< Previous Next > In	istall Cancel

- 5 [次へ (Next)]をクリックします。
- 6 [サーバーの選択 (Sever Selection)]ページで、[サーバープールからサーバーを 選択 (Select a server from the server pool)]をクリックし、サーバーを選択してくだ さい。[次へ (Next)]をクリックします。

elect destinati	on server		DESTINATION SE
Before You Begin Installation Type Server Selection	Select a server or a Select a server Select a server 	i virtual hard disk on whic from the server pool hard disk	h to install roles and features.
Server Roles Features Confirmation	Server Pool		
	Name	IP Address	Operating System Microsoft Windows Server 2012 Standard
	1 Computer(s) fou This page shows si Add Servers comm collection is still in	nd ervers that are running Wi iand in Server Manager. C complete are not shown.	ndows Server 2012, and that have been added by usin ffline servers and newly-added servers from which dat

- 7 [サーバーの役割 (Server Roles)]ページで、[次へ (Next)]をクリックします。
- 8 [機能 (Features)]ページで、[NFS のクライアント (Client for NFS)]をクリックしま す。[次へ (Next)]をクリックします。

elect features	sector 1	DESTINATION SERVER
Before You Begin Installation Type	Select one or more features to install on the selected server. Features	Description
Server Roles Features Confirmation Results	INET Framework 3.5 Features V INET Framework 4.5 Features (Installed) Battocker Drive Encryption Bittocker Drive Encryption Bittocker Network Unlock Branc/Cache Cache Data Center Bridging Enhanced Storage Failover Clustering (Installed) Group Policy Management Ink and Handwriting Services (Installed) Interet Printing Clent IP Address Management (IPAM) Server	Client for NFS enables this compute to access files on UNIX-based NFS servers. When installed, you can computer to computer to connect to UNIX NFS shares that allow anonymous access.
	< III >	

9 [確認 (Confirmation)]ページで、[インストール (Install)]をクリックします。

Windows 2008 と Windows 2008 R2 での NFS 用サー ビスの構成について

データベースバックアップから個々の項目をリストアするには、NetBackupメディアサーバーと SQL バックエンドサーバーで NFS 用サービスを構成する必要があります。

メモ: SharePoint の VMware バックアップおよびリストアの場合、NFS の構成が必要なシステムは、バックアップを参照するために使用するシステムと、リストアを実行するために使用するシステムのみです。この構成は、仮想マシンのバックアップ時にデータをキャプチャする場合は必要ありません。

手順	処理	説明
手順 1	メディアサーバーで NFS を構成します。	メモ: SharePoint を保護する VMware バックアップの場合、メディアサーバーで NFS を構成する必要はありません。
		メディアサーバーで次の操作を実行します。
		 ONC/RPC Portmapper サービスが存在する場合は停止して無効にします。 NFS を有効にします。 p.35 の「Windows Server 2008 または Windows Server 2008 R2 でのNFS 用サービスの有効化」を参照してください。 Server for NFS サービスを停止します。 p.39 の「Server for NFS の無効化」を参照してください。 Client for NFS サービスを停止します。 p.37 の「メディアサーバーでの Client for NFS の無効化」を参照してください。 Client for NFS サービスを停止します。 p.37 の「メディアサーバーでの Client for NFS の無効化」を参照してください。 注意: SQL バックエンドサーバーがメディアサーバーに存在する場合、Client for NFS を無効にしないでください。 サーバーの再起動時にポートマップサービスが自動的に起動するように構成します。 コマンドプロンプトから次のコマンドを実行します。 sc config portmap start= auto このコマンドは [SC] ChangeServiceConfig SUCCESS という状態を返します。
手順 2	SQL バックエンドサーバーで NFS を構成します。	 SQL バックエンドサーバーで次の操作を実行します。 NFS を有効にします。 p.35 の「Windows Server 2008 または Windows Server 2008 R2 での NFS 用サービスの有効化」を参照してください。 Server for NFS サービスを停止します。 p.39 の「Server for NFS の無効化」を参照してください。
手順 3	SQL バックエンドサーバーで NFS 用のクライアントの Hotfix をインストールします。	SQLのバックエンドサーバーで、NFS 用のクライアントの Hotfix をインストール します。この Hotfix は次の場所から入手できます。 http://support.microsoft.com/kb/955012 メモ: Windows Vista および Windows Server 2008 の重要な Hotfix は同じ パッケージに含まれています。ただし、Hotfix 要求ページには Windows Vista のみリストされています。1 つまたは両方のオペレーティングシステムに適用さ れる Hotfix パッケージを要求する場合は、そのページで Windows Vista の下 にリストされている Hotfix を選択します。各 Hotfix の実際のオペレーティング システムを判断するには、記事の適用先を参照してください。

表 3-3 Windows 2008 または Windows 2008 R2 環境での NFS の構成

Windows Server 2008 または Windows Server 2008 R2 での NFS 用サービスの有効化

個別リカバリテクノロジ(GRT)を使ったバックアップから個々の項目をリストアするには、 NFS用サービスを有効にする必要があります。メディアサーバーおよび SQL バックエン ドサーバーでこの構成を完了すると、不要なNFSサービスを無効にすることができます。

Windows Server 2008 または Windows Server 2008 R2 で NFS 用サービスを有効に する方法

- 1 サーバーマネージャを開きます。
- 2 左ペインで [役割] をクリックして、右ペインで [役割の追加] をクリックします。

Server Manager						
Eile Action View Help						
Server Manager (* 1990) Server Manager (* 1990) Server Manager (* 1990)	Roles					
	View the health of the roles installed on your server and add or remove roles and features.					
 	Roles Summary	Roles Summary Help				
 	Roles: 3 of 17 installed	Add Roles				
	Application Server	Application Server Help				
		File Services Help				
	𝔍 Web Server (IIS)	Web Server (IIS) Help				
•	Last Refresh: Today at 10:24 AM Configure refresh					

3 [役割の追加ウィザード]で、[開始する前に]ページの[次へ]をクリックします。

第 3 章 SharePoint 個別リカバリのための NFS のインストールと構成 (SharePoint 2010 以前) | 36 Windows 2008 と Windows 2008 R2 での NFS 用サービスの構成について |

4 [サーバーの役割の選択] ページで、[役割] の下の [ファイル サービス] チェック ボックスにチェックマークを付けます。[次へ (Next)] をクリックします。

メモ:ファイルサービスの役割の役割サービスがすでにインストールされていれば、 役割のホームページで他の役割サービスを追加できます。[ファイルサービス]ペイ ンで [役割サービスの追加] をクリックします。

Add Roles Wizard	les	X
Before You Begin Server Roles File Services Role Services Confirmation Progress Results	Select one or more roles to install on this server. Roles: Active Directory Certificate Services Active Directory Pomain Services Active Directory Federation Services Active Directory Rights Management Services Active Directory Rights Management Services Application Server DNS Server Fax Server File Services Hyper-V (Installed) Network Policy and Access Services Terminal Services UDDI Services Web Server (IIS) Windows Deployment Services Windows Server Update Services More about server roles 	 Description: File Services provides technologies that help you manage storage, enable file replication, manage shared folders, ensure fast file searching, and enable access for UNIX client computers.

5 [ファイル サービス] ページで、[次へ] をクリックします。

6 [役割サービスの選択]ページで、次の操作を実行します。

- [ファイル サーバー] のチェックマークをはずします。
- [NFS (Network File System) 用サービス] にチェックマークを付けます。
- [次へ]をクリックして、ウィザードを終了します。
第 3 章 SharePoint 個別リカバリのための NFS のインストールと構成 (SharePoint 2010 以前) | 37 Windows 2008 と Windows 2008 R2 での NFS 用サービスの構成について |

Add Roles Wizard	×
Select Role Servi	ces
Before You Begin Server Roles File Services Confirmation Progress Results	Select the role services to install for File Services: Description: File Server DrS Namespaces DrS Replication File Server Resource Manager Services for Network File System Windows Server 2003 File Services File Replication Service Windows Server 2003 File Services File Replication Service Mindows Server Service Mindows Server 2003 File Services File Replication Service Mindows Server Service Services for Network File System Services for Network File System Windows Server 2003 File Services File Replication Service Indexing Service Indexing Service

- 7 構成の各ホストに対して、次のいずれかを選択します。
 - メディアサーバーおよび SQL バックエンドサーバーとして機能する1つのホストを使用している場合は、Server for NFS を無効にすることができます。
 - NetBackup メディアサーバーとしてのみ機能するホストについては、Server for NFS および Client for NFS を無効にすることができます。
 - SQL バックエンドサーバーとしてのみ機能するホストについては、Server for NFS を無効にすることができます。

メディアサーバーでの Client for NFS の無効化

NetBackupメディアサーバーとしてのみ機能するホストでNFS 用サービスを有効にした後、Client for NFS を無効にできます。

NetBackup メディアサーバーで Client for NFS を無効にする方法

- 1 サーバーマネージャを開きます。
- 2 左ペインで、[構成]を展開します。
- 3 [サービス]をクリックします。

📕 Server Manager						_ 🗆 ×
Eile Action View Help						
(= =) 🖄 📰 🗐 o 📄 🚺	2 📷 🕨 🖬 II ID					
Server Manager (DCDELL224)	Services					
🛨 🜓 Roles	Name 🔺	Description	Status	Startup Type	Log On As	
	Adaptive Server An	Manages t		Disabled	Local System	
	Application Experie	Processes	Started	Automatic	Local System	
Task Scheduler	🧟 Application Informa	Facilitates		Manual	Local System	
🕀 🍻 Windows Firewall with Adva	Application Layer G	Provides s		Manual	Local Service	
🖏 Services	🧟 Application Manage	Processes i		Manual	Local System	
WMI Control	🔍 Background Intellig	Transfers f	Started	Automatic (D	Local System	
🛨 🌆 Local Users and Groups	🧟 Base Filtering Engine	The Base F	Started	Automatic	Local Service	
🕀 📇 Storage	🤹 Certificate Propaga	Propagate	Started	Manual	Local System	
	Client for NFS	Enables thi	Started	Automatic	Network S	
	🔍 CNG Key Isolation	The CNG k		Manual	Local System	
	🧠 COM+ Event System	Supports S	Started	Automatic	Local Service	
	COM+ System Appl	Manages t		Manual	Local System	
	Computer Browser	Maintains a		Disabled	Local System	
	Cryptographic Serv	Provides fo	Started	Automatic	Network S	
	Q DCOM Server Proc	Provides la	Started	Automatic	Local System	
	🔍 Desktop Window M	Provides D	Started	Automatic	Local System	
	🔍 DHCP Client	Registers a	Started	Automatic	Local Service	
	Q Diagnostic Policy Se	The Diagno	Started	Automatic	Local Service	_
	Diagnostic Service	The Diagno		Manual	Local Service	<u> </u>
	Extended > Standard /					

- 4 右ペインで、[Client for NFS] を右クリックして、[停止] をクリックします。
- 5 右ペインで、[Client for NFS] を右クリックして、[プロパティ] をクリックします。

6 [Client for NFS のプロパティ] ダイアログボックスの [スタートアップの種類] リスト で [無効] をクリックします。

Client for NFS Properties (DCDELL224)				
General Log On	Recovery Dependencies			
Service name:	NfsCint			
Display <u>n</u> ame:	Client for NFS			
Description:	Enables this computer to access files on NFS shares			
Pat <u>h</u> to executable C:\Windows\syste	x m32\nfscInt.exe			
Startup typ <u>e</u> :	Automatic			
Help me configure	Automatic (Delayed Start) Automatic Manual			
Service status:	Disabled Started			
<u>S</u> tart	Stop Pause Resume			
You can specify the start parameters that apply when you start the service from here.				
Start parameters:				
	OK Cancel Apply			

7 [OK] をクリックします。

Server for NFS の無効化

メディアサーバーおよび SQL バックエンドサーバーの NFS 用サービスを有効にすると、 Server for NFS を無効にすることができます。

Server for NFS を無効にする方法

- 1 サーバーマネージャを開きます。
- 2 左ペインで、[構成]を展開します。

3 [サービス]をクリックします。

📕 Server Manager					_	
<u>File Action View H</u> elp	<u>File Action View Help</u>					
🗢 🔿 🖄 🛅 🛅 🖬 🚺	🛛 🖬 🗼 🔳 II ID					
Server Manager (DCDELL224)	Services					
E P Roles	Name 🔺	Description	Status	Startup Type	Log On As	
	🧟 SAN/LAN Transfer	Enables re		Disabled	Local System	
	🤹 Secondary Logon	Enables st	Started	Automatic	Local System	
Task Scheduler	Secure Socket Tun	Provides s		Manual	Local Service	
🗉 💮 Windows Firewall with Adva	Security Accounts	The startu	Started	Automatic	Local System	
🧛 Services	Server	Supports fil	Started	Automatic	Local System	
🗃 WMI Control	Server for NFS	Enables a	Started	Automatic	Network S	
🕀 🜆 Local Users and Groups	Shell Hardware Det	Provides n	Started	Automatic	Local System	
🛨 📇 Storage	SL UI Notification S	Provides S		Manual	Local Service	
	🧟 Smart Card	Manages a		Manual	Local Service	
	Smart Card Remov	Allows the		Manual	Local System	
	🔍 SNMP Trap	Receives tr		Manual	Local Service	
	Software Licensing	Enables th	Started	Automatic	Network S	_
	🧟 Special Administrati	Allows adm		Manual	Local System	
	SSDP Discovery	Discovers		Disabled	Local Service	
	Superfetch	Maintains a		Disabled	Local System	
	Symantec Private B	Symantec	Started	Automatic	Local System	•
	Extended Standard	/				

- 4 右ペインで、[Server for NFS] を右クリックして、[停止] をクリックします。
- 5 右ペインで、[Server for NFS] を右クリックして、[プロパティ] をクリックします。

6 [Server for NFS のプロパティ] ダイアログボックスの [スタートアップの種類] リスト で [無効] をクリックします。

Server for NFS Prop	Server for NFS Properties (DCDELL224)				
General Log On Recovery Dependencies					
Service name:	NfsService				
Display <u>n</u> ame:	Server for NFS				
Description:	Enables a Windows based computer to act as an ANFS Server				
Pat <u>h</u> to executable C:\Windows\syste	: m32\nfssvc.exe				
Startup typ <u>e</u> :	Automatic				
Help me configure	Automatic (Delayed Start) Automatic Manual				
Service status:	Service status: Stated				
<u>S</u> tart	Stop Pause Resume				
You can specify the start parameters that apply when you start the service from here.					
Start parameters:					
	OK Cancel Apply				

- 7 [OK] をクリックします。
- 8 メディアサーバーおよびそれぞれのSQL バックエンドサーバーごとにこの手順を繰り返します。

Windows 2003 R2 SP2 での NFS 用サービスの構成に ついて

メモ: NetBackup は Windows Server 2003 R1 以前のバージョンで個別リカバリテクノ ロジ (GRT) をサポートしません。

データベースバックアップから個々の項目をリストアするには、NetBackupメディアサーバーと SQL バックエンドサーバーで NFS 用サービスを構成する必要があります。

メモ: SharePoint の VMware バックアップおよびリストアの場合、NFS の構成が必要な システムは、バックアップを参照するために使用するシステムと、リストアを実行するため に使用するシステムのみです。この構成は、仮想マシンのバックアップ時にデータをキャ プチャする場合は必要ありません。

手順	処理	説明
手順 1	必要なNFSコンポーネントをNetBackup メディアサーバーにインストールします。	 メディアサーバーで次の操作を実行します。 ONC/RPC Portmapper サービスが存在する場合は停止して無効にします。 次の NFS コンポーネントをインストールします。 RPC 外部データ表記 (XDR) RPC ポートマッパー SQLバックエンドサーバーがメディアサーバーにある場合は、次のコンポーネントもインストールします。 NFS クライアント NFS 用 Microsoft サービスの管理 サーバーの再起動時にポートマップサービスが自動的に起動するように構成します。 コマンドプロンプトから次のコマンドを実行します。 sc config portmap start= auto このコマンドは [SC] ChangeServiceConfig SUCCESS という状態を返します。 p.43 の 表 3-5 を参照してください。 p.43 の「Windows 2003 R2 SP2 メディアサーバーへの NFS
手順 2	メディアサーバーで Client for NFS サー ビスを構成します。	 ホストの設定に応じて、Client for NFS が正しく構成されていることを確認します。 メディアサーバーとSQL バックエンドサーバーを両方備えている単一のホストの場合、Client for NFS が動作していることを確認してください。 NetBackup メディアサーバーとしてのみ機能するホストの場合、Client for NFS を停止して無効にできます。

表 3-4

手順	処理	説明
手順 3	必要な NFS コンポーネントを SQL バック エンドサーバーにインストールします。	クライアントで次の操作を実行します。 ・ 次の NFS コンポーネントをインストールします。 ・ RPC 外部データ表記 (XDR) ・ RPC ポートマッパー ・ NFS クライアント ・ NFS 用 Microsoft サービスの管理 ・ インストールが完了したら、Client for NFS サービスが実行されていることを確認します。 p.43 の 表 3-5 を参照してください。 p.46 の「Windows Server 2003 R2 SP2 の SQL バックエンド サーバーへの NFS 用サービスのインストール」を参照してください。
手順 4	すべての SQL バックエンドサーバーで、 Client for NFS のホットフィックスをインス トールします。	このホットフィックスは次の場所から入手できます。 http://support.microsoft.com/kb/947186 http://support.microsoft.com/kb/955012

表 **3-5** Windows Server 2003 R2 SP2 に必要な NFS コンポーネント

NFS コンポーネント	NetBackup クライ アント	NetBackup メディ アサーバー
NFS クライアント	Х	
NFS 用 Microsoft サービスの管理	Х	
RPC 外部データ表記 (XDR)	Х	Х
RPC ポートマッパー		х

Windows 2003 R2 SP2 メディアサーバーへの NFS 用サービスのイン ストール

個別リカバリテクノロジ (GRT) を使ったバックアップから個々の項目をリストアするには、 NetBackup メディアサーバーに NFS 用サービスをインストールする必要があります。

NFS 用サービスを Windows Server 2003 R2 SP2 メディアサーバーにインストールする 方法

- 1 [スタート]>[コントロールパネル]>[プログラムの追加と削除]をクリックします。
- 2 [Windows コンポーネントの追加と削除]をクリックします。

3 [そのほかのネットワークファイルと印刷サービス]にチェックマークを付けて、[詳細] をクリックします。

Windows Components Wizard	×
Windows Components You can add or remove components of Windows.	Ŕ
To add or remove a component, click the checkbox. A shaded box me part of the component will be installed. To see what's included in a com Details.	ans that only ponent, click
Components:	
🗹 🚊 Other Network File and Print Services	0.3 MB 🔺
🗌 🚭 Remote Storage	6.9 MB
🗆 📑 Security Configuration Wizard	0.6 MB
Subsystem for UNIX-based Applications	1.9 MB
Terminal Server	помв 🔟
Description: Shares files and printers on this computer with others on th	ne network.
Total disk space required: 43.9 MB	D 1
Space available on disk: 8508.6 MB -	<u>D</u> etails
< <u>B</u> ack <u>N</u> ext > Cancel	Help

4 [NFS 用 Microsoft サービス]にチェックマークを付けて、[詳細]をクリックします。

Other Network File and Print Services	×			
To add or remove a component, click the check box. A shaded box means that only part of the component will be installed. To see what's included in a component, click Details.				
Subcomponents of Other Network File and Print Services:				
🗆 🛄 Common Log File System	0.0 MB 📐			
🗆 🚚 File Services for Macintosh	0.0 MB			
🗹 🥞 Microsoft Services for NFS	0.0 MB			
🗆 🚚 Print Services for Unix	0.3 MB			
Description: Enables UNIX users to both store and gain access to files o running Microsoft Windows.	in a server			
Total disk space required: 43.9 MB	Details			
Space available on disk: 8508.4 MB	<u></u>			
ОК	Cancel			

- 5 構成に適用するコンポーネントをインストールします。
 - ホストがNetBackupメディアサーバーのみの場合は、次のコンポーネントにチェックマークを付けます。
 - RPC 外部データ表記 (XDR)
 - RPC ポートマッパー
 - メディアサーバーおよび SQL バックエンドサーバーとして機能する1つのホストを使用している場合は、次のコンポーネントにチェックマークを付けます。
 - NFS クライアント
 - NFS 用 Microsoft サービスの管理
 - RPC 外部データ表記 (XDR)
 - RPC ポートマッパー

	Microsoft Services for NFS	×
メディア	To add or remove a component, click the check box. A shaded box means of the component will be installed. To see what's included in a component,	s that only part click Details.
サーバー	Client for NES	0.0 MB 🔺
および	End of the second	0.0 MB
シライアント	🗹 🧾 RPC External Data Representation	0.0 MB
サーバー	🗹 🛄 RPC Port Mapper	0.0 MB
のみ	🔲 😭 Server for NFS	0.0 MB
	🗆 📃 Server For NFS Authentication	0.0 MB 📃
	🗆 🕵 User Name Mapping	0.0 MB 💌
	Description: Provides RPC port mapping services for Server for NFS and Mapping.	User Name
	Total disk space required: 43.9 MB	Details
	Space available on disk: 8508.4 MB	
	OK	Cancel

- 6 [OK]をクリックします。
- 7 [OK]をクリックします。
- 8 [次へ]をクリックして、Windows コンポーネントウィザードを終了します。
- 9 インストールが完了したら、コントロールパネルの[サービス]を開きます。
- **10** ホストの構成に応じて、Client for NFS が動作中か、停止しており無効になっている かを検証します。
 - メディアサーバーとSQLバックエンドサーバーを両方備えている単一のホストの 場合、Client for NFS が動作していることを確認してください。
 - NetBackup メディアサーバーとしてのみ機能するホストの場合、Client for NFS を停止して無効にできます。

Windows Server 2003 R2 SP2 の SQL バックエンドサーバーへの NFS 用サービスのインストール

この項では、Windows Server 2003 R2 SP2 の NetBackup クライアントに NFS をイン ストールする方法について説明します。クライアントが SQL バックエンドサーバーである 場合にのみ、NFS が必要です。SQL バックエンドサーバーが NetBackup メディアサー バーでもある場合は、別の手順に従う必要があります。

p.43の「Windows 2003 R2 SP2 メディアサーバーへの NFS 用サービスのインストール」を参照してください。

Windows Server 2003 R2 SP2 の NetBackup クライアントに NFS 用サービスをインス トールする方法

- 1 [スタート]>[コントロールパネル]>[プログラムの追加と削除]をクリックします。
- 2 [Windows コンポーネントの追加と削除]をクリックします。
- 3 [そのほかのネットワークファイルと印刷サービス] にチェックマークを付けて、[詳細] をクリックします。
- 4 [NFS用 Microsoft サービス] にチェックマークを付けて、[詳細] をクリックします。
- 5 次のコンポーネントにチェックマークを付けます。
 - NFS クライアント
 - NFS 用 Microsoft サービスの管理
 - RPC 外部データ表記 (XDR)
- 6 [OK] をクリックします。
- 7 [OK] をクリックします。
- 8 [次へ] をクリックして、Windows コンポーネントウィザードを終了します。
- 9 インストールが完了したら、コントロールパネルの[サービス]を開きます。
- **10** Client for NFS サービスが実行されていることを確認します。
- 11 SQL バックエンドサーバーごとにこの手順を繰り返します。

個別リカバリテクノロジ (GRT) を使うバックアップとリスト アでの UNIX メディアサーバーと Windows クライアント の構成

UNIXメディアサーバーとWindowsクライアントを使う場合に個別リカバリテクノロジ(GRT) を使うバックアップとリストアを実行するには、次の構成を実行します。

- メディアサーバーが個別リカバリをサポートするプラットフォームにインストールされていることを確認します。
 次を参照してください。『Operating System Compatibility List』。
- UNIX メディアサーバーには、他の構成は必要ありません。
- SQL バックエンドサーバーで、NFS を有効にするか、または NFS をインストールします。

p.35の「Windows Server 2008 または Windows Server 2008 R2 での NFS 用 サービスの有効化」を参照してください。 **p.46**の「Windows Server 2003 R2 SP2 の SQL バックエンドサーバーへの NFS 用サービスのインストール」を参照してください。

NBFSD 用に個別のネットワークポートを構成することができます。
 p.48 の「NBFSD 用の個別のネットワークポートの構成」を参照してください。

NBFSD 用の個別のネットワークポートの構成

NBFSD はポート7394 で実行されます。組織で別のサービスが標準ポートNBFSD を使用 している場合は、別のポートにサービスを構成することができます。次の手順では、デフォ ルト以外のネットワークポートを使用するように NetBackup サーバーを構成する方法に ついて説明します。

NBFSD 用の個別のネットワークポートを構成する方法 (Windows サーバー)

- 1 NetBackupサーバーがインストールされているコンピュータに管理者 (Administrator) としてログオンします。
- 2 レジストリエディタを開きます。
- 3 次のキーを開きます。:

 $\texttt{HKEY_LOCAL_MACHINE} \texttt{XSOFTWARE} \texttt{VERITAS} \texttt{YNetBackup} \texttt{YCurrentVersion} \texttt{YConfig}$

- **4** FSE PORT という名前で DWORD 値を新規作成します。
- 5 新しい値を右クリックして、[修正]をクリックします。
- 6 [値のデータ] ボックスに、1から 65535 のポート番号を入力します。
- 7 [OK] をクリックします。

NBFSD 用の個別のネットワークポートを構成する方法 (UNIX サーバー)

- 1 NetBackup サーバーがインストールされているコンピュータに root ユーザーとして ログオンします。
- 2 bp.conf ファイルを開きます。
- 3 次のエントリを追加します。XXXX には、1から 65535 のポート番号を整数で指定 します。

FSE_PORT = XXXX

4

NetBackup for SharePoint Server の構成

この章では以下の項目について説明しています。

- NetBackup for SharePoint の構成について
- SharePoint 非個別バックアップと個別リカバリテクノロジ (GRT)を使用したバックアップ
- 個別リカバリテクノロジ (GRT) を使う SharePoint バックアップの構成
- NetBackup for SharePoint 用 NetBackup Client Service のログオンアカウントの 構成
- NetBackup for SharePoint 用 NetBackup Legacy Network Service のログオンア カウントの構成
- SharePoint クライアントのホストプロパティの構成
- 複数のサーバーを含む SharePoint ファームのリストアの構成
- MS-SharePoint ポリシーの手動バックアップの実行

NetBackup for SharePoint の構成について

SharePoint Server のバックアップとリストアを正常に実行するために、次の手順を完了 します。SharePointを保護する VMware バックアップの準備において NetBackupを構成する方法については、次のトピックを参照してください。

p.125の「VMware バックアップによる SharePoint Server データの保護について」を参照してください。

手順	処理	説明
手順 1	個別リカバリテクノロジ(GRT)を使用するバックアッ プおよびリストア操作の構成に関する情報を確認し ます。	GRT によって、データベースのバックアップから 個々の文書などをリストアできます。GRT は SharePoint Server と Windows Server のある特 定のバージョンに限定されるオプションです。GRT は SharePoint を保護する VMware バックアップ に含まれています。
		p.52 の「個別リカハリアクノロン (GR1) を使う SharePoint バックアップの構成」を参照してください。
手順 2	NetBackup Client Service を構成します。	GRT を使用して個々の項目をリストアする場合は 必須です。
		p.54 の「NetBackup for SharePoint 用 NetBackup Client Service のログオンアカウントの 構成」を参照してください。
手順 3	NetBackup Legacy Network Service を構成します。	p.55 の「NetBackup for SharePoint 用 NetBackup Legacy Network Service のログオン アカウントの構成」を参照してください。
手順 4	SharePoint クライアントのホストプロパティを構成 します。	p.56の「SharePointクライアントのホストプロパティ の構成」を参照してください。
手順 5	複数の SharePoint Server ホストのリストアを構成 します。	p.60 の「複数のサーバーを含む SharePoint ファームのリストアの構成」を参照してください。
手順 6	環境に合ったバックアップとリカバリの方針を選択 します。	p.63 の「SharePoint Serverの個別バックアップ とリカバリのバックアップポリシーについて」を参照 してください。
		p.64 の「SharePoint ファームのバックアップとリカ バリのバックアップポリシーについて」を参照してく ださい。
		p.65 の「SharePoint Server のディザスタリカバリ のバックアップポリシーについて」を参照してください。
		p.66 の「SharePoint Server を保護する VMware バックアップポリシーについて」を参照してくださ い。
手順7	構成設定をテストします。	p.61 の「MS-SharePointポリシーの手動バック アップの実行」を参照してください。

表 4-1 NetBackup for SharePoint の構成

SharePoint 非個別バックアップと個別リカバリテクノロジ (GRT) を使用したバックアップ

メモ: NetBackup 7.6 は、SharePoint 2010 および 2007 の GRT をサポートします。

非個別バックアップは Web アプリケーションのレベルで SharePoint オブジェクトのリス トアを可能にします。また、このバックアップ形式はシングルサインオンデータベースのレ ベルでもリストアを可能にします。非個別バックアップからは個々の項目をリストアすること はできません。

個別リカバリテクノロジ(GRT)を使用して個々の項目をリストアする場合、NetBackupではSharePoint Web アプリケーションに対して個別レベルのバックアップが実行されます。データベース全体をリストアすることも、項目を個別にリストアすることもできます。項目は、既存のWebアプリケーションにリストアしたり、ファイルシステムの場所にリダイレクトしたりすることができます。個々の項目は、個別レベルのバックアップイメージでリストアの表示およびリカバリが行われるようにカタログ化されます。

メモ:ファームデータベース(構成、シングルサインオン、インデックスファイルまたはイン デックスデータベース)に対して、個々の項目のリストアが有効になっているポリシーを使 用してバックアップを実行することはできません。包括的なファームのディザスタリカバリを 行う場合は、個別リカバリが無効になっている別のポリシーを使ってこれらのデータベー スをバックアップします。

表 4-2 に、非個別および個別レベルのバックアップを使用してリストアできる SharePoint オブジェクトを示します。

オブジェクト	非個別バックアップから リストア可能	個別リカバリテクノロジを 使用したバックアップか らリストア可能
構成データベース	はい (Yes)*	いいえ (No)
シングルサインオンデータベース	はい (Yes)*	いいえ (No)
グローバル設定	はい (Yes)*	いいえ (No)
インデックスファイル	はい (Yes)*	いいえ (No)
共有サービス (SharePoint 2007)	はい (Yes)*	はい (Yes)

表 4-2 SharePoint Server の非個別バックアップと個別リカバリテクノロジを 使用するバックアップ

オブジェクト	非個別バックアップから リストア可能	個別リカバリテクノロジを 使用したバックアップか らリストア可能
サービスアプリケーション (SharePoint 2010)	はい (Yes)	はい (Yes)
Web アプリケーションまたはコンテン ツデータベース	はい (Yes)	はい (Yes)
サイトコレクション	いいえ (No)	はい (Yes)
サブサイト	いいえ (No)	はい (Yes)
個々のリストまたはライブラリ	いいえ (No)	はい (Yes)
個々のドキュメントまたはリスト項目	いいえ (No)	はい (Yes)

*ファームリストアの一部としてのみこれらの項目をリストアしてください。

個別リカバリテクノロジ (GRT) を使う SharePoint バック アップの構成

NetBackup による個別リカバリを構成する前に、個別リカバリテクノロジ (GRT)を使用するための要件を満たしたこと確認します。これらの要件には、NFS の構成が含まれています。

p.25 の「SharePoint 個別リカバリの要件」を参照してください。

個別リカバリテクノロジ (GRT)を使う SharePoint バックアップの構成

手順	処理	説明
手順1	制限事項と条件を確認します。	p.53の「SharePointの個別リカバリテクノロジ (GRT) でサポートされるディスクストレージユニット」を参照して ください。
		p.53 の「SharePoint 個別リカバリテクノロジ (GRT) を 使用したリストアの制限事項および条件」を参照してくだ さい。
手順2	すべての SQL バックエンドサーバーで、ドメイン権限を 持つアカウントでログオンするように NetBackup Client Service と NetBackup Legacy Network Service を構	p.54 の「NetBackup for SharePoint 用 NetBackup Client Service のログオンアカウントの構成」を参照して ください。
成します。	p.55 の「NetBackup for SharePoint 用 NetBackup Legacy Network Service のログオンアカウントの構成」 を参照してください。	

手順	処理	説明
手順3	ファームの各 SharePoint サーバーで、ローカルセキュ リティの権限を割り当てます。	p.55の「SharePoint サーバーのローカルセキュリティの権限の構成」を参照してください。
手順4	非VMware バックアップの場合、バックアップポリシーで [個別リカバリを有効化する (Enable granular recovery)] を選択します。	SharePointを保護するVMwareバックアップでは個別 リカバリが自動的に提供されます。ポリシーで有効にす る必要はありません。
		p.67 の「新しい NetBackup for SharePoint ポリシーの 追加」を参照してください。

SharePoint の個別リカバリテクノロジ (GRT) でサポートされるディスク ストレージュニット

個別の情報は、ディスクストレージユニットに作成されたバックアップイメージのためにの みカタログ化されます。テープに直接作成されるバックアップは個別の情報を含んでい ません。イメージをテープに複製することができますが、テープに直接バックアップするこ とはできません。ディスクストレージユニットへのバックアップを構成する場合は、他の構 成は必要ありません。バックアップがディスクストレージユニットに存在する場合は、GRT を使って個々の項目のリストアのみを実行できます。

GRT でサポートされるディスクストレージユニットについて詳しくは、

次を参照してください。『Symantec NetBackup リリースノート』。

次を参照してください。「Disk Storage Types supported for Granular Recovery Technology (GRT)」。

SharePoint 個別リカバリテクノロジ (GRT)を使用したリストアの制限事項および条件

個別リカバリテクノロジ(GRT)を使用したジョブには、次のような制限事項と条件があります。

- この機能は特定のバージョンの SharePoint サーバーと Windows Server に限定されています。詳しくは、『NetBackup Operating System Compatibility List』および Symantec NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を次の場所で参照してください。 http://www.symantec.com/docs/TECH76648 http://www.symantec.com/docs/TECH126904
- この機能では、ユーザー主導の完全バックアップのみがサポートされています。
 NetBackupでは、あらゆる種類のスケジュールを使用して、ディザスタリカバリ用の完全なポリシーを作成できます。ただし、増分バックアップから個々の項目をリストアすることはできません。

- バックアップは、テープではなく、ディスクストレージユニットに対して行う必要があります。また、GRTを使用したリストアはディスクストレージユニットから行う必要があります。ディスクへのバックアップイメージは手動で複製できますが、テープコピーからのリストアは実行できません。
 p.53の「SharePointの個別リカバリテクノロジ(GRT)でサポートされるディスクストレージユニット」を参照してください。
- ただし、SharePoint 2010 Central Administration Web サイトと共有サービスの管理 Web サイトの個別リカバリはサポートされません。
- ワークフローの一部であるドキュメント、画像またはリスト項目の個別リカバリを実行する場合、これらの項目の状態は保持されません。

NetBackup for SharePoint 用 NetBackup Client Service のログオンアカウントの構成

NetBackup Client Service には、ローカル管理者とSharePointファーム管理者の権限 があるアカウントでログオンする必要があります。Windows サービスで、インデックスファ イルまたはインデックスデータベースとドキュメントライブラリが存在するホストのサービス のプロパティを構成します。個別リカバリテクノロジ (GRT)を使うバックアップでは、すべ ての SQL バックエンドサーバーでこのサービスを構成します。

メモ: VMware のバックアップとリストアの場合、バックアップを参照するために使うシステムとリストアを実行するために使うシステムで NetBackup Client Service を構成します。

NetBackup for SharePoint の NetBackup Client Service のログオンアカウントを構成 する方法

- 1 Windows のサービスアプリケーションを開始します。
- **2** [NetBackup Client Service]エントリをダブルクリックします。
- **3** [ログオン (Log On)]タブをクリックします。
- 4 [ログオン (Log on as)]のアカウントに、ローカル管理者と SharePoint ファーム管理者の権限があるアカウント名を指定します。
- 5 パスワードを入力します。
- 6 [OK]をクリックします。
- 7 NetBackup Client Service を停止して、再起動します。
- 8 サービスアプリケーションを終了します。

NetBackup for SharePoint 用 NetBackup Legacy Network Service のログオンアカウントの構成

NetBackup Legacy Network Service は、ローカル管理者とSharePointのファーム管理者の権限があるアカウントを使ってログオンする必要があります。Windows サービスで、インデックスファイルまたはインデックスデータベース、ドキュメントライブラリが存在するホストのサービスのプロパティを構成します。個別リカバリテクノロジ(GRT)を使うバックアップの場合は、すべての SQL バックエンドサーバーでこのサービスを構成します。

NetBackup Legacy Network Service のログオンアカウントを構成する方法

- 1 Windows のサービスアプリケーションを開始します。
- 2 [NetBackup Legacy Network Service] エントリをダブルクリックします。
- 3 [ログオン]タブをクリックします。
- 4 [ログオン (Log on as)]のアカウントに、ローカル管理者と SharePoint ファーム管理者の権限があるアカウント名を指定します。
- 5 パスワードを入力します。
- 6 [OK]をクリックします。
- 7 NetBackup Legacy Network Service を停止して、再度開始します。
- 8 サービスアプリケーションを終了します。

SharePoint サーバーのローカルセキュリティの権限の構成

ファームの各 SharePoint サーバーで、特定のローカルセキュリティの権限を割り当てる 必要があります。NetBackup for SharePoint Agent は、データにアクセスする際に SharePoint ユーザーとしてログオンするため、この権限が必要になります。

ローカルセキュリティの権限を構成する方法

- 1 ローカルセキュリティポリシーを開きます。
- 2 [ローカルポリシー]をクリックします。
- 3 [ユーザー権利の割り当て]では、次のポリシーにアカウントを追加してください。
 - [ローカルログオンを許可する (Allow log on locally)]
 - [プログラムのデバッグ (Debug programs)]
 - [サービスとしてログオン (Log on as a service)]

- [プロセスレベルトークンの置き換え (Replace a process level token)]
- 4 この変更を有効にするために、グループポリシーの更新コマンド(グループポリシーの更新)を実行します。

gpupdate /Force

SharePoint クライアントのホストプロパティの構成

SharePoint クライアントのホストプロパティで、選択した SharePoint クライアントの設定 を構成します。SharePoint ファームのすべてのサーバーのホストプロパティを構成しま す。このダイアログボックスに表示されるオプションはクライアントシステムにインストールさ れている NetBackup のバージョンに基づいたものとなります。クライアントをアップグレー ドした後でもこれらのオプションがすべて表示されていない場合は、NetBackup 管理コ ンソールを閉じ、再び開きます。

SharePoint クライアントのホストプロパティを構成する方法

- 1 NetBackup 管理コンソールまたはリモート管理コンソールを開きます。
- 左ペインで、[NetBackup の管理 (NetBackup Management)]>[ホストプロパティ (Host Properties)]>[クライアント (Clients)]を展開します。
- 3 右ペインで、構成する SharePoint クライアントを選択します。

クライアントがクライアントリストに表示されない場合は、[処理 (Actions)]>[クライアントの構成 (Configure Client)]をクリックします。

4 [処理 (Actions)]の[プロパティ (Properties)]をクリックします。

Client Properties:	ended.man.am.aproater.com	×
Properties	SharePoint	De <u>f</u> aults
🕂 🙀 Universal Settings		
- 🔁 Servers	Domain\\ I kox pamor	
Client Name	Domain(oser name:	
Encryption		
Port Ranges	Password:	
Access Control	Consistency check before backup:	
Network Settings	None	
Windows Client	Continue with backup if consistency check fails	
- 📙 Client Settings	Contrado With Dachap II Consistency check rais	
Exclude Lists	SharePoint granular restore proxy host:	
🚽 🧬 Network		
👷 Lotus Notes		
Exchange		
SharePoint		
Active Directo		
Login Banner Con		
Preferred Networl		
Resilient Network		
	OK Cancel Apply	Help
	· · · ·	

5 [Windows クライアント (Windows Client)]を展開して、[SharePoint]をクリックしま す。

6 必要なオプションを有効にします。

p.57 の「」を参照してください。

7 [OK]をクリックします。

[SharePoint]プロパティは、SharePoint Server インストールを保護するために、現在選択されている Windows クライアントに適用されます。

[SharePoint]ダイアログボックスには次のプロパティが含まれます。

表 4-4 [SharePoint]ダイアログボックスのプロパティ

プロパティ	説明	
ドメイン¥ユーザー名 (Domain¥User name)	SharePoint へのログオンに使用するアカウントのドメインとユー ザー名を指定します (DOMAIN¥user name)。	
	p.58 の「SharePoint アプリケーションサーバーにログオンする アカウントの指定」を参照してください。	

プロパティ	説明
パスワード (Password)	アカウントのパスワードを指定します。
バックアップ前の一貫性チェッ ク (Consistency check before backup)	NetBackup のバックアップ操作が開始される前に SQL Server のデータベースで実行する一貫性チェックを指定します。この チェックは、サーバー主導バックアップとユーザー主導バックアッ プの両方で実行されます。
	ー貫性チェックの実行を選択した場合、[一貫性チェックに失敗 した場合もバックアップを続行する (Continue with backup if consistency check fails)]を選択することができます。その場合、 NetBackup は一貫性チェックに失敗した場合にバックアップを 続行します。
	p.59 の「NetBackup for SharePoint バックアップを使用した一 貫性チェックの実行」を参照してください。
	p.60 の「SharePoint Server の一貫性チェックのオプション」を 参照してください。
SharePoint 個別リストア用プロ キシホスト (SharePoint granular restore proxy host)	結合 SharePoint 構成を保護する VMware バックアップのため、 バックエンド SQL サーバーの名前を指定します。このサーバー は、カタログホスト (ファームのフロントエンドサーバー) の個別リ ストア用プロキシホストとして機能します。 p.131 の「結合 SharePoint 構成の個別リストア用プロキシホスト
	の構成」を参照してください。

SharePoint アプリケーションサーバーにログオンするアカウントの指定

バックアップおよびリストアを実行するには、SharePoint 管理者のユーザー名およびパ スワードが NetBackup で認識される必要があります。バックアップポリシーを作成すると きにも SharePoint オブジェクトを参照するために NetBackup でこの情報が必要になり ます。入力したユーザー名およびパスワードは、NetBackup によって検証されます。

このアカウントは、次の要件を満たしている必要があります。

- SharePointコンポーネントがインストールされるサーバーで次の権限が必要です。 ローカル管理者権限、ドメインの管理者権限とサイトコレクションの管理権。アカウント はSharePointファーム管理者のアカウントである必要があります。
- SharePointファームのコンテンツが格納されているサーバーで特定のローカルセキュ リティの権限が付与されている必要があります。フロントエンドサーバーにはバックエ ンドデータベースサーバーのレジストリへのアクセス権限が必要です。
 p.55の「SharePoint サーバーのローカルセキュリティの権限の構成」を参照してく ださい。
- (SharePoint 2007) シングルサインオンデータベースのバックアップおよびリストアに 使用するログオンアカウントのクレデンシャルには、アカウント名を使用できます。また

は、クレデンシャルに、そのアカウントのグループのメンバーを使用することもできま す。(詳しくは、[シングルサインオン設定 (Single Sign-on Settings)]の[アカウント 名 (Account name)]ボックスを参照してください。これらの設定は、SharePoint Server の[シングルサインオン設定の管理 (Manage Settings for Single Sign-on)]ページ に書き込まれます。)

 Internet Information Services (IIS)の権限が、データベースのバックアップおよびリ ストアに影響する場合があります。バックアップおよびリストアに使用するログオンアカ ウントが、IISサイトへのアクセス権限を所有していることを確認してください。IISの権 限で統合 Windows セキュリティが有効になっている必要があります。

SharePoint アプリケーションサーバーのログオンアカウントを指定する方法

- 1 NetBackup 管理コンソールを開きます。
- 2 [NetBackup の管理 (NetBackup Management)]>[ホストプロパティ (Host Properties)]>[クライアント (Clients)]を展開します。
- 3 右ペインでクライアントを右クリックして、[プロパティ (Properties)]をクリックします。
- 4 左ペインで[Windows クライアント(Windows Client)]を展開して、[SharePoint]を クリックします。
- 5 [OK]をクリックして、変更を保存します。
- 6 SharePoint ファームのすべてのサーバーについてこの構成を繰り返します。
- 7 SharePoint サーバーのローカルセキュリティの権限を構成します。

p.55の「SharePoint サーバーのローカルセキュリティの権限の構成」を参照して ください。

p.54の「NetBackup for SharePoint 用 NetBackup Client Service のログオンアカウントの構成」を参照してください。

NetBackup for SharePoint バックアップを使用した一貫性チェックの実行

NetBackup で SharePoint バックアップ操作を開始する前に、SQL Server データベースの一貫性チェックを実行できます。このチェックは、サーバー主導バックアップとユーザー主導バックアップの両方で実行されます。

NetBackup for SharePoint バックアップを使用した一貫性チェックを実行する方法

- 1 NetBackup 管理コンソールを開きます。
- 2 [NetBackup の管理 (NetBackup Management)]>[ホストプロパティ (Host Properties)]>[クライアント (Clients)]を展開します。
- 3 右ペインでクライアントを右クリックして、[プロパティ (Properties)]を選択します。

- 4 左ペインで[Windows クライアント(Windows Client)]を展開して、[SharePoint]を クリックします。
- 5 [バックアップ前の一貫性チェック (Consistency check before backup)]リストから、 バックアップ前に実行するチェックを選択します。

これらのオプションについて詳しくは、p.60の「SharePoint Serverの一貫性チェックのオプション」を参照してください。

ー貫性チェックの実行を選択した場合、[一貫性チェックに失敗した場合もバックアップを続行する (Continue with backup if consistency check fails)]を選択することができます。その場合、NetBackup は一貫性チェックに失敗した場合にバックアップを続行します。

- 6 [OK]をクリックして、変更を保存します。
- 7 SharePoint ファームのすべてのサーバーについてこの構成を繰り返します。

SharePoint Server の一貫性チェックのオプション

SharePoint Server のバックアップ前に、次の一貫性チェックを実行できます。

オプション	説明
なし (None)	ー貫性チェックを実行しません。
インデックスを含まない完全 チェック (Full check, excluding indexes)	ー貫性チェックにインデックスを含めない場合に選択します。インデックスをチェックしない場合、一貫性チェックの実行速度は大幅に向上しますが、完全にはチェックされません。一貫 性チェックでは、各ユーザー表のデータページおよびクラスタ化インデックスページだけが対象となります。クラスタ化されていないインデックスページの一貫性はチェックされません。
インデックスを含む完全チェック (Full check, including indexes)	ー貫性チェックにインデックスを含めます。エラーはログに記録されます。

表 4-5 一貫性チェックのオプション

p.59の「NetBackup for SharePoint バックアップを使用した一貫性チェックの実行」を 参照してください。

複数のサーバーを含む SharePoint ファームのリストアの構成

NetBackup では、SharePoint フロントエンドサーバー名の下のバックアップイメージが カタログ化されます。NetBackup によってファーム内の各サーバーにコンテンツをリスト アできるようにするには、SharePoint Central Administration サーバーと SQL バックエ ンドサーバーをマッピングする必要があります。マスターサーバーのホストプロパティに次の構成パラメータを設定します。

次に例を示します:

 「クラスタ化された SQL バックエンドサーバーを持つ単一フロントエンド SharePoint サーバーでのエントリの例」

複数のサーバーを含む SharePoint ファームのリストアを構成する方法

- 1 マスターサーバーで NetBackup 管理コンソールを開きます。
- 2 [NetBackup の管理 (NetBackup Management)]>[ホストプロパティ (Host Properties)]>[マスターサーバー (Master Server)]を選択します。
- 3 右ペインで、マスターサーバーをダブルクリックします。
- 4 [分散アプリケーションリストアマッピング (Distributed Application Restore Mapping)]
 を選択します。
- 5 [追加 (Add)]をクリックします。
- 6 アプリケーションホスト名とコンポーネントホスト名を指定します。

アプリケーションホストは SharePoint Central Administration サーバーです。コン ポーネントホストはバックアップイメージへのアクセスを必要とするクライアントです。 表 4-6を参照してください。

クラスタ化された SQL バックエンドサーバーを持つ単一フロントエンド SharePoint サーバーでのエントリの例

表 4-6 クラスタ化された SQL バックエンドサーバーを持つ単一フロントエンド SharePoint サーバーでのエントリの例

アプリケーションホスト	コンポーネントホスト
SharePoint Central Administration サーバー	sql-virtualname
SharePoint Central Administration サーバー	sql-db1
SharePoint Central Administration サーバー	sql-db2

MS-SharePoint ポリシーの手動バックアップの実行

環境のサーバーおよびクライアントを設定した後、手動バックアップで構成設定のテスト を行うことができます。作成した自動バックアップスケジュールを手動バックアップで実行 します。状態コードおよびその他のトラブルシューティング情報の説明が参照できます。

次を参照してください。『NetBackup 状態コードリファレンスガイド』。

ディザスタリカバリが必要な場合に NetBackup カタログをリストアする方法について詳しくは、次を参照してください。『NetBackup トラブルシューティングガイド』。

手動バックアップを実行する方法

- 1 マスターサーバーに管理者 (Windows) または root ユーザー (UNIX) としてログオンします。
- 2 NetBackup 管理コンソールを起動します。
- 3 左ペインで、[ポリシー (Policies)]をクリックします。
- 4 テストするポリシーをクリックします。
- 5 [処理 (Actions)]>[手動バックアップ (Manual Backup)]を選択します。

[スケジュール (Schedules)]ペインには、テストするポリシー用に構成された自動ス ケジュールの名前が表示されます。[クライアント (Clients)]ペインには、テストする ポリシーにリストアップされているクライアントの名前が表示されます。

- 6 [手動バックアップ (Manual Backup)]ダイアログボックスの指示に従います。
- 7 バックアップの状態を確認するには、NetBackup 管理コンソールで[アクティビティ モニター (Activity Monitor)]をクリックします。

親ジョブには、ファイルリスト全体および1つ以上の子ジョブが含まれます。子ジョブ は、SharePointデータが含まれている各ホストで自動的に開始されます。たとえば、 SharePointファームが4つの異なるホストで構成されているとします。この場合、ア クティビティモニターには1つの親ジョブと4つの子ジョブが表示されます。フロント エンドのWebサーバーは、すべてのジョブでクライアント名として表示されます。

5

NetBackup for SharePoint のバックアップポリシーの構 成

この章では以下の項目について説明しています。

- SharePoint Server の個別バックアップとリカバリのバックアップポリシーについて
- SharePoint ファームのバックアップとリカバリのバックアップポリシーについて
- SharePoint Server のディザスタリカバリのバックアップポリシーについて
- SharePoint Server を保護する VMware バックアップポリシーについて
- SharePoint データベースのバックアップポリシーの構成

SharePoint Server の個別バックアップとリカバリのバッ クアップポリシーについて

メモ: NetBackup 7.6 は SharePoint 2010 以前で GRT をサポートします。

SharePoint 個別バックアップでは、個別リカバリテクノロジ (GRT) を使ってバックアップ から個々の項目をリストアできます。この形式のバックアップでは、ファーム全体やディザ スタリカバリに対する保護は提供されません。GRT は完全バックアップのみをサポートし ます。NetBackupでは、あらゆる種類のスケジュールを使用して、ディザスタリカバリ用の 完全なポリシーを作成できます。ただし、増分バックアップから個々の項目をリストアする ことはできません。 ✓モ: Microsoft SharePoint Resources:¥AllWebs指示句にはバックアップに SharePoint 2010の管理のサイトが含まれます。ただし、SharePoint 2010 Central Administration Web サイトと共有サービスの管理 Web サイトの個別リカバリはサポート されません。

個々の Web アプリケーションに対して MS-SharePoint ポリシーを作成するか、または Microsoft SharePoint Resources:¥AllWebs 指示句を使ってポリシーを作成しま す。ポリシーで[個別リカバリを有効化する (Enable granular recovery)]オプションを有 効にします。(表 5-1 のポリシー A または B を参照。)

p.52 の「個別リカバリテクノロジ (GRT) を使う SharePoint バックアップの構成」を参照 してください。

表 5-1	個別リカバリの NetBackup for SharePoint ポリシーの例
-------	---

ポリシーおよび ポリシー形式	バックアップ対象	自動バック アップの間隔	個別リカ バリを有 効化する	その他の構成
ポリシー A MS-SharePoint	Microsoft SharePoint Resources:¥AllWebs	毎週 (完全バッ クアップ)	はい	バックアップイメージは、ディスクストレージユ ニット上に存在している必要があります。
ポリシー B MS-SharePoint	Microsoft SharePoint Resources:¥Web application name	毎週 (完全バッ クアップ)	はい	バックアップイメージは、ディスクストレージュ ニット上に存在している必要があります。

SharePoint ファームのバックアップとリカバリのバック アップポリシーについて

ファームレベルバックアップは SharePoint のインストールの完全なバックアップを提供します。ただし、ディザスタリカバリは、一部のコンポーネントを MS-Windows ポリシーを使用してバックアップする必要があるので提供しません。個別リカバリはこの形式のバックアップからは利用できません。このポリシーの個別リカバリを有効にすると、NetBackupはファームの SQL オブジェクトのみをバックアップします。

MS-SharePoint ポリシーを作成します。このポリシーの増分バックアップにはインデック スファイルは含めません (表 5-2 のポリシー A を参照)。または、完全バックアップと増分 バックアップの両方からインデックスファイルをエクスクルードし、そのデータベースを別 のポリシーでバックアップします。(表 5-2 のポリシー B-1 と B-2 を参照)。

p.67の「SharePointデータベースのバックアップポリシーの構成」を参照してください。

ポリシーおよび ポリシー形式	バックアップ対象	自動バック アップの間隔	個別リカ バリを有 効化する	その他の構成
ポリシー A MS-SharePoint	Microsoft SharePoint Resources:¥*	毎週 (完全バッ クアップ) 毎日 (増分バッ クアップ)	いいえ	インデックスファイルをファームの増分バックアッ プから除外し、ファームの完全バックアップに含 めます。[エクスクルードリスト (Exclude list)]に は、個々のインデックスファイルの指示句を追 加します。
				Microsoft SharePoint Resources:¥Web application name¥Index-DB*
				インデックスを別のポリシーでバックアップする 方法については、ポリシー A-2 を参照してくだ さい。
ポリシーB-1 MS-SharePoint	Microsoft SharePoint Resources:¥*	毎週 (完全バッ クアップ) 毎日 (増分バッ クアップ)	いいえ	ファームの完全バックアップおよび増分バック アップからインデックスファイルをエクスクルード します。[エクスクルードリスト (Exclude list)]に は、個々のインデックスファイルの指示句を追 加します。
				Microsoft SharePoint Resources:¥Web application name¥Index-DB*
ポリシーB-2 MS-SharePoint	Microsoft SharePoint Resources:¥Web application name¥Index-DB*	毎週 (完全バッ クアップ)	いいえ	

表 **5-2** 完全なファームバックアップの NetBackup for SharePoint ポリシーの例

SharePoint Server のディザスタリカバリのバックアップ ポリシーについて

SharePoint Server の完全なディザスタリカバリを提供するには、ファームレベルバック アップと特定のファイルシステムコンポーネントの Windows バックアップを作成する必要 があります。

MS-SharePoint ポリシーに加えて、MS-Windows ポリシーを作成します。このポリシー には、SharePoint の Web パーツがインストールされている可能性のあるファイルシステ ム、およびシステム状態の指示句 (シャドウコピーコンポーネント)を含める必要がありま す。このファイルシステムポリシーにはデータベースを含めません。データベースは、 SharePoint ポリシーのバックアップに含まれています。システム状態のバックアップによっ て IIS のメタデータが保護されます。 p.67の「SharePointデータベースのバックアップポリシーの構成」を参照してください。

ポリシーおよび ポリシー形式	バックアップ対象	自動バックアッ プの間隔	個別リカ バリを有 効化する	その他の構成
ポリシー A MS-SharePoint	Microsoft SharePoint Resources:¥*	毎週 (完全バック アップ) 毎日 (増分バック アップ)	いいえ	インデックスファイルをファームの増分バック アップから除外し、ファームの完全バックアッ プに含めます。[エクスクルードリスト(Exclude list)]には、個々のインデックスファイルの指 示句を追加します。 Microsoft SharePoint Resources:¥Web application name¥Index-DB* インデックスを別のポリシーでバックアップす る方法については、ポリシー A-2 を参照して ください。
ポリシーB-1 MS-SharePoint	Microsoft SharePoint Resources:¥*	毎週 (完全バック アップ) 毎日 (増分バック アップ)	いいえ	ファームの完全バックアップおよび増分バッ クアップからインデックスファイルをエクスク ルードします。[エクスクルードリスト (Exclude list)]には、個々のインデックスファイルの指 示句を追加します。 Microsoft SharePoint Resources:¥Web application name¥Index-DB*
ポリシーB-2 MS-SharePoint	Microsoft SharePoint Resources:¥Web application name¥Index-DB*	毎週 (完全バック アップ)	いいえ	
ポリシー C MS-Windows	Shadow Copy Components:¥ ALL_LOCAL_DRIVES	毎週 (完全バック アップ) 毎日 (増分バック アップ)	いいえ	このポリシーにはデータベースを含めません。 エクスクルードリストにはデータベースのパス を追加します。

表 **5-3** ディザスタリカバリの NetBackup for SharePoint ポリシーの例

SharePoint Server を保護する VMware バックアップポリシーについて

SharePoint サーバーを保護する VMware バックアップは、個別リカバリ、ファームの完 全な保護および Windows ファイルシステムの SharePoint コンポーネントの保護を提供 します。これらのシステムコンポーネントは SharePoint の Web パーツとシステム状態の 指示句 (シャドウコピーコンポーネント)を含んでいます。SharePoint Server を保護する VMware の増分バックアップは、このバージョンの NetBackup ではサポートされません。

SharePointを保護する VMware バックアップを構成する方法について、詳細情報を参照できます。

p.125の「VMware バックアップによる SharePoint Server データの保護について」を参照してください。

詳しくは次を参照してください『NetBackup for Exchange 管理者ガイド』。

SharePoint データベースのバックアップポリシーの構成

データベースのバックアップポリシーでは、1台以上のクライアントで構成される特定のグ ループに対するバックアップの条件を定義します。

この条件には、次のものが含まれます。

- 使用するストレージュニットおよびストレージメディア
- ポリシー属性
- バックアップスケジュール
- バックアップするクライアント

次を参照してください。『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』。

ポリシーを追加および構成する場合は、次のトピックを参照してください。

- p.69の「NetBackup for SharePointのポリシー属性について」を参照してください。
- p.70の「NetBackup for SharePoint ポリシーへのスケジュールの追加」を参照してください。
- p.75の「NetBackup for SharePoint ポリシーへのクライアントの追加」を参照してください。

新しい NetBackup for SharePoint ポリシーの追加

このトピックでは、データベース用の新しいバックアップポリシーを追加する方法について 説明します。

新しい NetBackup for SharePoint ポリシーを追加する方法

- 1 マスターサーバーに管理者 (Windows) または root ユーザー (UNIX) としてログオンします。
- 2 NetBackup 管理コンソールを起動します。

- 3 サイトに複数のマスターサーバーが存在する場合は、ポリシーを追加するマスター サーバーを選択します。
- 4 NetBackup 管理コンソールで、[NetBackup の管理 (NetBackup Management)]
 > [ポリシー (Policies)]を選択します。[処理 (Actions)] > [新規 (New)] > [新しい ポリシー (New Policy)]を選択します。
- 5 [新しいポリシーの追加 (Add a New Policy)]ダイアログボックスの[ポリシー名 (Policy name)]ボックスに、新しいポリシーの一意の名前を入力します。
- 6 [OK]をクリックします。
- 7 [新しいポリシーの追加 (Add New Policy)]ダイアログボックスで、[ポリシー形式 (Policy type)]リストから[MS-SharePoint]を選択します。

ご使用のマスターサーバーにデータベースエージェントのライセンスキーが登録されていない場合、ドロップダウンメニューにデータベースエージェントのポリシー形式は表示されません。

8 (任意)データベースバックアップからの個々の項目のリストアを有効にするには、[個別リカバリを有効化する (Enable granular recovery)]をクリックします。

p.52 の「個別リカバリテクノロジ (GRT) を使う SharePoint バックアップの構成」を 参照してください。

9 [属性 (Attributes)]タブのエントリを設定します。

p.69の「NetBackup for SharePoint のポリシー属性について」を参照してください。

- 10 その他のポリシー情報を次のように追加します。
 - スケジュールを追加します。
 p.70の「NetBackup for SharePoint ポリシーへのスケジュールの追加」を参照してください。
 - クライアントを追加します。
 p.75の「NetBackup for SharePoint ポリシーへのクライアントの追加」を参照 してください。
 - バックアップ対象リストにデータベースオブジェクトを追加します。
 p.75の「SharePoint Server ポリシーのバックアップ対象リストの作成」を参照してください。
- 11 個別リカバリテクノロジ (GRT) を使うバックアップの場合は、SharePoint ホストのリストを構成します。

p.60の「複数のサーバーを含む SharePoint ファームのリストアの構成」を参照してください。

12 必要なすべてのスケジュール、クライアントおよびバックアップ対象の追加が終了したら、[OK]をクリックします。

NetBackup for SharePoint のポリシー属性について

いくつかの例外を除き、NetBackupではファイルシステムのバックアップと同じようにデー タベースのバックアップを管理します。その他のポリシー属性は、ユーザー固有のバック アップ方針やシステム構成によって異なります。

ポリシー属性について詳しくは、次を参照してください。『Symantec NetBackup 管理者 ガイド Vol. 1』。表 5-4では、NetBackup for SharePoint ポリシーに利用可能なポリシー の属性を説明します。

属性	説明
ポリシー形式 (Policy type)	ポリシーに含めるクライアントの種類を指定します。ポリシー形式によって、そのクライアント上で NetBackup が実行可能なバックアップ形式が決定される場合もあります。SharePoint データベー スエージェントを使用するには、1 つ以上の種類の MS-SharePoint ポリシーを定義する必要があ ります。
ポリシーごとにジョブ数を 制限する (Limit jobs per policy)	このポリシーを使用して NetBackup によって並列して実行されるジョブの数を制限します。 SharePoint データベースのバックアップに使用するポリシーでは、このオプションを[1]に設定します。 す。
チェックポイントの間隔 (Take checkpoints every)	NetBackup for SharePoint のポリシーでは、チェックポイントからの再開はサポートされていません。
個別リカバリを有効化す る (Enable granular recovery)	個別リカバリテクノロジ (GRT) を使用した個々の項目のリストアを可能にします。ドキュメントライブ ラリ以外の文書 (リスト、カレンダー、掲示板など) を個別にリストアすることはできません。ユーザー は、完全バックアップからのみ個々の項目をリストアできます。
	バックアップイメージがディスクストレージユニットに存在する場合にのみ、個々の項目をリストアすることができます。個別バックアップをテープに保持する場合、イメージを複製する必要があります。 テープに複製された個別バックアップからリストアする場合、イメージをディスクストレージユニットに インポートする必要があります。
	p.53 の「SharePoint の個別リカバリテクノロジ (GRT) でサポートされるディスクストレージユニット」を参照してください。
	SharePointの GRT を有効にしたバックアップでは、暗号化や圧縮はサポートされていません。
キーワード句 (Keyword phrase)	バックアップの説明文です。バックアップおよびリストアの参照時に有効です。

表 5-4 NetBackup for SharePoint ポリシーのポリシー属性の説明

属性	説明
アクセラレータを使用す る (Use Accelerator)	このオプションを選択してNetBackupアクセラレータを使うと、VMwareの完全バックアップが高速 化されることがあります。バックアップ時間の短縮によって、VMwareバックアップをバックアップ処 理時間帯内に簡単に完了できるようになります。この機能を使うには、最初に[アクセラレータを使 用 (Use Accelerator)]を有効にして初回バックアップを実行する必要があります。以降のバックアッ プ時間はかなり減らすことができます。
	SharePoint 向けのアクセラレータのサポートは、現在、完全スケジュール形式のバックアップのみ に制限されています。この制限は、SharePointを保護する VMware バックアップをアクセラレータ なしで実行する場合にも適用されます。
	p.129 の「SharePoint Server を保護する VMware バックアップポリシーの構成」を参照してください。
	クライアントの変更検出の新しい基準を定期的に確立するには、[アクセラレータ強制再スキャン (Accelerator forced rescan)]オプションを有効にして個別のポリシースケジュールを作成します。
	この機能は MSDP または PureDisk のストレージュニットと[データ保護最適化オプション (Data Protection Optimization Option)]のライセンスを必要とします。VMware バックアップを使ったアク セラレータについて詳しくは、次を参照してください。『Symantec NetBackup for VMware 管理者 ガイド』。

NetBackup for SharePoint ポリシーへのスケジュールの追加

それぞれのポリシーには、独自のスケジュールセットがあります。このスケジュールによって、自動バックアップの開始を制御することや、ユーザーによる操作の開始時期を指定することができます。

スケジュールを NetBackup for SharePoint ポリシーに追加する方法

1 [ポリシーの変更 (Change Policy)] ダイアログボックスで、[スケジュール (Schedules)] タブをクリックします。

[ポリシーの変更 (Change Policy)] ダイアログボックスにアクセスするには、 NetBackup 管理コンソールのポリシーリスト内のポリシー名をダブルクリックします。

- 2 [新規 (New)] をクリックします。
- 3 一意のスケジュール名を指定します。
- 4 [バックアップ形式 (Type of backup)] を選択します。

p.71の「NetBackup for SharePoint Server のバックアップ形式」を参照してください。

5 バックアップ形式に適切な間隔のレベルを選択します。

6 スケジュールに対する他のプロパティを指定します。

p.71の「NetBackup for SharePoint スケジュールプロパティについて」を参照してください。

7 [OK] をクリックします。

NetBackup for SharePoint スケジュールプロパティについて

このトピックでは、データベースバックアップとファイルシステムのバックアップで意味が異なるスケジュールプロパティについて説明します。その他のスケジュールプロパティは、 ユーザー固有のバックアップ方針やシステム構成によって異なります。他のスケジュール プロパティについての詳しい情報を参照できます。

次を参照してください。『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』。

プロパティ	説明	
バックアップ形式 (Type of backup)	このスケジュールで制御するバックアップ形式を指定します。バックアップ対象のリストには、構成 するポリシーに適用されるバックアップ形式だけが表示されます。	
	p.71 の「NetBackup for SharePoint Server のバックアップ形式」を参照してください。	
スケジュール形式 (Schedule Type)	 次のいずれかの方法でバックアップをスケジュールできます。 間隔(Frequency) この設定は自動スケジュールのみに使います。アプリケーションスケジュールには使いません。 間隔(Frequency)は、このスケジュールで次のバックアップ操作が開始するまでの期間を指 定します。たとえば、バックアップ間隔を7日に設定して、正常なバックアップが水曜日に行わ れるように設定したとします。次の完全バックアップは、次の水曜日まで行われません。通常、 増分バックアップは、完全バックアップより短い間隔で行います。 カレンダー(Calendar) この設定は、スケジュールのみに使います。アプリケーションスケジュールには使いません。特 定の日付、週の特定の曜日または月の特定の日に基づいてバックアップ操作をスケジュール することができます。 	
保持 (Retention)	ファイルのバックアップコピーを削除するまでの保持期間を指定します。保持レベルは、ポリシー 内のスケジュールの優先度も示します。レベルが高くなると、優先度も高くなります。データベース の2つ以上の完全バックアップが保持されるように期間を設定します。このようにすると、1つの完 全バックアップが失われた場合に、リストアする完全バックアップがもう1つあります。たとえば、 データベースが毎週日曜日の朝に一度バックアップされる場合、少なくとも2週の保持期間を選 択する必要があります。	

表 5-5 スケジュールプロパティの説明

NetBackup for SharePoint Server のバックアップ形式

表 5-6 に、SharePoint エージェントで使用可能なバックアップ形式を示します。

バックアップ形式	説明
完全バックアップ (Full Backup)	SharePointコンポーネントデータベース全体をバックアップする場合 に、このバックアップ形式を選択します。個別レベルのバックアップは、 完全バックアップを使用して実行する必要があります。
	完全バックアップがサポートされているオブジェクトのリストを利用できます。
	SharePoint 2010 の場合は、表 5-7 を参照してください。
	SharePoint 2007 の場合は、表 5-8 を参照してください。
ユーザーバックアップ (User Backup)	ユーザーバックアップは自動的にスケジュールされないため、フロントエ ンドの Web サーバーから開始する必要があります。このスケジュール では個別リカバリを実行できます。
	ユーザーバックアップ用に個別のポリシーが必要になる場合がありま す。個別のポリシーを使用することで、ファイルのリストアを行うときに、 そのファイルがユーザー主導バックアップによるものか、またはスケジュー ルバックアップによるものかを簡単に区別できます。ユーザーバックアッ プのスケジュール形式ごとに異なるポリシーを作成する際に考慮するこ とは、自動バックアップの場合と同様です。ユーザーがファイルを選択 した後にバックアップが開始されるため、バックアップ対象のリストは不 要です。
累積増分バックアップ (Cumulative Incremental Backup)	このバックアップ形式は、SharePoint Server ではサポートされていません。

表 5-6 バックアップ形式の説明
バックアップ形式	説明
差分増分バックアップ (Differential Incremental Backup)	最後の完全バックアップまたは以前に取得した増分バックアップ以降に データベースに加えられた変更だけをバックアップする場合に、このバッ クアップ形式を選択します。増分バックアップから個々の項目をリストア することはできません。
	増分バックアップがサポートされているオブジェクトのリストを利用できます。
	SharePoint 2010 の場合は、表 5-8 を参照してください。
	SharePoint 2007 の場合は、表 5-8 を参照してください。
	メモ: SharePoint 2007 共有検索インデックスデータベースとインデックスファイルは完全バックアップのみをサポートします。そのため、差分増分バックアップスケジュールにこれらのデータベースを含めないことをお勧めします。これらのデータベースがこのスケジュール形式に含まれている場合、増分バックアップの実行時に完全バックアップが実行されます。 メモ: 個別レベルのバックアップでは、増分バックアップはサポートされません。

表 5-7 に、SharePoint Server 2010 および SharePoint Foundation オブジェクトでサポートされているスケジュール形式を示します。

表 **5-7** SharePoint Server 2010 および SharePoint Foundation オブジェクト でサポートされているスケジュール形式

SharePoint 2010/SharePoint Foundation オブジェクト	スケジュール形式
構成データベース	完全バックアップ、差分増分バックアップ
グローバル設定	完全バックアップ、差分増分バックアップ
シングルサインオン	完全バックアップ、差分増分バックアップ
Web アプリケーション/コンテンツデータベース (文書の個別リストアを含む)	完全バックアップ
WSS ヘルプ検索/インデックスファイル	完全バックアップ
WSS ヘルプ検索/検索データベース	完全バックアップ、差分増分バックアップ
WSS管理/Webアプリケーション/コンテンツデー タベース	完全バックアップ、差分増分バックアップ
共有サービス/サービスデータベース	完全バックアップ、差分増分バックアップ

SharePoint 2010/SharePoint Foundation オブジェクト	スケジュール形式
共有サービス/共有検索インデックス/インデック スファイル	完全バックアップ
共有サービス/共有検索インデックス/検索デー タベース	完全バックアップ、差分増分バックアップ
共有サービス/Web アプリケーション/コンテンツ データベース	完全バックアップ、差分増分バックアップ

表 5-8 に、SharePoint Server 2007 および WSS オブジェクトでサポートされているス ケジュール形式を示します。

表 5-8 SharePoint Server 2007 および WSS オブジェクトでサポートされて いるスケジュール形式

SharePoint 2007/WSS オブジェクト	スケジュール形式
構成データベース	完全バックアップ、差分増分バックアップ
グローバル設定	完全バックアップ、差分増分バックアップ
シングルサインオン	完全バックアップ、差分増分バックアップ
Web アプリケーション/コンテンツデータベース (文書の個別リストアを含む)	完全バックアップ
WSS ヘルプ検索/インデックスファイル	完全バックアップ
WSS ヘルプ検索/検索データベース	完全バックアップ、差分増分バックアップ
WSS管理/Webアプリケーション/コンテンツデー タベース	完全バックアップ、差分増分バックアップ
共有サービス/サービスデータベース	完全バックアップ、差分増分バックアップ
共有サービス/共有検索インデックス/インデック スファイル	完全バックアップ
共有サービス/共有検索インデックス/検索デー タベース	完全バックアップ、差分増分バックアップ
共有サービス/Web アプリケーション/コンテンツ データベース	完全バックアップ、差分増分バックアップ

NetBackup for SharePoint ポリシーへのクライアントの追加

クライアントリストには、自動バックアップの対象になるクライアントが表示されます。 NetBackup クライアントは、1 つ以上のポリシー内に存在している必要があり、複数のポ リシー内に存在することも可能です。

NetBackup クライアントソフトウェアは、フロントエンドの Web サーバー、SQL データベー スホスト、インデックスファイルまたはインデックスデータベースホストのそれぞれにインス トールされている必要があります。クライアントソフトウェアは、検索サーバーまたはジョブ サーバーにインストールされている必要はありません。

クライアントを NetBackup for SharePoint ポリシーに追加する方法

- 1 [ポリシーの変更 (Change Policy)]ダイアログボックスにアクセスするには、 NetBackup 管理コンソールのポリシーリスト内のポリシー名をダブルクリックします。
- 2 [ポリシーの変更 (Change Policy)]ダイアログボックスで、[クライアント(Clients)]タ ブをクリックします。
- 3 [新規 (New)]をクリックします。
- 4 クライアントの名前を入力し、Enterキーを押すか(Windows)、または[追加(Add)] をクリックします (Java)。

フロントエンドの Web サーバーであり、集中管理サーバーを実行しているクライアントのみをポリシーリストに追加します。

- 5 (Windows) さらにクライアントを追加するには、手順 3 および 4 を繰り返します。
- 6 (Java) さらにクライアントを追加するには、手順 4 を繰り返します。
- 7 他に追加するクライアントがない場合は、[OK]をクリックします。
- 8 (Java)[ポリシー (Policy)]ダイアログボックスで、[閉じる (Close)]をクリックします。

SharePoint Server ポリシーのバックアップ対象リストの作成

バックアップ対象リストでは、バックアップを行う SharePoint オブジェクト、および複数デー タストリーム用にグループ化した SharePoint オブジェクトが定義されます。ファーム全体 を指定するか、または SharePoint コンポーネント (シングルサインオンデータベース、構 成データベース、コンテンツデータベースなど) を個別にバックアップできます。 ワイルド カードを使って、オブジェクトのグループを指定することもできます。

バックアップ対象の作成には参照機能を使用することをお勧めします。SharePointオブ ジェクトの名前は長いため、指示句を追加および編集してバックアップ対象を作成すると きに、オブジェクト名を誤って入力しがちです。Microsoft SharePoint

Resources:¥Allwebs指示句は例外です。すべてのWebアプリケーションをバックアップする場合はこの指示句を使用します。Webアプリケーションごとにバックアップ対象を 個別に追加する必要がありません。 SharePoint オブジェクトを参照するには、SharePoint Server のログオンアカウントのクレデンシャルを指定する必要があります。

p.58の「SharePoint アプリケーションサーバーにログオンするアカウントの指定」を参照してください。

複数データのストリームでバックアップを実行するには、ポリシーの[属性 (Attributes)]タ ブでこの機能を有効にして、NEW STREAM 指示句でバックアップストリームを定義する必 要があります。

SharePoint Server オブジェクトのバックアップを実行するバック アップ対象リストの作成

SharePoint Server オブジェクトのバックアップを実行する[バックアップ対象 (Backup Selections)]リストを作成する方法

- 1 [ポリシーの変更 (Change Policy)]ダイアログボックスで、[バックアップ対象 (Backup Selections)]タブをクリックします。
- 2 [新規 (New)]をクリックします。
- 3 参照する SharePoint オブジェクトが含まれるフォルダアイコンをクリックします。
- 4 左ペインでクライアントを展開し、バックアップするオブジェクトを選択します。

[属性 (Attributes)]タブの[個別リカバリを有効化する (Enable granular recovery)] が選択されている場合は、Web アプリケーションのみが表示されます。

- 5 [OK]をクリックします。
- 6 追加する各オブジェクトに対して、手順2から手順5を繰り返します。

すべての Web アプリケーションを対象とするバックアップ対象項 目の作成

すべての Web アプリケーションを対象とする[バックアップ対象 (Backup Selections)] 項目を作成する方法

- 1 [ポリシーの変更 (Change Policy)]ダイアログボックスで、[バックアップ対象 (Backup Selections)]タブをクリックします。
- 2 [新規 (New)]をクリックします。
- 3 編集ボックスをクリックし、Microsoft SharePoint Resources:¥AllWebs と入力しま す。

この指示句は両方の Web アプリケーションに有効です。

複数データストリームを使用する SharePoint バックアップの実行

NetBackup では、バックアップを分割して、複数のジョブでそれぞれバックアップ対象リ ストの一部だけをバックアップするようにできます。複数のジョブにバックアップを分割す るには、バックアップ対象リストの特定のポイントにNEW_STREAM指示句を挿入して、それ ぞれのストリームを開始する位置を定義します。

バックアップジョブは次のように分割されます。

- ポリシーに NEW_STREAM 指示句を指定すると、NetBackup はポリシーのそれぞれの NEW STREAM 指示句について新しいジョブを作成します。
- ワイルドカード文字を使用してバックアップ対象リストにSharePointオブジェクトを定義した場合は、対応するオブジェクトは同じストリームにバックアップされます。
- 複数の SharePoint データベースをバックアップする場合、NetBackup では選択されたサーバーごとにバックアップジョブをグループ化します。

複数データストリームの機能について詳しくは、次を参照してください。『Symantec NetBackup for VMware 管理者ガイド』。

SharePoint のバックアップ対象リストでのワイルドカードの使用

ワイルドカード文字を使用して、データベースのグループを定義することができます。この 方法では、[バックアップ対象 (Backup Selections)]リストでオブジェクトを個別に指定し なくても、複数のオブジェクトのバックアップが可能です。たとえば、多数の Web アプリ ケーションを利用しているファームや、多数のコンテンツデータベースを使用する Web アプリケーションを構築している場合があります。次のように、ワイルドカード文字を使用し て Web アプリケーションのグループを指定して、NEW_STREAM 指示句を使用してバック アップを複数ジョブに分割できます。



p.76の「複数データストリームを使用する SharePoint バックアップの実行」を参照してください。

表 5-9 サポートされているワイルドカード文字

ワイルドカード文字	処理
アスタリスク (*)	0(ゼロ)を含めて任意の数の文字の代わりに使用します。文 字列の最後の文字としてアスタリスクを指定します。
	例: a で始まるすべてのオブジェクトを指定するには、a* を 使用します。

ワイルドカード文字	処理
疑問符 (?)	名前に含まれる1つ以上の文字の代わりに使用します。
	例 1: 文字列 s?z は、最初の文字が s、2 番目が任意の文字、3 番目の文字が z であるすべてのオブジェクトを処理します。
	例 2: 文字列 Data??se は、最初の 4 文字が Data、5 番目と6 番目が任意の文字、7 番目と8 番目の文字が se であるすべてのオブジェクトを処理します。
左右の角カッコ ([])	角カッコで囲まれた任意の 1 文字と一致させるために使用 します。マイナス (-) は、ある範囲の連続する文字を示すた めに使用できます。たとえば、[0-9] は [0123456789] と同じ です。
	メモ: マイナス (-) は、文字列の末尾で使用された場合、この特別な意味を失います。
	メモ:右角カッコ())が角カッコで囲まれた文字列内の先頭の文字である場合、その右角カッコは文字列の終わりを意味しません。たとえば、[] a-f]は右角カッコ())、またはaからfまでのASCII文字のいずれかと一致します。アスタリスク(*)および疑問符(?)は、角カッコで囲まれた文字列内ではワイルドカードとしてではなく、本来の文字として扱われます。

[バックアップ対象 (Backup Selections)]リストでワイルドカード文字を使用する場合、次の規則が適用されます。

- 使用できるワイルドカードパターンの数は、1つの[バックアップ対象 (Backup Selections)]リストのエントリにつき1つだけです。
- ワイルドカードが認識されない場合は、通常の文字として処理されます。

```
    ワイルドカードパターンが有効なのは、パス名の最後のセグメントだけです。

適切な例
Microsoft SharePoint Resources:¥WebApp*
Microsoft SharePoint Resources:¥WebApp[A-D]
Microsoft SharePoint Resources:¥WebAppDept?

    不適切な例
Microsoft SharePoint Resources:¥Shared Services¥*¥Content DB
```

SharePoint クライアントのエクスクルードリストの構成

特定の SharePoint オブジェクトを除外する必要がある場合は、エクスクルードリストを作成します。 NetBackup が NetBackup for SharePoint のバックアップポリシーを実行する、 NetBackup はエクスクルードリストに指定された項目を無視します。

NetBackup 管理コンソールを使用してエクスクルードリストを作成する方法について詳しくは、次を参照してください。『NetBackup for VMware 管理者ガイド』。

NetBackup はある特定のファイルとディレクトリをデフォルトで除外します。これらのデフォルトの除外は、管理コンソールのエクスクルードリストに常時表示されています。デフォルトの除外は次の通りです。

- C:¥Program Files¥Veritas¥NetBackup¥bin¥bprd.d¥*.lock
- C:¥Program Files¥Veritas¥NetBackup¥bin¥bpsched.d¥*.lock
- C:¥Program Files¥Veritas¥NetBackupDB¥data¥*
- C:¥Program Files¥Veritas¥Volmgr¥misc¥*

SharePoint 2010 または SharePoint 2007 の場合は、バックアップから SharePoint オ ブジェクトを除外できます。[すべてのポリシー (All Policies)]または特定のポリシーかス ケジュールでエクスクルードリストエントリを指定できます。

SharePointオブジェクト名が長い可能性があります。エクスクルードリストにはオブジェクト名を手動で入力できます。または、NetBackupポリシーウィンドウからのリモート参照によりオブジェクトを見つけたほうが簡単な場合があります。次に、その場所からエクスクルードリストにオブジェクト名をコピーします。

次の図に、SharePoint Web アプリケーション 1 つが含まれたエクスクルードリストを示します。



図 5-1 2 つの SharePoint データベースのエクスクルードリスト

メモ:クラスタ内の MS-SQL サーバーの場合、各ノードを選択し、各ノードの構成手順を 実行します。各ノードで同じ設定を構成する必要があります。クライアントの仮想ホスト名 の属性を変更する場合、NetBackup はアクティブノードまたは現在のノードのみを更新 します。

SharePoint クライアントのエクスクルードリストを構成するには

- 1 NetBackup 管理コンソールまたはリモート管理コンソールを開きます。
- 左ペインで、[NetBackup の管理 (NetBackup Administration)]>[ホストプロパティ (Host Properties)]>[クライアント (Clients)]を展開します。
- 3 右ペインで、構成する SharePoint クライアントを選択します。
- 4 [処理 (Actions)]の[プロパティ (Properties)]をクリックします。
- 5 [Windows クライアント (Windows Client)]を展開して、[エクスクルードリスト (Exclude Lists)]をクリックします。
- 6 [追加 (Add)]をクリックします。
- 7 次のいずれかの方法で除外するオブジェクトを指定します。
 - [ポリシー (Policy)]フィールドで、[<<すべてのポリシー >> (<<All Policies
 >>)]を選択するか、特定のポリシーの名前を入力します。

- [スケジュール (Schedules)]フィールドで、[<<すべてのスケジュール>> (<<All Schedules >>)]を選択するか、特定のスケジュールの名前を入力します。
- [ファイル/ディレクトリ (Files/Directories)]フィールドに次の形式で SharePoint オブジェクトの名前を入力します。
 SharePoint 2010 Web アプリケーションの場合:

Microsoft SharePoint Resources: ¥Windows SharePoint Foundation Web Application ¥app name

SharePoint 2007 Web アプリケーションの場合:

Microsoft SharePoint Resources: ¥Windows SharePoint Services Web Application ¥app name

- 特定のデータベースを除外するには、Webアプリケーション名の後に特定のデータベース名を入力します。
- インデックスファイルを除外するには、インデックスファイルの SharePoint 名 を入力します。
- 8 環境内の他のノードで、手順3から手順7を繰り返します(該当する場合のみ)。

NetBackup 環境がクラスタ化またはレプリケートされている場合にこの手順を実行します。

仮想クライアントの名前を指定する場合は、アクティブノードまたは現在のノードのみが更新されます。クラスタ全体で変更を有効にするには、各ノードの構成手順を繰り返します。

SharePoint Server、 SharePoint Foundation、 Windows SharePoint Services のバックアップおよ びリストアの実行

この章では以下の項目について説明しています。

- SharePoint Server、SharePoint Foundation、Windows SharePoint Services の ユーザー主導バックアップ
- SharePoint Server、SharePoint Foundation、Windows SharePoint Services の リストア

SharePoint Server、SharePoint Foundation、Windows SharePoint Services のユーザー主導バックアップ

SharePoint Server のユーザー主導バックアップは、フロントエンドの Web サーバーから実行する必要があります。コンテンツ、サービスおよびユーザープロファイルデータベースは同時にバックアップします。

ユーザーバックアップスケジュールがあるポリシーで一貫性チェックが有効な場合、これ らのチェックはユーザー主導バックアップの前にも実行されます。 メモ: SharePoint リソースを参照するときに複数のバックアップウィンドウを NetBackup クライアントで開くと、ウィンドウは異常終了する場合があります。バックアップのために SharePoint リソースを参照する場合は、1 つのバックアップウィンドウを使用してください。

SharePoint Server バックアップ操作を実行するサーバーおよびクライアントの指定

SharePoint Server のユーザーバックアップを実行する場合に、バックアップを行うサーバーを指定できます。

バックアップ操作のためのサーバーおよびクライアントを指定する方法

- 1 サーバーに管理者としてログオンします。
- 2 バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを開きます。
- **3** [ファイル (File)]>[NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)]を選択します。
- **4** [NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)]ダイアログボックスで、次の情報を入力します。

バックアップおよびリストアに使 バックアップを実行するサーバーを選択します。 用するサーバー (Server to use for backups and restores)

リストアのソースクライアント(ま SharePoint バックアップでは使用できません。 たはバックアップに使用する仮 想クライアント) (Source client for restores (or virtual client for backups))

5 [OK]をクリックします。

NetBackup for SharePoint のバックアップオプションについて

表 6-1 に、SharePoint Server のバックアップの実行で利用可能なオプションを示します。

表 6-1 パ	バックアップオプション
---------	--------------------

オプション	説明
バックアップに使用する NetBackup サーバー (Backup to NetBackup server)	バックアップを実行する NetBackup サーバーを指定します。
バックアップ対象としてマー クされた項目 (Items marked to be backed up)	バックアップの対象となるオブジェクトのリストが表示されます。
このバックアップまたはアー カイブと関連付けるキー ワード句 (Keyword phrase to associate with the backup or archive)	このバックアップ操作で作成されるイメージと関連付けるキーワード句 を、128 文字以内で指定します。後で、そのキーワード句を[バック アップの検索 (Search Backups)] ダイアログボックスで指定して、イ メージのリストアを行うことができます。 空白 (「」) およびピリオド (「.」) を含むすべての印字可能な文字列を 指定できます。デフォルトのキーワード句は NULL (空) 文字列です。

p.84 の「SharePoint Server、SharePoint Foundation または Windows SharePoint Services のユーザー主導バックアップの実行」を参照してください。

p.102の「完全データベースバックアップからの個々の SharePoint 項目のリストア」を参照してください。

SharePoint Server、SharePoint Foundation または Windows SharePoint Services のユーザー主導バックアップの実行

この項では、SharePoint Server、SharePoint Foundation または Windows SharePoint Services のユーザー主導バックアップを実行する方法について説明します。

SharePoint リソースをバックアップする方法

- 1 サーバーに管理者としてログオンします。
- 2 バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを開きます。
- **3** [ファイル (File)]>[バックアップするファイルおよびフォルダの選択 (Select Files and Folders to Back Up)] を選択します。
- **4** [バックアップ (Backup)] ウィンドウの [すべてのフォルダ (All Folders)] ペインで、 [Microsoft SharePoint Resources] を展開します。
- 5 バックアップを行うオブジェクトを選択します。

6 [処理 (Actions)]>[バックアップ (Backup)] を選択します。

p.83の「**NetBackup for SharePoint**のバックアップオプションについて」を参照 してください。

7 [バックアップ (Backup Files)] ダイアログボックスで、[バックアップの開始 (Start Backup)] を選択します。

バックアップの進捗状況を表示する場合、[はい(Yes)]をクリックします。バックアップの進捗状況を表示しない場合、[いいえ (No)]をクリックします。

p.82の「SharePoint Server、SharePoint Foundation、Windows SharePoint Services のユーザー主導バックアップ」を参照してください。

p.102の「完全データベースバックアップからの個々の SharePoint 項目のリストア」を参照してください。

SharePoint Server、SharePoint Foundation、Windows SharePoint Services のリストア

リストアを実行する場合、次のことに注意してください。

- NetBackup for SharePoint エージェントは、バックアップが最初に作成されたときと 同じ Microsoft Service Pack (SP) または累積更新プログラム (CU) へのリストアを サポートします。Microsoft 社は SP や CU のデータベーススキーマに変更を加える ことがあります。異なるレベルの SP または CU にリストアすると、データベースサー バーが正しく動作しないことがあります。
- 管理者は、NetBackupマスターサーバーまたはSharePointフロントエンドサーバー からリストアを行います。
- リストアのアイテムを選択する場合、「すべてのフォルダ (All Folders)]ペインの項目 を選択(またはマーク付け)しないでください。「すべてのフォルダ (All Folders)]ペイ ンでクリックし、親フォルダのチェックボックスは選択しないでください。次に、「内容 (Contents)]ペインで、リストアする特定のオブジェクトを選択します。
- 構成データベースには、SharePointのサーバーファーム全体の構成情報がすべて 含まれています。このデータベースをリストアすると、バックアップの実行後にファーム のトポロジーに対して行われた変更はすべて失われるため、注意してください。
- Webアプリケーションのすべてではなく一部のコンテンツデータベースをリストアに選択する場合、Webアプリケーションはプロビジョニングされていません。選択したコンテンツデータベースをリストアした後、それらのデータベースは再接続されます。
- SharePointのコンポーネントが複数のコンピュータにある場合でも、すべてのバック アップは同じSharePointサーバー名の下でカタログ化されます。そのサーバー名を 選択すると、SharePoint環境で利用可能なすべてのバックアップイメージが表示さ れます。

- リストアをファイルシステムにリダイレクトすると、選択したリスト項目はリストアされず、0 KBのファイルとして表示されます。
- GRTを使うリストアはディスクストレージユニットから行う必要があります。テープコピー からのリストアは実行できません。
- SharePoint 2010 Central Administration Web サイトと共有サービス管理 Web サイトの個別リカバリはサポートされません。
- ドキュメント、画像またはリスト項目の個別リカバリを実行する場合、これらの項目の ワークフローでの状態は保持されません。

SharePoint Server リストア操作を実行するサーバー、クライアントおよ びポリシー形式の指定

リストアを実行する場合、次の情報を選択します。

- バックアップを実行したマスターサーバー
- バックアップされた SharePoint フロントエンドクライアント
- SharePoint ポリシー形式

SharePoint Server リストア操作を実行するサーバー、クライアントおよびポリシー形式 を指定する方法

- 1 サーバーに管理者としてログオンします。
- 2 バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを開きます。
- **3** [ファイル (File)]>[NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)]をクリックします。
- 4 [NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)]ダイアログボックスで[バックアップおよびリストアに使用するサー バー (Server to use for backups and restores)]のリストからリストアを実行した NetBackup サーバーを選択します。
- 5 [リストアのソースクライアント (Source client for restores)]リストから、クライアントを 選択します。

ソースクライアントは、表示するバックアップイメージが存在する SharePoint Server のフロントエンドクライアントです。

- 6 [リストアのポリシー形式 (Policy type for restores)]リストから、[MS-SharePoint]を 選択します。
- 7 [OK]をクリックします。

SharePoint Server の[Microsoft SharePoint]タブのリストアオプション

このタブでは、リストアジョブの終了後にデータベースがオンラインになるように選択できます。また、異なる場所を指定して、そこに Web アプリケーションをリダイレクトさせることもできます。リダイレクトリストアの宛先となるファームと Web アプリケーションは、既存のものである必要があります。

オプション	説明
リストアされたデータベー スをオンラインにして、前 のデータベースリンクに 再接続する (Bring restored databases online and reconnect previous database links)	このオプションを選択すると、リストアジョブの終了後、データベースがオンラインになります。このオ プションでは、リストアされたデータベースと、対応する Web アプリケーション間のリンクも再確立さ れます。
既存の Internet Information Services (IIS) の Web サイトおよ びアプリケーションプー ルを維持する (Preserve existing Internet Information Services (IIS) Web site and application pool)	リストアする SharePoint Web アプリケーションの Web サイトおよびアプリケーションプールがすで にIIS に存在する場合、これらはリストア中に維持されます。このオプションにチェックマークが付い ていない場合、Web サイトおよびアプリケーションプールは、リストア中にIIS から削除されます。削 除後、SharePoint が指定するデフォルトの場所に再作成されます。

表 6-2 [Microsoft SharePoint]タブ

オプション	説明
リストア先でバージョン管 理が有効な場合 (If versioning is enabled on the restore destination)	個々の項目または文書のリストア先でパージョン管理が有効な場合は、次のいずれかのオプション を選択します。 新しいパージョンとして追加 (Add as a new version) NetBackup では既存の項目または文書が新しいパージョンとしてリストアされ、最新パージョン の既存の項目になります。たとえば、5 つのパージョンの testfile.doc が存在し、パージョ ン2.0のファイルをリストアするように選択したとします。ファイルがリストアされると、そのファイル は最新パージョンである testfile.doc 6.0 として追加されます。 項目が存在する場合はスキップ (Skip if the item exists) リストア先に同じ項目または文書が存在する場合、項目はリストアされません。ジョブログに、ファ イルがスキップされたことが記録されます。 既存の項目にリストア (Restore over existing items) 既存の項目が新しいパージョンとしてリストアされ、既存のバージョンが削除されます。 たとえば、パージョン履歴が次のとおりであるとします。 testfile.doc version 3.0 testfile.doc version 1.0 testfile.doc version 1.0 testfile.doc version 4.0 testfile.doc version 3.0 testfile.doc version 3.0 testfile.doc version 4.0 testfile.doc version 1.0
リストア先でバージョン管 理が無効な場合 (If versioning is not enabled on the restore destination)	 個々の項目のリストア先でバージョン管理が有効でない場合は、次のいずれかのオプションを選択します。 項目が存在する場合はスキップ (Skip if the item exists) リストア先に同じ項目が存在する場合、項目はリストアされません。ログに、ファイルがスキップされたことが記載されます。 既存の項目にリストア (Restore over existing items) 既存の項目は、リストアされた項目に置き換えられます。
項目の最新のバージョン のみリストアする (Restore only the most recent version of an item)	項目の最新バージョンをリストアする場合にのみ、このオプションにチェックマークを付けます。リス トア対象として選択したバージョンのうち最新のバージョンがリストアされます。より新しいバージョン が存在する場合でも、リストアの対象に選択されていないときは、そのバージョンはリストアされませ ん。

オプション	説明
セキュリティ情報を含む (Include security information)	項目に該当するセキュリティ情報をリストアする場合は、このオプションにチェックマークを付けます。 セキュリティ情報がリストアされるのは、親フォルダを選択した場合のみです。個々の項目を選択し た場合はリストアされません。たとえば、セキュリティ情報は、共有文書を選択した場合はリストアされ ますが、個々の文書を選択した場合はリストアされません。ただし、個々のオブジェクトに「制限付き アクセス」が定義されたユーザー権限がある場合があります。この場合、それらのユーザーの権限 はそのオブジェクトとともにリストアされません。
	リストアする SharePoint 項目に基づいてさまざまなレベルのセキュリティをリストアできます。
	 サイト ユーザーおよび SharePoint グループの情報と、セキュリティ ACL が最上位サイトに対してリストアされます。 サブサイト
	セキュリティ ACL がリストアされます。
	 リスト セキュリティ ACL およびその他のセキュリティ関連情報がリストアされます。
SharePoint リソースをリ ダイレクトする (Redirect SharePoint Resources)	Web アプリケーションをリダイレクトするには、このオプションにチェックマークを付けます。その後、 次のいずれかをクリックします。
	 Web アブリケーション 代参 SOL インスタンス (Alternate SOL instance)
	 個別の SharePoint のサイト、文書、リスト、項目 (Individual SharePoint sites, documents, lists or items)
	パスにリダイレクトできるのは文書または画像のみです。
Web アプリケーション	Webアプリケーションを別のWebアプリケーションにリダイレクトするには、このオプションを選択します。
	 [URL]フィールドに、宛先サイトの URL を指定します。たとえば、 http://URL to Web application
	■ [フロントエンド Web サーバー名 (Front end web server name)]フィールドに、リダイレクトする Web サーバーのホスト名を指定します。宛先の場所には Web サーバーが存在している必要があります。
	p.113の「ファーム内の SharePoint Web アプリケーションのリダイレクトリストア」を参照してください。
	p.116の「別のファームへの SharePoint Web アプリケーションのリダイレクトリストア」を参照してください。

オプション	説明
代替 SQL インスタンス (Alternate SQL instance)	メモ:リダイレクトするデータベースを1つのみ選択します。複数のデータベースを選択した場合、 すべてのデータベースがターゲットのデータベースに書き込まれます。
,	Web アプリケーションを代替 SQL インスタンスにリダイレクトするには、このオプションを選択します。
	[SQL Server¥インスタンス (SQL Server¥Instance)]フィールドに、ターゲットの SQL Server の 名前とターゲットのインスタンス名を指定します。
	[ターゲットデータベース (Target Database)]フィールドに、ターゲットデータベースの名前を指定します。
	p.119の「SharePoint サーバー Web アプリケーションコンテンツデータベースの代替 SQL インス タンスへのリストアのリダイレクト」を参照してください。
個別の SharePoint のサ イト、文書、リスト、項目 (Individual SharePoint sites, documents, lists or items)	[個別の SharePoint のサイト、文書、リスト、項目 (Individual SharePoint sites, documents, lists or items)]をクリックして項目をリダイレクトします。
	[ドライブまたは UNC パスにリストア (Restore to drive or UNC path)]フィールドに、ドライブ文字 とパスまたは UNC パスを入力します。 UNC パスには ¥¥servername¥share の形式を使用しま す。

SharePoint Server の [全般 (General)] タブのリストアオプション

このタブのオプションは、NetBackup for SharePoint ではサポートされません。

Web アプリケーションをリダイレクトする場合、別の手順を実行する必要があります。

p.113の「ファーム内の SharePoint Web アプリケーションのリダイレクトリストア」を参照 してください。

p.116の「別のファームへの SharePoint Web アプリケーションのリダイレクトリストア」を参照してください。

NetBackup Recovery Assistant を使って SharePoint Server、 SharePoint Foundation、Windows SharePoint Services をリストアす る方法

NetBackup Recovery Assistant は、Webアプリケーションの各データベースリストアジョ ブを開始します。データベースは適切な順序でリストアされるため、動作しているWebア プリケーションが存在した状態でリストアは完了します。すべてのデータベースがリストア された後、選択した項目のリストアが1つのジョブで行われます。

SharePoint 2010 の場合、Recovery Assistant は次の順序でオブジェクトをリストアします。

- 構成データベース (アシスタントツールがディザスタリカバリモードで実行されている 場合のみ)
- コンテンツデータベース
- サービスデータベース
- インデックスファイル
- 文書セット、文書、リストなど

SharePoint 2007 の場合、Recovery Assistant は次の順序でオブジェクトをリストアします。

- 構成データベース (アシスタントツールがディザスタリカバリモードで実行されている 場合のみ)
- コンテンツデータベース
- サービスデータベース
- インデックスファイル
- シングルサインオンデータベース
- 文書、リストなど

データベース構成に検出されないオブジェクトはスキップされます。各リストアでは、選択 したオブジェクトおよびバックアップイメージに応じて、コンポーネントの一部のみがリスト アされる場合があります。項目をリストアするときに、コンテンツデータベース全体またはド キュメントライブラリ全体のリストアは行われません。

SharePoint Server、SharePoint Foundation または Windows SharePoint Services のリストア

複数の SharePoint Server リソースを同時にリストアすることができます。リソースのリスト ア順序は、NetBackup Recovery Assistant によって決定されます。別々のリストア操作 で任意の SharePoint リソースをリストアすることができます。

メモ: NetBackup では、プレースホルダをリストアすることができます。 NetBackup では、 文書を保持できるオブジェクトをリストアすることもできます (文書を保持していない場合も 可能)。

SharePoint Server、SharePoint Foundation または Windows SharePoint Services のリストア

1 フロントエンドの Web サーバーで、ファームの SQL ホストへのリダイレクトリストアを 有効にします。

バックアップは結合 SharePointファームのフロントエンドのクライアント名でカタログ 化されるため、リダイレクトリストアが実行されます。

p.60の「複数のサーバーを含む SharePoint ファームのリストアの構成」を参照してください。

- 2 管理者としてログオンします。
- 3 バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを開きます。
- 4 [ファイル (File)]>[リストアするファイルおよびフォルダの選択 (Select Files and Folders to Restore)]>[通常バックアップからリストア (from Normal Backup)]を選 択します。
- **5** [MS-SharePoint] ポリシー形式を選択します。

p.86の「SharePoint Server リストア操作を実行するサーバー、クライアントおよび ポリシー形式の指定」を参照してください。

6 [OK] をクリックします。

SharePoint Server のバックアップイメージが表示されます。

- 7 [NetBackup の履歴 (NetBackup History)] ペインで、リストアを行うオブジェクトが 含まれているイメージを選択します。
 - 最後の完全バックアップ
 - 最後の完全バックアップおよびそれ以降のすべての差分増分バックアップ
- 8 [すべてのフォルダ (All Folders)] ペインで、[Microsoft SharePoint Resources] を展開します。

メモ:項目を選択してリストアする場合、[すべてのフォルダ (All folders)] ペインの 項目のチェックボックスにチェックマークを付けません。[内容 (Contents of)] ペイ ンの項目のチェックボックスにのみチェックマークを付けます。

9 [内容 (Contents of)] ペインでは、リストアするために SharePoint リソースのチェッ クボックスにチェックマークを付けます。

データベースを選択するには、[すべてのフォルダ (All Folders)] ペインの親フォ ルダをクリックします (チェックボックスにチェックマークは付けません)。[内容 (Contents of)] ペインのデータベースのチェックボックスにチェックマークを付けま す。 次のイメージは SharePoint 2010 コンテンツデータベースのリストアを示します。

🚮 Ba	ackup, Archive, and Restore - NetBackup - [Restore: Server:	Source Client:	
💆 E	jile Edit <u>V</u> iew <u>A</u> ctions <u>W</u> indow <u>H</u> elp		<u>_ 8 ×</u>
	Select for Backup 🛛 💐 Select for Restore 🕞 👘 View Status 🗧	D 💥 🥔	
Ħ	All Folders	Contents of 'Microsoft SharePoint Resources:\M	icrosoft Sha
	🖃 🖳 🖳 Haaradala Daeran	Name	Time Backs
<u>5</u>	🖻 💹 🚼 Microsoft SharePoint Resources	WS5_Content_052cd84a370f4557b2	3/22/2010
32	E - Ura ConfigurationV4-DB (SHAREPOINT'		
	InfoPath Forms Services		
2	🚊 🔽 🖙 Microsoft SharePoint Foundation Web Application		
	🖻 🔽 🧰 SharePoint - 17777		
-%	🖻 🗹 🗁 Content-DB 1 (
	🗄 🔲 🛄 SharePoint - 80		
	🗄 🔲 🕞 Services		
	🕀 🔲 📴 Shared Services		
	🕀 🖳 🕞 SharePoint Foundation Help Search		
	⊞		
			•
			11.

次のイメージは SharePoint 2007 コンテンツデータベースのリストアを示します。

🚮 B	ackup, Archive, and Restor	e - NetBackup -	[Restore: Serv	er: @iliiliim	Source Clien	t: ciididan I	Desti 💶 🗖 🗙
5 .	<u>Eile E</u> dit <u>V</u> iew <u>A</u> ctions <u>W</u> ir	ndow <u>H</u> elp					_ 8 ×
	Select for Backup 📗 💐 Select	for Restore 🔹	View Status	1 🐼 🗞			
番	NetBackup History						
	Time Backed Up	Time Expires	Files	Size	Compressed	Schedule Ty	/pe Policy
	🍪 3/26/2010 2:28:55 PM	4/9/2010	7852	1937049	N	User Backup	o SPV3 _.
	🚱 3/26/2010 2:13:10 PM	4/9/2010	7842	1937024	N	User Backup	D SPV3
5							<u> </u>
	All Folders			Contents of	Microsoft Shar	ePoint Resour	rces:\Windows Shar
2	or 🔽 🚇 💼 Alia			Name		Time B	acked Up 🛛 🗛
	🖻 🖉 🚼 Microsoft ShareP	oint Resources		🗹 🖻 WSS_	Content_6777	DB1 3/26/2	:010 2:28:55 PM
-%	📄 🖸 🖓 Windows Sha	arePoint Services V pt - 6777	eb Application				
\$ 6		ent-DB 1 (Etterne	ARC DESCRIPTION				
	•		Þ	•			Þ

サブサイトをリストアする場合は、[すべてのフォルダ (All Folders)] ペインでサイト コレクションを展開します。[内容 (Contents of)] ペインでサブサイトのチェックボッ クスにチェックマークを付けます。 第6章 SharePoint Server、SharePoint Foundation、Windows SharePoint Services のバックアップおよびリストアの実行 | 94 SharePoint Server、SharePoint Foundation、Windows SharePoint Services のリストア |

🐻 Ba	ckup, Archive, and Rest	ore - NetBackup - [I	Restore: Serve	r: harperus	Clie	ent: hi	igerund]	_ 🗆 ×
🗒 F	ile Edit View Actions	Window Help						_ 8 ×
S 2	Select for Backup 🔰 💐 Sel	ect for Restore 🕞 🖡	🚡 View Status	1 🐼 😒	۲			
A	NetBackup History							
[Time Backed Up	Time Expires	Files	Size	Compre:	ssed	Schedule Type Po	licy Name
2	11/4/2011 3:35:30 PM	11/18/2011	145	0	N		Full Backup vn	n-sp2010
-	🥝 11/4/2011 3:35:28 PM	11/18/2011	533	0	N		Full Backup vn	n-sp2010
32								
<u></u>								
2								
*\$								
- <u>R</u>								
	All Folders						Contents of 'Microsoft Share	Point Resources:\M
	🖃 🖉 🛄 Hangantarri 🕄						Name	Time Backed Up
	🖃 🖉 🚼 Microsoft Sh	arePoint Resources					🔲 🚞 AnalyticsReports	11/4/2011 2:35:
	🗄 🗌 😋 Configur	ationV4-DB (Finite State		iharePoint_C	onfig)		Docs_t1_1	11/4/2011 2:35:
	🖃 💋 😋 Microsof	t SharePoint Foundatio	n Web Applicatio	n			Docs_t1_2	11/4/2011 2:35:
	🖃 🗾 🛄 Shar	ePoint - 23050					🔲 🚞 FormServerTemplate:	s 11/4/2011 2:35:
		-Ontent-DB 1 (minimum - 220E0, Content	INTER SQL2008R2	123050_Cont	ent)		🔲 💼 Lists	11/4/2011 2:35:
		g 23050_Content					Pics_t1_1	11/4/2011 2:35:
		Z 🔁 itestiwikiti					Pics_t1_2	11/4/2011 2:35:
		ePoint - 43906					🔲 🏢 Style Library	11/4/2011 2:35:
							🔲 🚞 Wiki Pages	11/4/2011 2:35:
						-	🗹 🚞 wikit1_d1_w1	11/4/2011 2:35:
	•					۰Ē	🔲 ា wikit1 d1 w2	11/4/2011 2:35:
Ready					-	_	,	

メモ:正常なリストアのために、ここに記述されているようにインデックスファイルフォル ダを正確に選択してください。

SharePoint 2010 インデックスファイルをリストアする場合は、次の操作を実行します。

- [すべてのフォルダ (All Folders)] ペインで、Shared Services Application の チェックボックスにチェックマークを付けずにそのフォルダをクリックします。
- [内容 (Contents of)] ペインで、各インデックスファイルフォルダを選択します。



10 [処理 (Actions)] > [リストア (Restore)] の順に選択します。

11 [マークされたファイルのリストア (Restore Marked Files)] ダイアログボックスで、 [Microsoft SharePoint] タブをクリックします。

Marked Files	
al Microsoft SharePoint	
arePoint	
<u>Bring restored databases online and</u>	d reconnect previous database links
Preserve existing IIS Website and a	pplication pool
Restore existing items from Granular R	Recovery Technology backups
If versioning is enabled on the restore	destination
 Add as a new version Skip if the item exists 	
Restore over existing items	
If versioning is not enabled on the rest	tore destination
 Skip if the item exists 	
C Restore over existing items	
Bestore only the most recent version	ion of the item
Restore only the most recent versi Include security information	ion of the item
Restore only the most recent versi Include security information	ion of the item
Restore only the <u>most</u> recent versi <u>Include</u> security information SharePoint redirection	ion of the item
Restore only the most recent versi Include security information SharePoint redirection Redirect SharePoint Resources	ion of the item
Restore only the most recent versi Include security information SharePoint redirection Regirect SharePoint Resources Web application	C Alternate SQL instance
Restore only the most recent versi Include security information SharePoint redirection Regirect SharePoint Resources Web application URL	C Alternate S <u>QL</u> instance
Restore only the most recent versi Include security information SharePoint redirection Regirect SharePoint Resources Web application URL Erect and web server pages	C Alternate S <u>QL</u> instance http://
Restore only the most recent versi Include security information SharePoint redirection Regirect SharePoint Resources Web application URL Front end web server name:	C Alternate SQL instance http://
Restore only the most recent version Include security information SharePoint redirection Regirect SharePoint Resources Web application URL Front end web server name: C Igdividual SharePoint sites, docu	ion of the item C Alternate SQL instance http:// ments, lists or items
Restore only the most recent version Include security information SharePoint redirection Regirect SharePoint Resources Web application URL Front end web server name: Igdividual SharePoint sites, docu Restore to drivg or UNC path:	ion of the item C Alternate SQL instance http:// ments, lists onitems
Restore only the most recent version Include security information SharePoint redirection Regirect SharePoint Resources Web application URL Front end web server name: Igdividual SharePoint sites, docu Restore to drivg or UNC path:	ion of the item C Alternate SQL instance http:// ments, lists or items
Restore only the most recent version Include security information SharePoint redirection Regirect SharePoint Resources Web application URL Front end web server name: Individual SharePoint sites, docu Restore to drive or UNC path:	Alternate SQL instance http:// mente, lists or items
Restore only the most recent version Include security information SharePoint redirection Regirect SharePoint Resources Web application URL Front end web server name: Individual SharePoint sites, docu Restore to drivg or UNC path:	C Alternate S <u>QL</u> instance http:// ments_lists or items
Restore only the most recent version Include security information SharePoint redirection Regirect SharePoint Resources Web application URL Front end web server name: Individual SharePoint sites, docu Restore to drivg or UNC path:	C Alternate S <u>Q</u> L instance http:// ments, lists or items
Restore only the most recent version Include security information SharePoint redirection Regirect SharePoint Resources Web application URL Front end web server name: Igdividual SharePoint sites, docu Restore to drivg or UNC path:	ion of the item C Alternate S <u>QL</u> instance http:// ments, lists or items
Restore only the most recent version Include security information SharePoint redirection Regirect SharePoint Resources Web application URL Front end web server name: Igdividual SharePoint sites, docu Restore to drive or UNC path:	C Alternate S <u>QL</u> instance http:// ments, lists or items

p.87の「SharePoint Server の[Microsoft SharePoint]タブのリストアオプション」 を参照してください。

12 [リストアの開始 (Start Restore)] をクリックします。

SharePoint 2010 の Search Service アプリケーションのリストア

次の手順では、共有サービスアプリケーションをリストアする方法について説明します。リ カバリに使用する Search Service アプリケーションのすべてのコンポーネント選択しま す。SharePoint Agent は Search Service アプリケーションのプロビジョニングを解除 し、コンポーネントをリストアして Search Service アプリケーションをリカバリします。

SharePoint 2010 の Search Service アプリケーションをリストアする方法

- 1 NetBackup のバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを開きます。
- 2 [リストア (Restore)] ウィンドウを開きます。
- 3 共有サービスを含んでいる完全バックアップを選択します。
- 4 [すべてのフォルダ (All Folders)] ペインで [Microsoft SharePoint Resources]
 > [共有サービス (Shared Services)] > [共有サービス アプリケーション (Shared Services Applications)] を展開します。
- 5 次のようにリストアの各インデックスファイルフォルダを選択します。

メモ:正常なリストアのために、ここに記述されているようにインデックスファイルフォル ダを正確に選択してください。

- [すべてのフォルダ (All Folders)] ペインで、Shared Services Application の チェックボックスにチェックマークを付けずにそのフォルダをクリックします。
- [内容 (Contents of)] ペインで、各インデックスファイルフォルダを選択します。



6 次のようにリストア用の各共有サービスデータベースを選択します。

メモ:正常なリストアを行うために、ここに記述されているようにデータベースを正確に 選択する必要があります。

 [すべてのフォルダ (All Folders)] ペインで、共有サービスデータベースのフォ ルダをクリックします。ただし、そのチェックボックスは選択しないでください。 ■ [内容 (Contents of)] ペインでは、共有サービスデータベースを選択します。

All Folders	Contents of 'Microsoft SharePoint Resources:\Shared Services\Sha
🖃 🖉 🛄 yuunikiliberrek	Name
🖻 🖉 🚼 Microsoft SharePoint Resources	SSP TEST2010 DB 0b0a6bf6e1784c8ca962f86a218aa504
🗄 🗌 🕞 ConfigurationV4-DB (Multilla, Shifted Status	
🕀 🗖 🕞 Global Settings (🖬 🕅 🖽 🕬 🕬	
🗄 🗖 🕞 InfoPath Forms Services	
🗄 🔲 🕞 Microsoft SharePoint Foundation Web 4	
🗄 🗖 🕞 Services	
🖃 💋 🕞 Shared Services	
🖃 🗾 📄 Shared Services Applications	
🕀 🔲 🧰 Access Services\Metadata (****	
🕀 🔲 🧰 Business Data Connectivity Ser	
🗄 🔲 🧰 Excel Services Application\Meta	
🗄 🗖 🧰 Managed Metadata Service	
🕀 🔲 🧰 PerformancePoint Service Appli	
🕀 🔲 🧰 Secure Store Service	
🕀 🔲 🧰 Security Token Service Applicat	
🗄 🗔 🧰 SPS2010_SP1_JUNCU	
🖻 🔽 🧰 SSP_TEST2010	
🕀 🔽 📄 Index files 1 (#1#11111.3%###	
🕀 🔽 🚞 Index files 2 (Yummu annua)	
🔽 🦾 Services-DB 1 (11.01100, 30000	
- Z 📄 Services-DB 2 (#1#121.3%#	
Services-DB 3 (Multiplication	

- 7 「処理 (Actions)] > 「リストア (Restore)] の順に選択します。
- 8 [マークされたファイルのリストア (Restore Marked Files)] ダイアログボックスで、 [Microsoft SharePoint] タブをクリックします。
- [リストアされたデータベースをオンラインにして、前のデータベースリンクに再接続 9 する (Bring restored databases online and reconnect previous database links)] のチェックマークをはずします。
 - Bring restored databases online and reconnect previous database links
 - E Release the lock on the SharePoint farm topology, if it is set (SharePoint 2003 only)

 - Preserve existing Internet Information Services (IIS) Web site and application pool
 (SharePoint 2007 only)
- 10 [リストアの開始 (Start Restore)] をクリックします。
- 11 増分バックアップをリストアします。最新の増分バックアップ以外に対しては、「リス トアされたデータベースをオンラインにして、前のデータベースリンクに再接続する (Bring restored databases online and reconnect previous database links)]を選 択しないでください。

SharePoint 2007 共有サービスプロバイダのリストア

次の手順は共有サービスプロバイダをリストアする方法を説明します。

SharePoint 2007 共有サービスプロバイダをリストアする方法

 共有サービスプロバイダがプロビジョニング解除の状態ではない場合、手順2から 続行します。それ以外の場合、次の方法で共有サービスプロバイダを削除します。 次のコマンドを実行します。

stsadm -o deletessp -title SSP name -force

SSP が SharePoint から削除された後、SQL Server でサービスデータベースおよび検索データベースが存在していないことを確認します。

- 2 NetBackup のバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを開きます。
- **3** [リストア (Restore)] ウィンドウを開きます。
- 4 共有サービスを含んでいる完全バックアップを選択します。
- 5 [すべてのフォルダ (All Folders)] ペインで、[Microsoft SharePoint Resources]
 > [共有サービス (Shared Services)] を展開します。
- 6 リストアの共有サービスデータベースを次のように選択します。

メモ:正常なリストアを行うために、ここに記述されているようにデータベースを正確に 選択する必要があります。

- [すべてのフォルダ (All Folders)] ペインで、共有サービスデータベースのフォ ルダをクリックします。ただし、そのチェックボックスは選択しないでください。
- [内容 (Contents of)] ペインでは、共有サービスデータベースを選択します。

All Folders	Contents of 'Microsoft SharePoint Re
All Folders All Folders Image: State Point Resources Image: State	Contents of Microsoft SharePoint Re: Name Time Ba Ig) SharedServices1_DB 10/18/2 4b66-804
Search-DB 1 (SharedServices1 SharePoint _SSP1_admin - 80 B- Content-DB 1 (SSP1_Content)	_Search

7 リストアの検索データベースを次のように選択します。

メモ:正常なリストアを行うために、ここに記述されているようにデータベースを正確に 選択する必要があります。

 [すべてのフォルダ (All Folders)] ペインで、検索データベースのフォルダをク リックします。ただし、そのチェックボックスは選択しないでください。 ■ [内容 (Contents)] ペインで、検索データベースを選択します。

All Folders	Contents of 'Microsoft SharePoint Re	esources
E 🔜 enablement	Name	Time B
🗄 🖅 🚼 Microsoft SharePoint Resources	SharedServices1 Search DB	10/18/
🗄 🗖 📴 ConfigurationV3-DB (🛤 🖬 🕬 SharePoint_Config)		
🗄 🗖 🕞 Global Settings (Include the Description of the Description o		
🖻 🛛 📿 🕞 SharedServices1		
- Z 📄 Services-DB 1 (######\SharedServices1_DB)		
🖃 🗹 🧰 Shared Search Index		
🗄 🗔 📄 Index files 1 (🖬 🖬 🖓 //d9fed1f-d0e1-4b66-804		
🛛 🗁 Search-DB 1 (🌆 🖬 🖉 SharedServices1_Search		
🗄 🖳 🦲 SharePoint _SSP1_admin - 80		
🗄 🗐 📄 Content-DB 1 (💷 📾 🔤 SSP1 Content)		

8 リストアのコンテンツデータベースを次のように選択します。

メモ:正常なリストアを行うために、ここに記述されているようにデータベースを正確に 選択する必要があります。

- [すべてのフォルダ (All Folders)] ペインで、コンテンツデータベースのフォルダ をクリックし、そのチェックボックスは選択しないでください。
- [内容 (Contents)] ペインで、コンテンツデータベースを選択します。

All Folders	Contents of 'Microsoft	: ShareP
	Name	Time B
🖻 🔟 🚼 Microsoft SharePoint Resources	SSP1 Content	10/18/
🗄 🖂 🕞 ConfigurationV3-DB (💷 📾 🖉 SharePoint_Config)		
🗄 🖳 📴 Global Settings (🛤 🖬 👘 🗇		
🖻 💋 🕞 SharedServices1		
🚊 🔽 🧰 Shared Search Index		
🕀 🔲 🛄 Index files 1 (🖌 🖉 🖓 🖓 🖓 🖓 🕀 🕀 🖓		
🔤 🗾 Search-DB 1 (🛤 🖬 🕬 SharedServices1_Search		
🗄 🗾 📄 SharePoint _SSP1_admin - 80		
🕂 🔽 🗁 Content-DB 1 (🖬 🖬 🔤 SSP1_Content)		
	1	

9 リストアのインデックスファイルを次のように選択します。

メモ:正常なリストアを行うために、ここに記述されているようにインデックスファイルを 正確に選択する必要があります。

- [すべてのフォルダ (All Folders)] ペインで、[共有検索インデックス (Shared Search Index)]をクリックします。ただし、そのチェックボックスは選択しないでく ださい。
- [内容 (Contents)] ペインで、インデックスファイルフォルダを選択します。



- 10 [処理 (Actions)] > [リストア (Restore)] の順に選択します。
- **11** [マークされたファイルのリストア (Restore Marked Files)] ダイアログボックスで、 [Microsoft SharePoint] タブをクリックします。
- **12** [リストアされたデータベースをオンラインにして、前のデータベースリンクに再接続 する (Bring restored databases online and reconnect previous database links)] のチェックマークをはずします。



- Release the lock on the SharePoint farm topology, if it is set (SharePoint 2003 only)
- Preserve existing Internet Information Services (IIS) Web site and application pool
 ISharePoint 2007 only
- 13 [リストアの開始 (Start Restore)] をクリックします。
- 14 増分バックアップをリストアします。最新の増分バックアップ以外に対しては、「リストアされたデータベースをオンラインにして、前のデータベースリンクに再接続する (Bring restored databases online and reconnect previous database links)]を 選択しないでください。

個別リカバリテクノロジ (GRT) を使用した個々の SharePoint 項目のリ ストアのための要件

個別リカバリテクノロジ(GRT)を使用して完全データベースバックアップから個々の項目 をリストアするには、次の要件を満たす必要があります。

- 管理者によって、個々の項目のリストアを実行できるように NetBackup が構成されている ([個別リカバリを有効化する (Enable granular recovery)])。このオプションはバックアップポリシーの [属性 (Attributes)] タブにあります。
 p.69の「NetBackup for SharePoint のポリシー属性について」を参照してください。
- ユーザーは完全バックアップイメージからリストアを行う必要がある。
- バックアップイメージがディスクストレージュニットにある場合にのみ、個々の項目をリ ストアできる。

p.53の「SharePointの個別リカバリテクノロジ (GRT) でサポートされるディスクスト レージュニット」を参照してください。

完全データベースバックアップからの個々の SharePoint 項目のリスト ア

個別リカバリテクノロジ (GRT)を使用する SharePoint の完全データベースバックアップ ジョブから、個々のサイト、サブサイト、文書、イメージおよびリスト項目をリストアできます。

メモ: SharePoint 2010 Central Administration Web サイトと共有サービス管理 Web サイトの個別リカバリはサポートされません。

メモ:項目をリストアするときは、アクティビティモニターに表示される次のような bprd エ ラーは無視してもかまいません。

7/12/2007 11:01:39 AM - Error bpdm (pid=2928) bprd から EXIT STATUS を受信しませんでした。すべてのブロックがリストアされていない可能性があります。(7/12/2007 11:01:39 AM - Error bpdm (pid=2928) did not receive EXIT STATUS from bprd, all blocks may not have been restored)

代わりに、リストア操作が実際に成功または失敗したかを判断するには、アクティビティモニターに表示される最終的な状態を参照してください。

完全データベースバックアップから個々の SharePoint 項目をリストアする方法

1 SharePoint フロントエンドの Web サーバーで、ファームの SQL ホストへのリストア を有効にします。

p.60の「複数のサーバーを含む SharePoint ファームのリストアの構成」を参照してください。

- 2 管理者としてログオンします。
- 3 バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを開きます。
- 4 [ファイル (File)]>[リストアするファイルおよびフォルダの選択 (Select Files and Folders to Restore)]>[通常バックアップからリストア (from Normal Backup)]を選 択します。
- **5** [MS-SharePoint]ポリシー形式を選択します。

p.86の「SharePoint Server リストア操作を実行するサーバー、クライアントおよび ポリシー形式の指定」を参照してください。

6 [OK]をクリックします。

SharePoint Server のバックアップイメージが表示されます。

- 7 [NetBackup の履歴 (NetBackup History)]ペインで、リストアを行う項目が含まれ ている完全バックアップイメージを選択します。
- **8** [すべてのフォルダ (All Folders)]ペインで、[Microsoft SharePoint Resources] を展開します。

メモ:項目を選択してリストアする場合、[すべてのフォルダ (All folders)]ペインの項目のチェックボックスにチェックマークを付けません。[内容 (Contents of)]ペインの項目のチェックボックスにのみチェックマークを付けます。

9 [内容 (Contents of)]ペインで、リストアする項目を選択します。

セキュリティ情報がリストアされるのは、親フォルダを選択した場合のみです。個々の 項目を選択した場合はリストアされません。たとえば、セキュリティ情報は、共有文書 を選択した場合はリストアされますが、個々の文書を選択した場合はリストアされま せん。ただし、個々のオブジェクトに「制限付きアクセス」が定義されたユーザー権限 がある場合があります。この場合、それらのユーザーの権限はそのオブジェクトとと もにリストアされません。

次のイメージは SharePoint 2010 のリストアを示します。

🚰 Backup, Archive, and Restore - NetBackup - [Restore: Server: 💶 🏾 Client: 📰 🖬 📔 🗶									
🗓 E	jle <u>E</u> dit ⊻iew <u>A</u> ctions <u>W</u> ir	ndow <u>H</u> elp					_ 8 ×		
<u>,</u>	🛄 Select for Backup 🛛 🕄 Select for Restore 👻 🎼 View Status 🛛 🚱 😻								
冊	NetBackup History								
	Time Backed Up	Time Expires	Files	Size	Compressed	Schedule Type	Policy Nam 🔺		
5	2/24/2010 6:33:07 PM	3/10/2010	9	39937	N		SP2010_GF		
•_~	2/24/2010 6:30:02 PM	3/10/2010	578	41360	N		SP2010_GF		
•	2/24/2010 6:11:27 PM	5/10/2010	9	39937	N	1	5P2010_GF •		
	All California			Cartan		chana Dalah Danan			
-	All Folders	Deieb Deserverse			s of Microsoft	SharePoint Resour	ces: (Microsort SharePo		
-%	incrosoft Share	Point Resources	on Web Applicati						
	🗄 🔽 🧰 SharePi	pint - 17777	on web Appliede		orms ilos dos				
	🗄 🗹 🚞 Cor	itent-DB 1 (MCM and	SHAREF		DDxxx Audit	oas.doc			
	⊡ Z 🛃	WSS_Content_05	2cd84a370f4557	1 168	lob OLD.doc				
		🔲) 🗔 💬			-				
	-	- 🗾 🦲 Maple	anks						
			ffLibrary						
		HoldRe	eports						
		🕀 🔲 🧰 Lists							
		🗋 🧰 m							
		E Pages							
			ningimages aRules						
		E 🖊 🗁 Share	d Documents						
	·		•	•			Þ		

次のイメージは SharePoint 2007 のリストアを示します。

第6章 SharePoint Server、SharePoint Foundation、Windows SharePoint Services のバックアップおよびリストアの実行 | 105 SharePoint Server、SharePoint Foundation、Windows SharePoint Services のリストア |

ackup, Archive, and Restor ile Edit View Actions Wir	e - NetBackup - (adow Help	[Restore: Serv	er: man S	ource Client:	Destination C	lient: 💶 🗆 🗙
Select for Backup 💐 Select	for Restore 🔹	View Status	1 🖗 🗞	۲		
NetBackup History						
Time Backed Up	Time Expires	Files	Size	Compressed	Schedule Type	P 🔺
11/10/2009 3:20:00 PM	11/24/2009	71212	11980364	N	Full Backup	A
2 11/9/2009 3:48:57 PM	11/23/2009	5	789042	N	Full Backup	v
V 11/9/2009 3:45:26 PM	11/23/2009	2779	460302	N	Full Backup	V 🔻
•						F
All Folders		Conte	nts of 'Micros	oft SharePoint I	Resources:\Windows Sh	harePoint Services W
Microsoft SharePoint F Gr SSP3 C Gr SSP3 G	tesources nt Services Web Aj } 9410 2088 B 1 (3208 _Content :yate\eatst3 _ Decs_t3_2 Docs_t3_2	Name pplice	Document in	Microsoft Inter	net Explorer.doc	×
	ackup, Archive, and Restor le Edit View Actions Wir Select for Backup ISS Select NetBackup History Time Backed Up 11/10/2009 3:48:57 PM 11/9/2009 3:48:57 PM 11/9/2009 3:48:57 PM 11/9/2009 3:48:57 PM 11/9/2009 3:48:57 PM 11/9/2009 3:48:52 PM 11/9/2009 3:48:57 PM 11/9/2009 3:	ackup, Archive, and Restore - NetBackup Be Edit View Actions Window Help Select for Backup Select for Backup History Time Backed Up Time Backed Up 11/10/2009 3:48:57 PM 11/23/2009 11/9/2009 3:45:26 PM 11/23/2009 Image: Select Structure Image: Structure	ackup, Archive, and Restore - NetBackup - [Restore: Serv Be Edit View Actions Window Help Select for Backup Select for Backup NetBackup History Time Backed Up Time Expires Files 11/10/2009 3:20:00 PM 11/24/2009 711/9/2009 3:48:57 PM 11/23/2009 711/9/2009 3:48:57 PM 11/23/2009 711/9/2009 3:48:57 PM 11/23/2009 7779 All Folders Content File FormsMov (80) File File SharePoint 19410 SharePoint 23088 File SharePoint - 19410 File File File File File File	ackup, Archive, and Restore - NetBackup - [Restore: Server: 5] Select for sectors Window Help Select for Backup Select for Restore Image: Select for Restore Image: Select for Restore NetBackup History Time Backed Up Time Expires Files Size 11/10/2009 3:40:00 PM 11/24/2009 71212 11980364 11/9/2009 3:40:57 PM 11/23/2009 5 789042 11/9/2009 3:40:52 PM 11/23/2009 2779 460302 11/9/2009 3:45:52 PM 11/23/2009 2779 460302 11/9/2009 3:45:52 PM 11/23/2009 2779 460302 11/9/2009 3:45:52 PM 11/23/2009 2779 460302 Image: Im	ackup, Archive, and Restore - NetBackup - [Restore: Server: Source Client: Be Edit View Actions Window Help Select for Backup Select for Restore - Wave Status NetBackup History Time Backed Up Time Backed Up 11/10/2009 3:20:00 PM 11/24/2009 71212 11/9/2009 3:49:57 PM 11/23/2009 2779 460302 N 11/9/2009 3:49:52 PM 11/23/2009 2779 460302 N 11/9/2009 3:49:52 PM 11/23/2009 2779 460302 N 11/9/2009 3:49:52 PM 11/23/2009 2779 460302 N 11/23/2009 2779 460302 N 11/23/2009 2779 400 11/23/2009 2779 41 5878 Contents of Microsoft SharePoint Networks 11/9 2	ackup, Archive, and Restore - NetBackup - [Restore: Server: Source Client: Destination C Be Edit View Actions Window Help Select for Backup Select for Restore - Werk View Status NetBackup History Time Backed Up Time Expires Files Size Compressed Schedule Type 11/10/2009 3:20:00 PM 11/24/2009 711/9/2009 3:45:26 PM 11/23/2009 2779 460302 N Full Backup 11/9/2009 3:45:26 PM 11/23/2009 2779 460302 Microsoft SharePoint Resources Microsoft SharePoint Resources Microsoft SharePoint Resources Microsoft SharePoint 19410 SharePoint - 19410 SharePoint - 19410 SharePoint - 19410 Content B 1 Content B 1

- 10 [処理 (Actions)] > [リストア (Restore)]の順に選択します。
- **11** [マークされたファイルのリストア (Restore Marked Files)]ダイアログボックスで、 [Microsoft SharePoint]タブをクリックします。

Restore existing items from granular restore technology backups
If versioning is enabled on the restore destination
○ <u>A</u> dd as a new version
Skip if the item exists
C Restore over existing items
If versioning is not enabled on the restore destination
Skip if the item exists
C Restore over existing items
Restore only the most recent version of the item.
Include security information

12 次のようにリストアオプションを選択します。

リストア先でバージョン管理が有 次のいずれかのオプションを選択します。 効な場合 (If versioning is ■ 新しいバージョンとして追加 (Add as a new version) enabled on the restore NetBackup では既存の項目が新しいバージョンとしてリストアされ、最新バージョンの既 destination) 存の項目になります。 ■ 項目が存在する場合はスキップ (Skip if the item exists) リストア先に同じ項目が存在する場合、項目はリストアされません。ジョブログに、ファイル がスキップされたことが記録されます。 ■ 既存の項目にリストア (Restore over existing items) 既存の項目が新しいバージョンとしてリストアされ、既存のバージョンが削除されます。 リストア先でバージョン管理が無次のいずれかのオプションを選択します。 効な場合 (If versioning is not ■ 項目が存在する場合はスキップ (Skip if the item exists) enabled on the restore リストア先に同じ項目が存在する場合、項目はリストアされません。ジョブログに、ファイル destination) がスキップされたことが記録されます。 ■ 既存の項目にリストア (Restore over existing items) 既存の項目は、リストアされた項目に置き換えられます。 項目の最新のバージョンのみリリストアに選択した最新バージョンの個々の項目をリストアする場合にのみオプションにチェッ クマークを付けます。 ストアする (Restore only the most recent version of an item) リストアする項目に添付されている SharePoint セキュリティ情報をリストアする場合は、この セキュリティ情報を含む (Include security information) オプションにチェックマークを付けます。

13 必要なその他のリストアオプションを選択します。

p.87の「SharePoint Server の[Microsoft SharePoint]タブのリストアオプション」 を参照してください。

14 [リストアの開始 (Start Restore)]をクリックします。

複数のフロントエンドサーバーがあるファームでの SharePoint Web ア プリケーションのリカバリ

ネットワーク負荷分散 (NLB) ファームの削除済み Web アプリケーションをリストアするに は、SharePoint Central Administration インターフェースを使用した手動の操作が必要 になる場合があります。リストア操作が完了した後、NLB ファームの Web アプリケーショ ンがオフラインになっている場合は、次の手順を実行します。 メモ: 次の手順を完了した後、構成済みプライマリ分散ノードの IIS 属性に変更が反映されます。新しい負荷分散サーバーは2つのサイトを含んでいます。元のサイトと手順13 で作成する名前の最新サイトです。ただし、両方のサイトは元のサイトへリンクしており、環境への影響はありません。

複数のフロントエンドサーバーを使用するファームで SharePoint Web アプリケーション をリカバリする方法

- 1 管理者としてログオンします。
- 2 バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを開きます。
- 3 [ファイル (File)]>[リストアするファイルおよびフォルダの選択 (Select Files and Folders to Restore)]>[通常バックアップからリストア (from Normal Backup)]を選 択します。
- **4** [MS-SharePoint]ポリシー形式を選択します。

p.86の「SharePoint Server リストア操作を実行するサーバー、クライアントおよび ポリシー形式の指定」を参照してください。

5 [OK]をクリックします。

SharePoint Server のバックアップイメージが表示されます。

- 6 [NetBackup の履歴 (NetBackup History)]ペインで、リストアを行うオブジェクトが 含まれているイメージを選択します。
 - 最後の完全バックアップ
 - 最後の完全バックアップおよびそれ以降のすべての差分増分バックアップ
- **7** [すべてのフォルダ (All Folders)]ペインで、[Microsoft SharePoint Resources]と Web アプリケーションを展開します。

メモ:項目を選択してリストアする場合、[すべてのフォルダ (All folders)]ペインの項目のチェックボックスにチェックマークを付けません。[内容 (Contents of)]ペインの項目のチェックボックスにのみチェックマークを付けます。

8 [内容 (Contents)]ペインで、コンテンツデータベースを選択します。

🚮 Ba	🚰 Backup, Archive, and Restore - NetBackup - [Restore: Server: 🗤 🖬 Source Client: 🗤 📮 🗖 🗙									
🛄 E	💆 Eile Edit View Actions Window Help Backup, Archive, and Rest									
🔜 Select for Backup 🛛 💐 Select for Restore 🕞 🎼 View Status 🛛 🖄 💥 🛷										
T	NetBackup History									
	Time Backed Up	Time Expires	Files	Size	Compressed	Schedule Type	▲			
R	S/19/2010 1:31:00 PM	6/2/2010	2154	94204	N	Full Backup				
	父 5/19/2010 9:48:09 AM	6/2/2010	8	87553	N	Full Backup				
2	父 5/18/2010 3:49:10 PM	6/1/2010	2152	90094	N	Full Backup	_			
	1 -214/2010 10-E0-E0 PM	E/20/2010	2152		N	Usen Daslaus				
2	All Folders		0	Contents of 'Mi	crosoft ShareP	oint Resources:\M	/licrosoft Sh			
-9	🖃 - 🗾 🔜 manadalita nemeti			Name Time Backed Up						
-%	🚊 💹 🏪 Microsoft Share	Point Resources		🛛 🗋 WSS Co	ntent 19999 [DB1 5/19/2010	1:31:00 PM			
	🗄 🗹 🕞 Microsoft S	harePoint Foundati	on Web Appli 🎽							
	🖻 🗾 🚞 ShareP	oint - 19999								
🗄 – 💋 🗁 Content-DB 1 (Multi-Adult 1 Ministration										
	•			•			Þ			

次のイメージは SharePoint 2010 のリストアを示します。

次のイメージは SharePoint 2007 のリストアを示します。

强 Backup, Archive, and Restore - NetBackup - [Restore: Server: 🔤 Source Client: 🔤 Destina 💶 🗵 🗙									
🗓 File Edit View Actions Window Help									
🔜 Select for Backup 🛛 💐 Select for Restore 🕞 🎼 View Status 🛛 🖄 💐 🛷									
Ŧ	NetBackup History								
	Time Backed Up	Time Expires	Files	9	Size	Compressed	Schedule Type	▲	
2	🔮 2/28/2010 12:01:29 AM	3/14/2010	24790	9497	7693	N	Full Backup		
	2/27/2010 11:01:24 PM	3/13/2010	24790	9497	7693	N	Full Backup	•	
25	↓						•		
	All Folders				Contents of 'Microsoft SharePoint Resources:\Wir				
2					Name	;	Time Backec		
-9	🗄 🛛 🚼 Microsoft SharePoint Resources					SharePoint - 29755 Content 2/28/2010 1			
•D	E Vindows SharePoint Services Web Application								
50	🖻 🗹 🦲 SharePoint - 29755								
	Content-DB 1 (IIIII/IIII)destination - 29755								
	🗄 🛄 🛄 SharePi	oint - 34788							
Ready //									

9 プライマリフロントエンドにデータベースをリストアします。

この処理は一度だけ実行する必要があることに注意してください。

- **10** SharePoint Central Administration インターフェースを開きます。
- **11** [サーバーの全体管理 (Central Administration)]で、[アプリケーション構成の管理 (Application Management)]をクリックします。
- **12** [SharePoint Web アプリケーション構成の管理 (SharePoint Web Application Management)]の下で[Web アプリケーションの作成または拡張 (Create or extend Web application)]をクリックします。
- **13** [既存の Web アプリケーションの拡張 (Extend an existing Web application)]を 選択します。
- 14 Web アプリケーションを拡張するために次の操作を実行します。
 - Webアプリケーションのリンクをクリックし、[Webアプリケーションの変更 (Change Web Application)]を選択します。リストアされた Web アプリケーションを拡張するために値を入力します。
 - [新しい IIS Web サイトを作成する (Create a new IIS web site)]を選択し、元の Web アプリケーションと一致する情報を入力します。ただし、同じポート番号を使うことはできません。
 - [負荷分散される URL (Load Balanced URL)]セクションで、負荷分散サーバーのノード名を入力します。(たとえば、http://VMSP-3:new port など。)
- 15 手順 14 を完了した後、他の構成されたフロントエンドはすべて IIS エントリで自動 的に更新されることがあります。その場合、それ以上の処理は必要になりません。

他のフロントエンドが負荷分散を必要とする場合は、手順 12 から手順 14 を繰り返します。

SharePoint の削除されたリストのリストア

削除したリストをリストアするには、別のリストアジョブでリストと default.aspx をリストア する必要があります。

削除されたリストをリストアする方法

- 1 管理者としてログオンします。
- 2 バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを開きます。
- 3 [ファイル (File)]>[リストアするファイルおよびフォルダの選択 (Select Files and Folders to Restore)]>[通常バックアップからリストア (from Normal Backup)]を選 択します。
- 4 [MS-SharePoint]ポリシー形式を選択します。

p.86の「SharePoint Server リストア操作を実行するサーバー、クライアントおよび ポリシー形式の指定」を参照してください。

5 [OK]をクリックします。

SharePoint Server のバックアップイメージが表示されます。

6 [NetBackup の履歴 (NetBackup History)]ペインで、リストアを行うオブジェクトが 含まれているイメージを選択します。

- 最後の完全バックアップ
- 最後の完全バックアップおよびそれ以降のすべての差分増分バックアップ
- **7** [すべてのフォルダ (All Folders)]ペインで、[Microsoft SharePoint Resources] を展開します。

メモ:項目を選択してリストアする場合、[すべてのフォルダ (All folders)]ペインの項 目のチェックボックスにチェックマークを付けません。[内容 (Contents of)]ペインの 項目のチェックボックスにのみチェックマークを付けます。 8 [内容 (Contents of)]ペインから、削除したリスト項目またはリストのライブラリコンテ ナを選択します。

🚮 Ba	ackup, Archive, and Restore - NetBao	kup - [Restore: S	erver: diffilm	Source C	lient: 🖬 🖬 💶	
🔁 E	∃ile Edit ⊻iew Actions Window Help)			_	B۲
5	Select for Backup 📗 💐 Select for Restor	e 👻 📄 🖓 View Stal	:us 🐼 🗞	2		
A	NetBackup History					
	Time Backed Up Time Expi	res Files	Size	Compress	ed Schedule Type	
2	4/16/2010 10:39:43 AM 4/30/201) 7884	1936873	N	Full Backup	
3	•					▶
	All Folders		Contents of	'Microsoft S	harePoint Resources:\\	Vindow
2	Calendar		Name		Time Backed Up	A
	Contact IT		🔲 🛅 AllIte	ms.aspx	4/16/2010 10:39:43 AM	1
3	Contacts		DispF	orm.aspx	4/16/2010 10:39:43 Af	1
1			🛛 🔲 🛅 EditF	orm.aspx	4/16/2010 10:39:43 Af	1
			🔄 🗖 🛅 Newf	Form.aspx	4/16/2010 10:39:43 Af	1
			🔄 🗹 🖬 Smith	-0001	4/16/2010 10:39:43 Af	1
			≤			
						_ <u> </u>
						11

次のイメージは SharePoint 2010 のリストアを示します。

次のイメージは SharePoint 2007 のリストアを示します。

🚮 Ba	ackup, Archive, and Restore	e - NetBackup - [Restore: Se	rver:	66111	Source	e Client	: 66	- 🗆 ×
💆 E	ile <u>E</u> dit <u>V</u> iew <u>A</u> ctions <u>W</u> ir	ndow <u>H</u> elp							_ 8 ×
5	🔜 Select for Backup 🛛 💐 Select for Restore 🔹 🎼 View Status 🛛 🚱 划 🤣								
Ŧ	NetBackup History								
	Time Backed Up	Time Expires	Files	9	iize 🛛	Compressed	Schedu	ule Type	•
	🚱 4/14/2010 10:23:25 AM	4/28/2010	1086	61	574	N	User B	ackup	
•Dw	😪 4/14/2010 8:58:25 AM	4/28/2010	1573	62	791	N	Full Ba	ckup	-
۰ <u>۲</u> ۰	•								
2	All Folders			Co	ntents	of 'Microsoft	SharePo	int Res	ources:\M
<u> </u>	Ē.	🛛 📄 MAAMeetii	ng	A Na	Name				acked (🔺
1.3		🗄 🖳 🧰 Docum	ent Library		📴 All	lItems.aspx		4/14/2	010 8:
		🖃 🗾 Lists			📴 Di:	spForm.aspx		4/14/2	010 8:
			ienda		🛅 Ec	litForm.aspx		4/14/2	010 8:
			tendees Voting Series		<u>_</u> М	y First Meeting	g-0004	4/14/2	010 8:
			viectives		L M	y first meeting	-0007	4/14/2	010 8:! 🖵
	•		/iocuros	▸					►
									11.

9 [リストアの開始 (Start Restore)]をクリックします。

リストアが完了したら、次の手順を続行します。

10 [すべてのフォルダ (All Folders)]ペインで、[Microsoft SharePoint Resources] を展開します。

11 [内容 (Contents of)]ペインから、サブサイトまたはサイトのコレクションで、 default.aspxを選択します。

🚮 Ba	ackup, Archive, and Restor	e - NetBackup - [[Restore: Server:	norabili	Source	e Client:	
🔁 E	ile Edit Yiew Actions Wir	ndow <u>H</u> elp					_ & ×
	Select for Backup 📗 💐 Select	for Restore 🔹	View Status	Ø 🗞	<i>.</i>		
T	NetBackup History						
	Time Backed Up	Time Expires	Files	Size	Compressed	Schedule Type	Policy 🔺
2	🍪 3/24/2010 12:55:50 PM 👘	4/7/2010	1388	56953	N	User Backup	SP201
_	🚱 3/24/2010 12:21:53 PM	4/7/2010	1388	56953	N	User Backup	SP201
3	3/23/2010 11:17:03 AM	4/6/2010	1388	54905	N	User Backup	SP201
	€3 3/23/2010 10:35:39 ΔM	4/6/2010	1364	54845	N	Liser Backun	SP201
2				(hr ()	d a i i a		
	All Folders			Conten	s of Microsoft	SharePoint Reso	ources: (Microsoft Sha
-96		Delet Deserves	<u> </u>	Name			Time Backed Up 🔺
	En Microsoft Share	Point Resources	Ulah Arakaski	l 🗆 🖻 r	nysocial		3/24/2010 12:5
	🖂 🖓 Microsoft Si	narePoint Poundati nint - 19999	on web Applicaci	🔲 🧰 Notification Pages			3/24/2010 12:5
	inaren inaren	vinc - 10000		l 🗆 🖻 F	PublishedLinks		3/24/2010 12:55
		WSS Content 188		🖞 🔲 🧰 Quick Deploy Items			3/24/2010 12:55
		inss_contont_rot		🔲 🧰 Relationships List			3/24/2010 12:55
		bites\forest		l 🗆 🖻 P	Reports List		3/24/2010 12:55
	 	AnalyticsR	eports	l 🗆 📄 F	ReusableConter	nt	3/24/2010 12:55
		E- C Erms			SiteCollectionDo	cuments	3/24/2010 12:55
		🗖 🦲 Cache Proi	files	🗆 🗎 🗎	SiteCollectionIm	ages	3/24/2010 12:55
		🔲 🧰 Documents	s	: 🗋 🗆 ا	ityle Library		3/24/2010 12:55
		🗄 🔲 🚞 Forms		Variation Labels 3/24/20			3/24/2010 12:55
	🚊 🗖 🛅 FormServerTemplates			WorkflowTasks 3/24/20			3/24/2010 12:55
	🗄 🖳 🧰 Forms			0 🗉 🖸	lefault.aspx		3/24/2010 12:55 💌
							F
							4

次のイメージは SharePoint 2010 のリストアを示します。

次のイメージは SharePoint 2007 のリストアを示します。

🚮 Ba	ackup, Archive, and Restor	e - NetBackup - [Restore: Serv	er: 📫	Source Clien	t: 🖬 🖬 Desti 💶		
🗒 E	ile <u>E</u> dit <u>V</u> iew <u>A</u> ctions <u>W</u> ir	ndow <u>H</u> elp				_	Ð×	
5	🖪 Select for Backup 🛛 💐 Select for Restore 🔹 🖓 View Status 🛛 🖄 💐 🧇							
æ	NetBackup History							
	Time Backed Up	Time Expires	Files	Size	Compressed	Schedule Type	Policy	
5	🛞 3/26/2010 2:28:55 PM	4/9/2010	7852	1937049	N	User Backup	SPV3	
	🚱 3/26/2010 2:13:10 PM	4/9/2010	7842	1937024	N	User Backup	SPV3	
<u>ع</u> د						<u> </u>		
	All Folders	Contents of 'Microsoft SharePoint Resources:\Windows Share						
2	🖃 🗹 🔜 aidddar			Name		Time Backed Up	A	
	🖻 🖉 🚼 Microsoft Share	Point Resources		🗖 🧰 FormS	ierverTemplate	s 3/26/2010 2:28:55 PM	d	
1.8	🖃 🖉 🖓 Windows Sf	harePoint Services	Web Application	🔲 🧰 Lists		3/26/2010 2:28:55 PM	d	
¥6		stept-DB 1 (FIDOLO	N/SOL2005 SE	0 🗋 m		3/26/2010 2:28:55 PM	d	
		WSS Content 677	77 DB1	🔲 🧰 Share	d Documents	3/26/2010 2:28:55 PM	d	
	 	<u>انام الم</u>		🗹 🔝 defau	lt.aspx	3/26/2010 2:28:55 PM		
	÷	brook 🔁						
	🕀 🗖 📄 🗋 \test\betat1							
	±	📄 \test\betat2						
	•		Þ	•			Þ	
							11.	

12 [リストアの開始 (Start Restore)]をクリックします。

ファーム内の SharePoint Web アプリケーションのリダイレクトリストア

Webアプリケーションのリストアは同じファーム内または異なるファームにリダイレクトできます。異なるファームにリダイレクトする方法については、次のトピックを参照してください。

p.116 の「別のファームへの SharePoint Web アプリケーションのリダイレクトリストア」を参照してください。

ファーム内で Web アプリケーションをリダイレクトする場合は、次の点に注意してください。

- ソースWebアプリケーションとして稼働中のWebアプリケーションを使用しないでください。
- リダイレクトリストアの宛先となるターゲット Web アプリケーションは、指定された Web サーバーに存在している必要があります。
- このターゲットはソースWebアプリケーションと同じデータベース構造である必要があります。
- Webアプリケーションは完全バックアップからのみをリダイレクトできます。差分バック アップからのリダイレクトはサポートされていません。
- 構成データベースとシングルサインオンデータベースは元の場所にのみリストアできます。文書セットと個々のSharePoint項目は元のサイトにリストアするか、またはファイルシステムにリダイレクトする必要があります。
- 同じファーム内では、Webアプリケーションのリダイレクトリストアを実行できます。SQL データベースホストと SharePoint ホストは、同じである必要があります。SQL データ ベースが複数の SQL ホストに存在する場合は、リダイレクトリストアはサポートされま せん。
- すべての SQL データベースは、1回の操作で同時にリストアする必要があります。

ファーム内の SharePoint Web アプリケーションのリダイレクトリストアを実行する方法

- 1 管理者としてログオンします。
- ターゲットWebサーバーにターゲットWebアプリケーションを作成します。このター ゲットサイトは、ソースサイトと同じデータベース構造である必要があります。
- 3 ソース Web アプリケーションを削除します。

ソースを削除しないでリダイレクトリストアを試行すると、リストアは成功しますが、デー タベースは仮想サーバーに正しく接続されません。

- 4 バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを開きます。
- 5 [ファイル (File)]>[リストアするファイルおよびフォルダの選択 (Select Files and Folders to Restore)]>[通常バックアップからリストア (from Normal Backup)] をク リックします。

6 [MS-SharePoint] ポリシー形式を選択します。

p.86の「SharePoint Server リストア操作を実行するサーバー、クライアントおよび ポリシー形式の指定」を参照してください。

- 7 [NetBackupの履歴 (NetBackup History)] ペインで、リストアするオブジェクトが含まれている完全バックアップイメージを選択します。
- **8** [すべてのフォルダ (All Folders)] ペインで、[Microsoft SharePoint Resources] を展開します。

メモ:項目を選択してリストアする場合、[すべてのフォルダ (All folders)] ペインの 項目のチェックボックスにチェックマークを付けません。[内容 (Contents of)] ペイ ンの項目のチェックボックスにのみチェックマークを付けます。 9 [内容 (Contents of)] ペインで、リダイレクトする Web アプリケーションを選択します。

🚮 Ba	🔀 Backup, Archive, and Restore - NetBackup - [Restore: Server: 👘 🚺 Source Client: 👘 💶 🗙						
📴 E	ile Edit <u>V</u> iew <u>A</u> ctions <u>W</u> ir	ndow <u>H</u> elp				Backup, Archi	ve, and Rest
	🖸 Select for Backup 🛛 🧏 Select for Restore 👻 🏠 View Status 🛛 🏠 💥 🛷						
雷	NetBackup History	-					
	Time Backed Up	Time Expires	Files	Size	Compressed	Schedule Type	▲
.	S/19/2010 1:31:00 PM	6/2/2010	2154	94204	N	Full Backup	
	🗳 5/19/2010 9:48:09 AM	6/2/2010	8	87553	N	Full Backup	
32	S/18/2010 3:49:10 PM	6/1/2010	2152	90094	N	Full Backup	-
<u></u>	1 CI 4/2010 10:50:50 PM	E/20/2010	0150	00000	KI .	Heen Deelane	•
2	All Folders			Contents of 'Mi	crosoft ShareP	oint Resources:\N	/licrosoft Sh
-9	🖃 🗹 🛄 maradiili Damii			Name Time Backed Up			d Up
1.8	🖻 🖉 🔁 Microsoft Share	Point Resources		🗹 🗋 WSS_Co	ntent_19999_	DB1 5/19/2010 :	1:31:00 PM
1	🖻 📿 🕞 Microsoft Sl	narePoint Foundati	on Web Appli				
	🖻 📿 🦲 SharePo						
	🗄 🗹 🗁 Cor	itent-DB 1 (Manual	LUU MYYNA (Sanah				
	4		•	•			E I
			,				1.

次のイメージは SharePoint 2010 のリストアを示します。

次のイメージは SharePoint 2007 のリストアを示します。

🚮 Ba	🔀 Backup, Archive, and Restore - NetBackup - [Restore: Server: 🖬 🖬 Source Client: 🖬 🖬 Des 💶 🗖 🗙							
📃 E	<u>ile E</u> dit <u>V</u> iew <u>A</u> ctions <u>W</u> ir	ndow <u>H</u> elp					_ 8 ×	
5	🖸 Select for Backup 🛛 💐 Select for Restore 🔹 🐚 View Status 🛛 🖄 🔌							
冊	NetBackup History							
	Time Backed Up	Time Expires	Files	Size	Compressed	Schedule Type		
R	S/16/2010 12:00:53 AM	5/30/2010	221	69651	N	Full Backup		
*Du	😳 5/12/2010 2:58:54 PM	5/26/2010	7169	1935341	N	User Backup	•	
5	•						•	
	All Folders			Contents of '	Microsoft Share	Point Resources:\W	indows Sha	
2	🖃 🗹 💭 📖 millikum			Name Time Backed Up				
-9	🖻 🖉 🚼 Microsoft Share	Point Resources	Web Applicatio	WS5_Content_17777_DB1 5/16/2010 12:00:53 AM				
	E - 7 E ShareP	oint - 17777	web Applicatic					
	🗄 🗹 🗁 Cor	ntent-DB 1 (EDBAR	MANAGE STREET					
							11.	

- **10** [処理 (Actions)]>[リストア (Restore)] をクリックします。
- **11** [マークされたファイルのリストア (Restore Marked Files)] ダイアログボックスで、 [Microsoft SharePoint] タブをクリックします。
- **12** [SharePoint リソースをリダイレクトする (Redirect SharePoint Resources)] にチェッ クマークを付けます。
- 13 [Web アプリケーション (Web application)] をクリックします。

14 [URL] フィールドに、宛先サイトの URL を入力します。

http://webapp

- **15** [フロントエンド Web サーバー名 (Front end web server name)] ボックスに、Web サーバーのホスト名を指定します。
- 16 このダイアログボックスの他のリストアオプションについて詳しくは、次のトピックを参照してください。

p.87の「SharePoint Server の[Microsoft SharePoint]タブのリストアオプション」 を参照してください。

17 [リストアの開始 (Start Restore)] をクリックします。

別のファームへの SharePoint Web アプリケーションのリダイレクトリス トア

Webアプリケーションのリストアは同じファーム内または異なるファームにリダイレクトできます。ファーム内でリダイレクトする方法については、次のトピックを参照してください。

p.113の「ファーム内の SharePoint Web アプリケーションのリダイレクトリストア」を参照 してください。

別のファームにWebアプリケーションをリダイレクトする場合は、次の点に注意してください。

- リダイレクトリストアの宛先となるターゲット Web アプリケーションは、指定された Web サーバーに存在している必要があります。またソース Web アプリケーションと同じ数 のコンテンツデータベースが存在している必要があります。
- ターゲット Web アプリケーションおよび SQL データベースの名前は (元の名前とは 異なる) 新しい名前である必要があります。
- 元のファームの SharePoint バージョンは宛先ファームの SharePoint バージョンと 一致する必要があります。
- Web アプリケーションは完全バックアップからのみをリダイレクトできます。差分バック アップからのリダイレクトはサポートされていません。
- Web アプリケーションはデータベースレベルでリストアする必要があります。
- 宛先 SharePoint ファームノードは NetBackup ドメインにある必要があります。
- マスターサーバーのホストプロパティで、[分散アプリケーションリストアマッピング (Distributed application restore mapping)]の設定を構成します。 これらの設定には、宛先ファームのマッピングを含める必要があります。分散アプリ ケーションには、元の SharePoint フロントエンドのコンポーネントとしてマッピングさ れる宛先 SharePoint ファームのすべてのファームノードが含まれている必要があり ます。

- 宛先ファームノードの Windows の [クライアントのプロパティ] は、ファームのすべてのノードで SharePoint 用に設定する必要があります。
- NetBackup クライアントは宛先ファームのすべてのノードにインストールする必要が あります。
- SQL データベースが複数の SQL ホストに存在する場合は、リダイレクトリストアを実行できません。
- すべての Web アプリケーション SQL データベースのリダイレクトリストアは、1回の 操作で同時に実行する必要があります。
- 同じファームにWebアプリケーションを複数回リダイレクトできません。この制限によって SQL データベース ID の一意性が確実になります。
- ソースと宛先で、SharePointのバージョンが同じである必要があります。
- ソースと宛先で、SQL のバージョンが同じである必要があります。
- ファイルシステムで作成されたカスタム Web パーツは、MS-Windows バックアップイメージから手動でリストアする必要があります。これらのコンポーネントはMS-SharePoint ポリシーではバックアップされません。(たとえば、手動でC:¥inetpub¥wwwroot¥wss¥VirtualDirectories¥ポート番号をリストアする必要があります。)

別のファームへの SharePoint Web アプリケーションのリダイレクトリストアを実行する 方法

- 1 管理者としてログオンします。
- 2 ターゲット Web サーバーにターゲット Web アプリケーションを作成します。
- 3 バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを開きます。
- 4 [ファイル (File)]>[リストアするファイルおよびフォルダの選択 (Select Files and Folders to Restore)]>[通常バックアップからリストア (from Normal Backup)] をク リックします。
- **5** [MS-SharePoint] ポリシー形式を選択します。

p.86の「SharePoint Server リストア操作を実行するサーバー、クライアントおよび ポリシー形式の指定」を参照してください。

6 [NetBackupの履歴 (NetBackup History)] ペインで、リストアするオブジェクトが含まれている完全バックアップイメージを選択します。

7 [すべてのフォルダ (All Folders)] ペインで、[Microsoft SharePoint Resources] を展開します。

メモ:項目を選択してリストアする場合、[すべてのフォルダ (All folders)] ペインの 項目のチェックボックスにチェックマークを付けません。[内容 (Contents of)] ペイ ンの項目のチェックボックスにのみチェックマークを付けます。

8 [内容 (Contents of)] ペインで、リダイレクトする Web アプリケーションを選択します。

🚮 Ba	🛿 Backup, Archive, and Restore - NetBackup - [Restore: Server: 🗤 🖬 🚺 Source Client: 🗤 🚛 🔲 🗙						
💆 E	ile <u>E</u> dit <u>V</u> iew <u>A</u> ctions <u>W</u> ir	ndow <u>H</u> elp				Backup, Archi	ive, and Rest
<u>s</u>	🔜 Select for Backup 🗧 Select for Restore 👻 🎦 View Status 🛛 🕑 💥 🧼						
Ŧ	NetBackup History						
	Time Backed Up	Time Expires	Files	Size	Compressed	Schedule Type	
	S/19/2010 1:31:00 PM	6/2/2010	2154	94204	N	Full Backup	
	🔮 5/19/2010 9:48:09 AM	6/2/2010	8	87553	N	Full Backup	
32	S/18/2010 3:49:10 PM	6/1/2010	2152	90094	N	Full Backup	
-	4	E/20/2010	0150	00000	R.1	11 Dl	
2	All Folders			Contents of 'M	icrosoft ShareP	oint Resources:\N	/licrosoft Sh
-0	🖃 🗾 💻 musealiti Derrom			Name		Time Backe	d Up
1.8	🖻 🔟 🚼 Microsoft Share	Point Resources		🔽 🗋 WSS_Co	ontent_19999_	DB1 5/19/2010	1:31:00 PM
1	🖻 📿 🕞 Microsoft Sh	narePoint Foundati	on Web Appli				
	🖃 💋 🦲 SharePoint - 19999						
	🕀 🗹 🗁 Cor	E III III Affendi (120-146)					
	•		Þ	•			Þ

次のイメージは SharePoint 2010 のリストアを示します。

次のイメージは SharePoint 2007 のリストアを示します。

🚮 Ba	ackup, Archive, and Restor	e - NetBackup -	Restore: Se	rver: 🗰 🖬	Source Clien	t: miliiim Des	- 🗆 🗵	
💆 E	ile <u>E</u> dit <u>V</u> iew <u>A</u> ctions <u>W</u> ir	ndow <u>H</u> elp]	- 8 ×	
5	Select for Backup 💐 Select	for Restore 🔹	🐚 View Statu	us 🐼 🗞	<i>.</i>			
m	NetBackup History							
	Time Backed Up	Time Expires	Files	Size	Compressed	Schedule Type		
2	S/16/2010 12:00:53 AM	5/30/2010	221	69651	N	Full Backup		
	12/2010 2:58:54 PM	5/26/2010	7169	1935341	N	User Backup		
<u>ج</u>	•							
	All Folders			Contents of 'Microsoft SharePoint Resources:\Windows Sha				
8	🖃 🗾 🔜 mididion			Name Time Backed Up			Jp	
-9	🖻 🗷 🚼 Microsoft Share	Point Resources		🗹 🖻 WS5_Content_17777_DB1 5/16/2010 12:00:53 AN				
- 75 • R	🖃 🛃 🖓 Windows Sh	harePoint Services	Web Applicatio					
¥6		offic - 17777	MARCH STREET S					
		a set to the set of the						
	•					Þ		
							11.	

9 [処理 (Actions)]>[リストア (Restore)] をクリックします。

- **10** [マークされたファイルのリストア (Restore Marked Files)] ダイアログボックスで、 [Microsoft SharePoint] タブをクリックします。
- **11** [SharePointリソースをリダイレクトする (Redirect SharePoint Resources)] にチェッ クマークを付けます。
- 12 [Web アプリケーション (Web application)] をクリックします。
- 13 [URL] フィールドに、宛先サイトの URL を入力します。

http://webapp:port

SharePoint Central Administration に表示される URL を使用します。

14 [フロントエンド Web サーバー名 (Front end web server name)] ボックスに、*target* Web サーバーのホスト名を指定します。

 Redirect SharePoint Resources Web application 	© Alternate S <u>B</u> L instance				
URL	http://webapp:port				
Front end web server name:	targetwebserver				
O Individual SharePoint sites, documents, lists or items					
Restore to drive or UNC path:	\\servername\share				

p.87の「SharePoint Server の[Microsoft SharePoint]タブのリストアオプション」 を参照してください。

15 [リストアの開始 (Start Restore)] をクリックします。

SharePoint サーバー Web アプリケーションコンテンツデータベースの 代替 SQL インスタンスへのリストアのリダイレクト

SharePoint Web アプリケーションコンテンツデータベースを代替 SQL インスタンスにリ ダイレクトして、接続されていないコンテンツデータベースからの SharePoint データリカ バリを利用できます。ターゲットデータベースは新しいデータベースである必要がありま す。

個々の項目のファイルパスへのリダイレクト方法については、次のトピックを参照してください。

p.122の「個々の SharePoint 項目のファイルパスへのリダイレクトリストア」を参照してください。

SharePoint サーバーデータベースの代替 SQL インスタンスへのリストアをリダイレクト する方法

- 1 バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを開きます。
- 2 [ファイル (File)]>[リストアするファイルおよびフォルダの選択 (Select Files and Folders to Restore)]>[通常バックアップからリストア (from Normal Backup)]をク リックします。
- **3** [MS-SharePoint]ポリシー形式を選択します。

p.86の「SharePoint Server リストア操作を実行するサーバー、クライアントおよび ポリシー形式の指定」を参照してください。

- 4 [NetBackup の履歴 (NetBackup History)]ペインで、リストアするオブジェクトが含まれている完全バックアップイメージを選択します。
- **5** [すべてのフォルダ (All Folders)]ペインで、[Microsoft SharePoint Resources] を展開します。

メモ:項目を選択してリストアする場合、[すべてのフォルダ (All folders)]ペインの項目のチェックボックスにチェックマークを付けません。[内容 (Contents of)]ペインの項目のチェックボックスにのみチェックマークを付けます。

6 [内容 (Contents of)]ペインで、リダイレクトする Web アプリケーションコンテンツ データベースを選択します。

🚮 Ba	ackup, Archive, and Restor	e - NetBackup - [Restore: Se	rver:	Sourc	e Client: 💷 🖬	_ 🗆 🗡
🔁 E	<u>ile E</u> dit <u>V</u> iew <u>A</u> ctions <u>W</u> ir	ndow <u>H</u> elp				Backup, Archi	ive, and Rest
5	Select for Backup 📗 💐 Select	for Restore 🔹	🐚 View Statu	ы 🛛 🐼 🗞	۲		
爾	NetBackup History						
	Time Backed Up	Time Expires	Files	Size	Compressed	Schedule Type	▲
.	S/19/2010 1:31:00 PM	6/2/2010	2154	94204	N	Full Backup	
	父 5/19/2010 9:48:09 AM	6/2/2010	8	87553	N	Full Backup	
32	S/18/2010 3:49:10 PM	6/1/2010	2152	90094	N	Full Backup	-
	1 C14/2010 10:50:50 DM	E/20/2010	0150	00000	KI.	Hear Dealure	F
2	All Folders			Contents of 'Mi	icrosoft ShareP	oint Resources:\N	/licrosoft Sh
-0	🖃 🖉 💭 manaddillib annat			Name Time Backed Up			d Up
-%	🗄 🖉 🔁 Microsoft Share	Point Resources		🔽 🗋 wss. co	ontent 19999	DB1 5/19/2010	1:31:00 PM
10	🖻 🗾 🕞 Microsoft Sl	narePoint Foundati	on Web Appli				
	🖻 🗹 📄 SharePi						
	🗄 🗹 🗁 Cor	LUU MYYNA (Sanaki					
	•		Þ	•			Þ
							1

次のイメージは SharePoint 2010 のリストアを示します。

次のイメージは SharePoint 2007 のリストアを示します。

🚮 Ba	Backup, Archive, and Restore - NetBackup - [Restore: Server: 🖬 🖬 Source Client: 🖬 🖬 Des 💶 🗖 🗙							
🔁 E	<u>ile E</u> dit <u>V</u> iew <u>A</u> ctions <u>W</u> ir	ndow <u>H</u> elp					_ 8 ×	
5	Select for Backup 🔄 Select for Restore 🔹 🎼 View Status 🛛 🖄 💐 🤣							
T	NetBackup History							
	Time Backed Up	Time Expires	Files	Size	Compressed	Schedule Type		
<u></u>	S/16/2010 12:00:53 AM	5/30/2010	221	69651	N	Full Backup		
	💱 5/12/2010 2:58:54 PM	5/26/2010	7169	1935341	N	User Backup		
<u>ع</u> د	•							
	All Folders			Contents of 'Microsoft SharePoint Resources:\Windows Sha				
ê,	🖃 🗹 💭 📖 midiakara			Name Time Backed Up			d Up	
•9	🖻 🔣 🚼 Microsoft Share	Point Resources	Uah Analisatia	W55_Content_17777_DB1 5/16/2010 12:00:53 AM			12:00:53 AN	
•h	🖃 🖉 🖓 🕷 nuows Si	arepoint services	web Applicatio					
	🗄 🗾 🗁 Cor	MALTER PRINT						
						_		
							11.	

- 7 [処理 (Actions)]>[リストア (Restore)]をクリックします。
- **8** [マークされたファイルのリストア (Restore Marked Files)]ダイアログボックスで、 [Microsoft SharePoint]タブをクリックします。
- **9** [SharePoint リソースをリダイレクトする (Redirect SharePoint Resources)]をクリックします。
- 10 [代替 SQL インスタンス (Alternate SQL Instance)]を選択します。
- 11 [SQL Server¥インスタンス (SQL Server¥Instance)]ボックスで、SQL サーバーの 名前と、Web アプリケーションコンテンツデータベースをリダイレクトするインスタンス 名を入力します。

12 [ターゲットデータベース(Target Database)]ボックスで、ターゲットデータベースの 名前を指定します。

 Redirect SharePoint Resources Web application 	Alternate SQL instance				
SQL Server\Instance:	servername\instance				
Target Database:	databasename				
C Individual SharePoint sites, documents, lists or items					
Restore to drive or UNC path:	\\servername\share				

このダイアログボックスの他のリストアオプションについて詳しくは、次のトピックを参照してください。

p.87の「SharePoint Server の[Microsoft SharePoint]タブのリストアオプション」 を参照してください。

13 [リストアの開始 (Start Restore)]をクリックします。

個々の SharePoint 項目のファイルパスへのリダイレクトリストア

個々のSharePoint項目のファイルパスへのリダイレクトリストアを実行できます。これらの 項目には、SharePointの文書セット、文書および画像のリストアが含まれます。元はリス トオブジェクトに埋め込まれていた文書や画像などの個別の項目をリストアすることもでき ます。項目をファイルシステムにリダイレクトすると、選択したリスト項目はリストアされず、 0 KBのファイルとして表示されます。

個々の項目は別の SQL インスタンスにもリダイレクトできます。次のトピックを参照してください。

p.119 の「SharePoint サーバー Web アプリケーションコンテンツデータベースの代替 SQL インスタンスへのリストアのリダイレクト」を参照してください。

個々の SharePoint 項目のファイルパスへのリダイレクトリストアを実行する方法

- 1 管理者としてログオンします。
- **2** バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを開きます。
- 3 [ファイル (File)]>[リストアするファイルおよびフォルダの選択 (Select Files and Folders to Restore)]>[通常バックアップからリストア (from Normal Backup)]を選 択します。
- **4** [MS-SharePoint]ポリシー形式を選択します。

p.86の「SharePoint Server リストア操作を実行するサーバー、クライアントおよび ポリシー形式の指定」を参照してください。

5 [NetBackup の履歴 (NetBackup History)]ペインで、リストアするオブジェクトが含 まれている完全バックアップイメージを選択します。個別リカバリテクノロジを使用し ていないバックアップから個々の項目をリストアすることはできません。 **6** [すべてのフォルダ (All Folders)]ペインで、[Microsoft SharePoint Resources] を展開します。

メモ:項目を選択してリストアする場合、[すべてのフォルダ (All folders)]ペインの項 目のチェックボックスにチェックマークを付けません。[内容 (Contents of)]ペインの 項目のチェックボックスにのみチェックマークを付けます。

7 [内容 (Contents of)]ペインで、リダイレクトする文書または画像を選択します。

👪 Backup, Archive, and Restore - NetBackup - [Restore: Server: 🗤 Source Client: 🗤 Destination Client: 💶 🗖 🗙								
🗓 File Edit View Actions Window Help							_ 8 ×	
5	🔜 Select for Backup 🛛 🖏 Select for Restore 👻 🎼 Yiew Status 🛛 🚱 🔩 🛷							
Ŧ	NetBackup History							
	Time Backed Up	Time Expires	Files	Size	Compressed	Schedule Type	P 🔺	
P	11/10/2009 3:20:00 PM	11/24/2009	71212	11980364	N	Full Backup	Ą	
	2 11/9/2009 3:48:57 PM	11/23/2009	5	789042	N	Full Backup	v	
5	V 11/9/2009 3:45:26 PM	11/23/2009	2779	460302	N	Full Backup	V 🔽	
	•						Þ	
2	All Folders		Cont	ents of 'Micros	oft SharePoint I	Resources:\Window	s SharePoint Services W	
1945 1945	Image: Sprain StarePoint Resources Name Image: Sprain StarePoint StarePoint Services Web Applice Image: Sprain StarePoint Services Web Applice Image: StarePoint - 19410 SharePoint - 19410							
	Image: SharePoint - 32088 Image: SharePoint - 32088						× ×	

- 8 [処理 (Actions)]>[リストア (Restore)]を選択します。
- **9** [マークされたファイルのリストア (Restore Marked Files)]ダイアログボックスで、 [Microsoft SharePoint]タブをクリックします。
- **10** [SharePoint リソースをリダイレクトする (Redirect SharePoint Resources)]を選択 します。
- 11 [個別の SharePoint のサイト、文書、リスト、項目 (Individual SharePoint sites, documents, lists or items)]を選択します。

12 [ドライブまたは UNC パスにリストア (Restore to drive or UNC path)]ボックスに、 リダイレクトリストアの宛先となるドライブ文字とパスを入力します。UNC パスには次 の形式を使用します。

¥¥servername¥share

 Redirect SharePoint Resources Web application 	C Alternate S <u>Q</u> L instance			
	http://			
Front end web server name:				
Individual SharePoint sites, documents, lists or items				
Restore to drive or UNC path:	\\servername\share			

13 このダイアログボックスの他のリストアオプションについて詳しくは、次のトピックを参照してください。

p.87の「SharePoint Server の[Microsoft SharePoint]タブのリストアオプション」 を参照してください。

14 [リストアの開始 (Start Restore)]をクリックします。

VMware バックアップを使用 した SharePoint Server デー タの保護

この章では以下の項目について説明しています。

- VMware バックアップによる SharePoint Server データの保護について
- SharePoint Server を保護する NetBackup for VMware バックアップの構成について
- VMware バックアップからの SharePoint データのリストア

VMware バックアップによる SharePoint Server データの保護について

VMware のバックアップポリシーを使用することで、NetBackup では仮想マシンに存在 する SharePoint Server の一貫した完全バックアップを作成できます。1回の VMware バックアップから、.vmdk のリストア (ディスクレベル)、SFR リストア (ファイルレベルのリカ バリ)、SharePoint データベースのリストア、SharePoint の個別レベルのリストア (GRT) のリストアオプションを選択できます。

VMware ポリシーでサポート対象のアプリケーションを保護するには、VMware の検出 ジョブの後、スナップショットジョブの前にアプリケーション状態キャプチャ (ASC) ジョブを 実行します。この ASC ジョブはゲストの仮想マシンの NetBackup クライアントにアクセス します。ASC ジョブは、アプリケーションリカバリと個別リカバリ (GRT) 機能のために必 要なアプリケーション固有のデータを収集してカタログ化します。

ASC ジョブと関連付けられたログについての詳細情報を参照できます。

p.144の「SharePoint Server の VMware のバックアップとリストアのトラブルシューティング」を参照してください。

vSphere 用の Symantec VSS プロバイダについて

シマンテック社は Symantec VSS プロバイダを使うことを推奨します。Symantec VSS プロバイダがインストールされ、NetBackup が仮想マシンのスナップショットを開始する と、VMware ツールはファイルレベルの一貫したバックアップのために VSS ライターを静 止するように Symantec VSS プロバイダに要求します。

メモ: Symantec VSS プロバイダは個別にインストールする必要があります。

p.129の「vSphere 用の Symantec VSS プロバイダのインストール」を参照してください。

SharePoint Server を保護する VMware バックアップのサポートと必要 条件

SharePoint Server を保護する VMware バックアップでは以下がサポートされます。

- ESX Server 4.0 以降
- SharePoint Server 2007 以降 (x64)
- NetBackup 7.6 サーバーソフトウェア
- 仮想マシンにインストールされている NetBackup 7.6 クライアントソフトウェア。
- VMware ツールは仮想マシンにインストールする必要があります。

SharePoint Server を保護する VMware ポリシーの使用に関する制限 事項

SharePoint Server を保護する VMware ポリシーを構成するときには、次の制限事項があります。

- SharePoint Server の VMware 増分バックアップは、このバージョンの NetBackup ではサポートされません。ただし、アクセラレータを使用すると、完全バックアップの速 度が上がります。
- VMware バックアップでは、SharePoint Server の一貫性チェックは実行されません。
- SQL Server はクラスタ化できません。
- 次のいずれかの操作を行うと、アプリケーション状態キャプチャ (ASC) ジョブは失敗し、データベースは保護されません。

- [仮想マシンの静止 (Virtual machine quiesce)]オプションを無効にします。
- [データディスクのエクスクルード (Exclude data disks)]オプションを選択します。
- データベースは VMware バックアップのためにサポートされる構成に存在する場合 にのみカタログ化され、保護されます。保護できるデータベースが存在する限り、ASC ジョブは続行されます。サポートされているディスクとサポートされていないディスクに 存在するデータベースをバックアップ用に選択すると、ASC ジョブは状態1(部分的 に成功)を生成します。ASC ジョブではこれらの状況が検出され、ジョブの詳細には バックアップ処理の結果が含まれます。

SharePoint Server データベースが次の場所にある場合は、データベースはカタロ グ化されず、バックアップされません。

- Raw デバイスマッピング (RDMs)。SharePoint 仮想マシンがデータベースのストレージとして RDM を使わないことを確認します。
- 独立としてマークされている仮想マシンディスク (vmdk) ボリューム。SharePoint データベースが独立したディスクに保存されないことを確認します。
- マウントポイントボリューム。
- 仮想ハードディスク (VHD) および GPT (GUID パーティションテーブル)のディ スク。
 NetBackup が VHD または GPT ディスク上にデータベースオブジェクトを検出 すると、ASC ジョブは失敗し、SharePointの内容はカタログ化されません。この

除外には、VHD または GPT ディスク上に存在しないオブジェクトが含まれます。

- 物理コンピュータに存在するどのコンポーネントも、VMware バックアップではバックアップされません。
- ASC ジョブは、エクスクルードされる Windows ブートディスクを検出し、それを独立したディスクと同様に処理します。
 VMware バックアップでは、いかなる理由でも NetBackup がインストールされているディスクをエクスクルードできません。たとえば、NetBackup がブートドライブ(通常 C:) にインストールされている場合、[ブートディスクのエクスクルード(Exclude boot disk)]オプションを選択しないでください。

SharePoint Server を保護する NetBackup for VMware バックアップの構成について

SharePoint Server の VMware バックアップとリストアを正常に実行するために、次の手順を完了します。

表 7-1	SharePoint Server を保護する NetBackup for VMware バックアッ	ヮプ
	の構成	

手順	処理	説明		
手順1	VMware 環境と NetBackup を構成します。	詳しくは次を参照してください『NetBackup for Exchange 管理者ガイド』。		
		SharePoint ファームの一部である仮想マシンに NetBackup クライアントソフトウェアをインストール します。		
手順 2	Symantec VSS プロバイダをインストールします。	p.129の「vSphere 用の Symantec VSS プロバイ ダのインストール」を参照してください。		
手順3	NetBackup Client Service を構成します。	p.54 の「NetBackup for SharePoint 用 NetBackup Client Service のログオンアカウントの 構成」を参照してください。		
手順4	NetBackup Legacy Network Service を構成します。	p.55 の「NetBackup for SharePoint 用 NetBackup Legacy Network Service のログオン アカウントの構成」を参照してください。		
手順 5	ローカルセキュリティの権限を構成します。	p.55の「SharePoint サーバーのローカルセキュ リティの権限の構成」を参照してください。		
手順 6	複数の SharePoint Server ホストのリストアを構成 します。	p.60 の「複数のサーバーを含む SharePoint ファームのリストアの構成」を参照してください。		
手順7	個別リストアの要件と制限事項を確認します。	p.53 の「SharePoint の個別リカバリテクノロジ (GRT) でサポートされるディスクストレージユニット」 を参照してください。		
		p.53の「SharePoint 個別リカバリテクノロジ (GRT) を使用したリストアの制限事項および条件」を参照 してください。		
手順 8	結合 SharePoint 構成の場合、マスターサーバー に個別リストア用プロキシを構成します。	p.131 の「結合 SharePoint 構成の個別リストア用 プロキシホストの構成」を参照してください。		
手順 9	各 SharePoint クライアントのホストプロパティを構成します。	p.56の「SharePointクライアントのホストプロパティの構成」を参照してください。		
手順 10	VMware バックアップポリシーを作成します。	p.129の「SharePoint Server を保護する VMware バックアップポリシーの構成」を参照してください。		
手順 11	構成設定をテストします。	p.61 の「MS-SharePoint ポリシーの手動バック アップの実行」を参照してください。		

vSphere 用の Symantec VSS プロバイダのインストール

Symantec VSS プロバイダを使うには、Windows クライアントの NetBackup のインストール後に手動でインストールする必要があります。VMware VSS プロバイダがインストール されている場合はインストールプログラムによって削除され、コンピュータの再起動が必要 になることがあります。

Symantec VSS プロバイダをインストールする方法

1 次の場所を参照します。

install_path¥Veritas¥NetBackup¥bin¥goodies¥

- 2 [vSphere 用の Symantec VSS プロバイダ (Symantec VSS Provider for vSphere)]のショートカットをダブルクリックします。
- 3 プロンプトに従います。
- 4 ユーティリティが完了したら、メッセージが表示される場合はコンピュータを再起動します。
- 5 再起動後、ユーティリティが再開されます。プロンプトに従って、インストールを完了 します。

Symantec VSS プロバイダをアンインストールする方法

- 1 [コントロールパネル]で、[プログラムの追加と削除]または[プログラムと機能]を開きます。
- **2** [vSphere 用の Symantec VSS プロバイダ (Symantec VSS Provider for vSphere)] をダブルクリックします。

アンインストールプログラムでは、VMware VSS プロバイダは自動的に再インストー ルされません。

SharePoint Server を保護する VMware バックアップポリシーの構成

VMware のバックアップポリシーを使用して、NetBackup では仮想マシンに存在する SharePoint Server のアプリケーションの一貫した完全バックアップを作成できます。 VMware ポリシーでは個別リカバリテクノロジ (GRT) が常に利用可能です。VMware 環 境で SharePoint Server バックアップのためのポリシーを作成する方法について詳しく は、次を参照してください。『NetBackup for VMware 管理者ガイド』。

次の手順では、[SharePoint のリカバリの有効化 (Enable SharePoint Recovery)]の設 定を使用して VMware ポリシーを構成する方法について説明します。また、[SQL Server のリカバリの有効化 (Enable SQL Server Recovery)]を使うこともできます。両方のリカ バリオプションを選択しないでください。両方のオプションを同時に選択すると、SQL の スナップショットの準備は失敗します。

SharePoint Server を保護する VMware ポリシーを構成する方法

- 1 新しいポリシーを作成するか、構成するポリシーを開きます。
- 2 [ポリシーの変更 (Change Policy)]ダイアログボックスで、[属性 (Attributes)]タブ をクリックします。
- 3 [ポリシー形式 (Policy type)]リストで、[VMware]を選択します。
- 4 [ポリシーストレージ (Policy storage)]フィールドで、ディスクストレージユニットを選択します。

NetBackup アクセラレータを使う場合は、PureDisk ストレージユニット形式 (MSDP または PureDisk) を選択します。サポート対象のストレージ形式はすべて、 NetBackup のデバイスマッピングファイルにリスト表示されています。

5 NetBackup アクセラレータを使うには、[アクセラレータを使用 (Use Accelerator)] をクリックします。

アクセラレータは初回の完全バックアップを使って基準を確立します。アクセラレー タを使って実行される以降のバックアップは非常に高速に実行できます。[アクセラ レータ強制再スキャン (Accelerator forced rescan)]オプションを有効にするための 追加のポリシースケジュールを作成することもできます。このオプションにより、次回 のアクセラレータバックアップ用の新しい基準が確立されます。アクセラレータにつ いて詳しくは次を参照してください。

p.69の「**NetBackup for SharePoint** のポリシー属性について」を参照してください。

詳しくは次を参照してください『NetBackup for Exchange 管理者ガイド』。

- **6** [クライアント (Clients)]タブで、[問い合わせを使用して自動的に選択 (Select automatically through query)]をクリックします。
- 7 [仮想マシンの自動選択を実行するための NetBackup ホスト (NetBackup host to perform automatic virtual machine selection)]と使うホストを選択します。
- 8 バックアップする仮想マシンを選択するルールを作成するには、クエリービルダーを 使います。

クエリービルダーについて詳しくは、次を参照してください。『Symantec NetBackup for VMware 管理者ガイド』。

9 [バックアップ対象 (Backup Selections)]タブをクリックします。

このタブには、[クライアント (Clients)]タブで作成したクエリーが表示されます。

10 [VMware]タブをクリックします。

このダイアログボックスのオプションについて詳しくは、次を参照してください。 『Symantec NetBackup for VMware 管理者ガイド』。 11 [VM バックアップからのファイルリカバリを有効にする (Enable file recovery from VM backup)]にチェックマークを付けます。

SharePoint Server のアプリケーション保護を行うためには、このオプションを有効にする必要があります。

- **12** 次のように、[Block Level Incremental バックアップを有効にする (Enable block-level incremental backup)]オプションを有効または無効にします。
 - [アクセラレータを使用 (Use Accelerator)]を選択した場合はこのオプションを 有効にします。
 - NetBackup アクセラレータを使わない場合はこのオプションを無効にします。
- **13** [SharePoint のリカバリの有効化 (Enable SharePoint Recovery)]にチェックマークを付けます。

このオプションは仮想マシンバックアップからの SharePoint のデータベースまたは 個々のオブジェクトのリカバリを有効にします。このオプションが無効の場合、バック アップで仮想マシン全体をリカバリできますが、SharePoint データベースまたはオ ブジェクトを個別にリカバリすることはできません。

結合 SharePoint 構成の個別リストア用プロキシホストの構成

結合 SharePoint 構成を保護する VMware バックアップでは、カタログホスト (ファーム のフロントエンドサーバー) の個別リストア用プロキシホストとしてバックエンド SQL サー バーを構成する必要があります。この構成は、NetBackup 管理コンソールまたはコマン ドラインからマスターサーバーで実行できます。

NetBackup 管理コンソールから SharePoint の個別リストア用プロキシホストを指定す る方法

- 1 マスターサーバーで NetBackup 管理コンソールを開きます。
- [NetBackup の管理 (NetBackup Management)]>[ホストプロパティ (Host Properties)]>[クライアント (Clients)] を展開します。
- 3 右ペインでクライアントを右クリックして、[プロパティ (Properties)]を選択します。
- 4 左ペインで [Windows クライアント (Windows Client)] を展開して、 [SharePoint] をクリックします。
- 5 [SharePoint 個別リストア用プロキシホスト (SharePoint granular restore proxy host)] フィールドに、SQL バックエンドホストの名前を入力します。
- 6 [OK] をクリックして、変更を保存します。
- 7 SharePoint ファームのすべてのサーバーについてこの構成を繰り返します。

コマンドラインから SharePoint の個別リストア用プロキシホストを指定する方法

◆ 使う個別リストア用プロキシホストを示すには、次のコマンドを使います。

bpclient -add -client SharePoint front-end server -granular_proxy
SQL back-end server

個別リストア用プロキシホストが設定されていることを確認するには、次のコマンドを 使います。

bpclient -client SharePoint front-end server -G

VMware バックアップからの SharePoint データのリスト ア

SharePoint データは、SharePoint Agent で実行されるバックアップからリストアされる場合と同じ方法で、VMware バックアップからリストアされます。VMware ポリシー形式を使用してデータをバックアップしますが、リストアには MS-SharePoint ポリシー形式を使用します。NetBackup では、リストアに利用可能である VMware バックアップイメージに含まれる SharePoint データを表示します。

メモ: NetBackup は SharePoint を保護する VMware 完全バックアップのみをサポート します。 VMware 環境では、 NetBackup for SharePoint (MS-SharePoint) の差分リス トアをリストアできません。

VMware バックアップから SharePoint データをリストアする方法

- 1 ポリシー形式には、[MS-SharePoint]を選択します。
- 2 ソースクライアントには、SharePoint フロントエンドサーバーの名前を選択します。

フロントエンドサーバーのリストでアルファベット順で最初に示されるサーバーを選択します。

SharePoint のコンポーネントが複数のコンピュータにある場合でも、すべてのバックアップは同じ SharePoint サーバー名の下でカタログ化されます。そのサーバー名を選択すると、SharePoint環境で利用可能なすべてのバックアップイメージが表示されます。

3 非 VMware 環境から SharePoint リストアする手順に従ってください。

p.85の「SharePoint Server、SharePoint Foundation、Windows SharePoint Services のリストア」を参照してください。

ディザスタリカバリ

この章では以下の項目について説明しています。

- SharePoint Server のディザスタリカバリ
- SharePoint Server のディザスタリカバリの要件
- SharePoint Server 2010 のリカバリ (BMR を使用していない場合)
- SharePoint Server 2007 のリカバリ (BMR を使用していない場合)

SharePoint Server のディザスタリカバリ

SharePoint Server では、認証に Windows Server 2003 または Windows Server 2008 セキュリティが使用されます。この構成のため、SharePoint Server のディザスタリカバリ は、Windows Server のディザスタリカバリと密接に関連しています。SharePoint Server のリカバリを実行する前に、Windows Server のリカバリを実行する必要があります。

NetBackup Bare Metal Restore オプションのライセンスを取得している場合、詳しくは、 『NetBackup Bare Metal Restore 管理者ガイド』。NetBackup Bare Metal Restore オ プションのライセンスを取得していない場合は、次のマニュアルの「ディザスタリカバリ」の 章を参照してください。『Symantec NetBackupトラブルシューティングガイド UNIX、 Windows および Linux』。

SharePoint Server のディザスタリカバリの要件

SharePoint Server のディザスタリカバリには次の要件があります。

- NetBackup for SharePoint Server のライセンスを追加した Windows 版 NetBackup のコピー (マスターサーバー上)
- リカバリを行う SharePoint Server の最新のバックアップ
- SharePoint Server CD

■ 元のインストールで適用されていたすべての Service Pack

p.133 の「SharePoint Server のディザスタリカバリ」を参照してください。

p.134の「SharePoint Server 2010 のリカバリ (BMR を使用していない場合)」を参照してください。

p.135の「SharePoint Server 2007 のリカバリ (BMR を使用していない場合)」を参照してください。

SharePoint Server 2010 のリカバリ (BMR を使用していない場合)

このトピックでは Bare Metal Restore (BMR) なしの SharePoint Server 2010 インストールをリカバリする方法について説明します。

SharePoint Server 2010 をリカバリする方法 (BMR を使用していない場合)

1 リストアのために SharePoint ホストを準備します。元のホストと同じ構成にします。

この構成には、新しいハードウェアとOS、Windows サービスパック、およびバック アップから SharePoint をリストアするために必要であるソフトウェアの再インストール が必要となる場合があります。

2 必要なソフトウェアと SharePoint 2010 をインストールします。

このインストールは SharePoint 製品の構成ウィザードの実行を含んでいます。

- **3** SharePoint 製品の構成ウィザードを使って新しいファームの設定データベースを 作成します。
- 4 Web ブラウザを開き、SharePoint Central Administration のページにアクセスでき、その構成に元のファームのメンバーが含まれていることを確認します。 必要に応じて、ファームの構成ウィザードを実行します。
- 5 NetBackup マスターサーバーと SharePoint クライアントホストを構成すると、バック アップから SharePoint をリストアできます。
- 6 フロントエンドサーバーから、NetBackup バックアップ、アーカイブおよびリストアイ ンターフェースを開きます。
- 7 Microsoft SharePoint Resources:¥ が表示されることを検証します。
- 8 以下の順序で SharePoint Server のコンポーネントをリストアします。
 - Web アプリケーション、1 つずつ
 - サービス (State Service データベース、メタデータ、 State Service プロキシ)
 - 共有サービスのデータベース(サービスアプリケーションとメタデータ)、1つずつ
 - SharePoint Foundation ヘルプ検索 (WSS_Search)

- InfoPath Forms Services (メタデータ)
- インデックスファイル

共有サービスのプロキシはリストアしないでください。(NetBackup がサービスアプリケーションをリストアするとき、サービスアプリケーションの新しい URI とプロキシが生成されます。)

- 9 すべての SharePoint と SQL サービスが、IIS サービスを含む SharePoint と SQL Server で再起動されることを確認します。
- **10** SharePoint Central Administration、IIS、または NetBackup バックアップ、アーカ イブおよびリストアインターフェースを使って、Web アプリケーションサイトを参照しま す。リストアした Web アプリケーションサイトがアクセス可能で正しくリストアされてい ることを確認します。

SharePoint Server 2007 のリカバリ (BMRを使用していない場合)

このトピックでは Bare Metal Restore (BMR) なしの SharePoint Server 2007 インストールをリカバリする方法について説明します。

SharePoint Server 2007をリカバリする方法 (BMR を使用していない場合)

- 1 元のホストと同様に宛先ホストを構成します。
- 2 SharePoint 2007と他のすべての必須ソフトウェアをインストールします。
- **3** SharePoint 製品とテクノロジ構成ウィザードを実行し、新しい SharePoint ファーム 構成データベースを作成して接続します。
- 4 SharePoint Central Administrator を使用して、新しく作成された SharePoint ファームで必要な検索サービスを起動します。
- 5 元のホストからのバックアップイメージが含まれる NetBackup マスターサーバーを 宛先ホストのマスターサーバーとして構成します。
- 6 構成データベースを除く、SharePoint ファームのすべてのコンポーネントをリストア します。次の順序でコンポーネントをリストアします。
 - 検索データベース
 - Web アプリケーション
 - 共有サービスプロバイダ (存在する場合)
 - シングルサインオンデータベース(存在する場合)
 - 検索インデックスファイル

9

トラブルシューティング

この章では以下の項目について説明しています。

- NetBackup for SharePoint デバッグログ
- NetBackup の状態レポート
- 異なる SharePoint サービスパックまたは異なる累積更新プログラムのレベルへのリストア
- 個別リカバリテクノロジ (GRT) を使用したトラブルシューティング SharePoint ジョブ
- SharePoint リストア操作のトラブルシューティングの概要
- NetBackup for SharePoint とクライアント側の重複排除について
- SharePoint Server の VMware のバックアップとリストアのトラブルシューティング

NetBackup for SharePoint デバッグログ

NetBackup マスターサーバーおよびクライアントソフトウェアでは、NetBackup の操作中 に発生する可能性のある問題のトラブルシューティングのために、広範囲なデバッグログ のセットを提供します。デバッグログは、SharePoint Server のバックアップ操作およびリ ストア操作でも使用できます。

ログを作成する方法と、ログに書き込まれる情報量を制御する方法については、次のト ピックを参照してください。

p.137の「NetBackup for SharePoint クライアントのデバッグログの自動的な有効化」を 参照してください。

p.137の「NetBackup for SharePoint のデバッグログの手動での有効化」を参照してください。

p.138の「**NetBackup for SharePoint Windows** クライアントのデバッグレベルの設定」 を参照してください。 問題の原因を判断できたら、事前に作成したデバッグログディレクトリを削除して、デバッ グログを無効にします。これらのデバッグログの内容に関する詳細を参照できます。

ディザスタリカバリが必要な場合に NetBackup カタログをリストアする方法について詳しくは、次を参照してください。『NetBackup トラブルシューティングガイド』。

NetBackup クライアントのログおよび NetBackup マスターサーバーのログに関する詳細 を参照できます。

バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースのヘルプを参照してください。

次を参照してください。『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』。

メモ: デバッグログを有効にしておくと、ファイルサイズが大きくなる場合があります。これは、同じファイルが通常のファイルのバックアップでも使用されるためです。

NetBackup for SharePoint クライアントのデバッグログの自動的な有効化

デバッグログを有効にするには、各ログディレクトリを作成するバッチファイルを実行します。すべてのログファイルディレクトリを自動的に作成するには、次を実行します。

install_pathWetBackupWlogsWmklogdir.bat

NetBackup for SharePoint のデバッグログの手動での有効化

デバッグログを有効にするには、次の場所にログディレクトリを作成します。

install path¥NetBackup¥logs

SQL Server、フロントエンドの Web サーバー、メディアサーバー、マスターサーバー上 に次のログディレクトリを作成します。

beds	SharePoint フロントエンドサーバーの SharePoint 管理コード
bpbkar	すべてのバックアップ
bpfis	スナップショットバックアップ、VMware バックアップ
bppfi	(NetBackup 6.5.4 より前のバックアップイメージ) 個別リカバリテクノロジ (GRT) を使用した SharePoint の個々の項目のリストアおよび VMware イメージからの SharePoint データベースのリストア
bpresolver	すべてのバックアップおよびリストア
bpbrm	すべてのリストア
bprd	すべてのリストア

nblbc	バックアップイメージの形式が VMware の場合は SharePoint ライフ 参照
ncflbc	GRT を使用した SharePoint の個々の項目のリストア
	これは nblbc.exe のログです。
ncfgre	GRT を使用した SharePoint の個々の項目のリストア
	これは nbgre.exe のログです。
ncfnbcs	ASC の問題と VMware バックアップのエラー用
nbfsd	GRT を使用した SharePoint の個々の項目のリストア
spps	SharePoint フロントエンドサーバーの SharePoint 管理コード
spsv2ra	Recovery Assistant
	このプロセスは統合ログ機能を使います。
tar	すべてのリストア

これらのディレクトリを作成し、バックアップかリストアを実行した後、デバッグログの情報は プロセスの名前が付いているサブディレクトリに配置されます。レガシーログの場合、ファ イルは mmddyy.log と名前を付けられます。統合ログの場合、ログファイルはシマンテッ ク製品に共通の形式です。統合ログ機能を使用するログを表示するには、lv.exe また は vxlogview を使用します。

統合ログ機能について詳しくは、次を参照してください。『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』。ログコマンドの使用方法については、次を参照してください。『Symantec NetBackup トラブルシューティングガイド UNIX、Windows および Linux』。

p.141の「NetBackup for SharePoint 操作の進捗レポートの表示」を参照してください。

p.141の「個別リカバリテクノロジ (GRT)を使用したトラブルシューティング SharePoint ジョブ」を参照してください。

p.143の「SharePointリストア操作のトラブルシューティングの概要」を参照してください。

p.143の「NetBackup for SharePoint とクライアント側の重複排除について」を参照してください。

NetBackup for SharePoint Windows クライアントのデバッグレベルの 設定

デバッグログに記録される情報の量を制御するには、クライアントの[一般 (General)]、 [詳細 (Verbose)]および[データベース (Database)]デバッグレベルを変更します。通 常は、デフォルト値の 0 (ゼロ) で十分です。ただし、障害分析をするために、テクニカル サポートより、デフォルト以外の大きな値を設定するように依頼することがあります。 このデバッグログは、install path¥NetBackup¥logs に存在します。

NetBackup for SharePoint クライアントのデバッグレベルを設定する方法

- **1** Windows の[スタート]メニューから、[プログラム]>[Symantec NetBackup]> [Backup, Archive, and Restore] を選択します。
- [ファイル (File)]>[NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)] を選択します。
- 3 [トラブルシューティング (Troubleshooting)] タブをクリックします。
- 4 [全般 (General)] デバッグレベルを設定します。 このレベルを2に設定します。
- 5 Set the Verbose debug level.

このレベルを5に設定します。

6 [OK] をクリックして、変更を保存します。

Symantec VSS プロバイダのログ

Symantec VSS プロバイダは Windows イベントログのアクティビティを記録します。次の場所では、デバッグログも利用可能です。

¥Program Files¥Symantec¥Symantec VSS provider¥logs

レジストリでの Symantec VSS プロバイダのログの有効化

Symantec VSS プロバイダのログ記録を有効にするには、次のようにレジストリキーを追加します。

レジストリで Symantec VSS プロバイダのログを有効にするには

- 1 NetBackup サーバーがインストールされているコンピュータに管理者 (Administrator) としてログオンします。
- 2 レジストリエディタを開きます。
- 3 次のキーを開きます。:

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Symantec¥Backup Exec for Windows¥Backup Exec¥Engine¥Logging

- **4** CreateDebugLog という名前で新しい DWORD 値を作成します。
- 5 新しい値を右クリックして、[修正]をクリックします。
- 6 [値のデータ (Value data)]ボックスに、1 と入力します。
- 7 [OK]をクリックします。

Symantec VSS プロバイダのログのデバッグレベルを上げる

ログのデバッグレベルを上げるには、pre-freeze-script.batファイルとpost-thaw-script.batファイルの両方を修正します。スクリプト内の BeVssRequestor.exe がコールされる行に $-\log$ パラメータを追加します。VMware によって呼び出されるスクリプトが決定されます。

Symantec VSS プロバイダのログのデバッグレベルを上げるには

1 pre-freeze-script.bat の次の行を変更します。

BeVssRequestor.exe -pre2 -logscreen !SkipExReplica! !SkipSQL! !VMBackupType! !ExcludeList!

この行を次のように変更します。

BeVssRequestor.exe -pre2 -logscreen !SkipExReplica! !SkipSQL! !VMBackupType! !ExcludeList! -log

2 また post-thaw-script.bat の次の行も変更します。

BeVssRequestor.exe -post2 -logscreen !SkipExReplica! !SkipSQL! !VMBackupType! !ExcludeList!

この行を次のように変更します。

BeVssRequestor.exe -post2 -logscreen !SkipExReplica! !SkipSQL! !VMBackupType! !ExcludeList! -log

NetBackup の状態レポート

NetBackup では、バックアップおよびリストア操作が完了したことを確認するために、多数の標準的な状態レポートが用意されています。また、必要に応じて、ユーザーおよび 管理者が別のレポートを設定することもできます。

管理者には、NetBackup 管理コンソールから操作の進捗レポートにアクセスする権限が あります。生成されている可能性のあるレポートは、「バックアップの状態 (Status of Backups)]、[クライアントバックアップ (Client Backups)]、[問題 (Problems)]、[すべ てのログエントリ (All Log Entries)]、[メディアリスト (Media Lists)]、[メディアの内容 (Media Contents)]、[メディア上のイメージ (Images on Media)]、[メディアのログ (Media Logs)]、[メディアの概略 (Media Summary)]および[書き込み済みメディア (Media Written)]です。特定の期間、クライアントまたはマスターサーバーを対象としてこのような レポートを生成することも可能です。

次を参照してください。『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

クライアント上の進捗レポートによって、ユーザーの操作の監視を簡単に行うことができます。ユーザー主導のバックアップ操作またはリストア操作ごとに NetBackup クライアント でレポートが作成されている場合、管理者はこれらの操作を監視し、発生したすべての 問題を検出することが可能です。

NetBackup for SharePoint 操作の進捗レポートの表示

このトピックでは、NetBackup for SharePointのバックアップ操作またはリストア操作の進捗レポートを表示する方法について説明します。

NetBackup for SharePoint 操作の進捗レポートを表示する方法

- 1 [ファイル (File)]>[状態の表示 (View Status)]を選択します。
- 2 進捗状況を確認する処理をクリックします。
- 3 [更新 (Refresh)]をクリックします。

進捗レポートおよびメッセージについて、詳細情報を参照できます。

次を参照してください。『Symantec NetBackup バックアップ、アーカイブおよびリストアスタートガイド UNIX、Windows および Linux』。

異なる SharePoint サービスパックまたは異なる累積更 新プログラムのレベルへのリストア

NetBackup for SharePoint エージェントでは、バックアップが最初に作成された時点と 同じ Microsoft サービスパック (SP) または累積更新プログラム (CU) へのリストアをサ ポートしています。Microsoft 社は SP や CU のデータベーススキーマに変更を加える ことがあります。異なるレベルの SP または CU にリストアすると、データベースサーバー が正しく動作しないことがあります。

個別リカバリテクノロジ (GRT) を使用したトラブルシュー ティング SharePoint ジョブ

NetBackup で個別リカバリテクノロジを使用してバックアップ操作またはリストア操作を実行する場合には、次のことに注意してください。

- QLogic SANSurfer ソフトウェアを無効にするかアンインストールします。Client for NFSのポートマッパーと競合する場合があります。
- メディアサーバーまたはクライアントに NFS をインストールする前に、ONC/RPC Portmapper サービスを検索します。存在する場合は、停止して無効にします。その ようにしないと、Windows の NFS 用サービスのインストールは失敗します。
- ローカルセキュリティ設定で、「ユーザー (Users)]グループに「ローカルログオンを許可する (Allow log on locally)]というユーザー権限が割り当てられている必要があります。デフォルトでは、「ユーザー (Users)]グループは含まれています。「ユーザー (Users)]グループにこの権限がない場合、次のエラーが発生します。

1385-- ログオン失敗: 要求された種類のログオンは、このコンピュータではユーザー に許可されていません。(Logon failure: the user has not been granted the requested logon type at this computer.)

- 個別リカバリテクノロジ (GRT) を使用した SharePoint Web アプリケーションのバッ クアップ、および多数のコンテンツデータベース (100 以上) が含まれるバックアップ では、タイムアウトが発生する場合があります。このような状況では、[クライアントの読 み込みタイムアウト (Client read timeout)]をデフォルトの設定から 900 秒に増やし ます。
- NetBackup では、SQL Server Native Client 10.0 以降を使って、SQL Server 2008 R2 または SQL Server 2008 での大きい SharePoint 文書の GRT リストアがサポートされます。SQL Server 2005 以前では、大きい SharePoint 文書の GRT リストア は状態0で終了しますが、文書はリストアされません。この問題はネットワークのパケット 制限に到達したために発生します。この問題を回避するには、「ネットワークパケット サイズ (B)」値を大きくするか、文書をファイルシステムにリストアして SharePoint に アップロードします。

Microsoft Server SQL Management Studio で、SharePoint 2010 データベースが 配置されたインスタンスに対して次の SQL スクリプトを実行します。

```
use master

GO

sp_configure 'show advanced options', 1;

GO

RECONFIGURE;

exec sp_configure @configname = 'network packet size (B)', @configvalue =32767

reconfigure

sp_configure

sp_configure

sp_configure 'show advanced options', 0;

GO

RECONFIGURE;

このスクリプトでは、「ネットワークパケットサイズ (B)」値をデフォルトの 4096 から 32767

に変更しています。
```

テクニカルサポートでメディアサーバーからの nbfsd ログが必要な場合があります。
 nbfsd ログは非常に大きくなる可能性があるため、Verbose 設定は慎重に使います。

SharePointリストア操作のトラブルシューティングの概要

リストアを実行する場合、次のことに注意してください。

- NetBackup では、プレースホルダをリストアすることができます。
- NetBackup では、文書を保持できるオブジェクトをリストアすることができます(文書 を保持していない場合も可能)。

次の問題は SharePoint 2010 にも存在します。

- SharePoint アンケートリストでは、リストアの後、[作成日時]の値は個別リストア時の 値を示します。この動作は仕様です。
- 削除されたレポートをリストアすると、レポート ID はリストア時に増加します。元のレポート ID の値を保持する場合は、レポートコンテナ全体をリストアします。
- Webアプリケーションをリストアすると新規アプリケーションプールが各リストアに作成 されます。元のアプリケーションも残っていますが、削除できます。
 図 9-1 を参照してください。

```
図 9-1 Web アプリケーションのリストア後の新しいアプリケーションプール
```

Application Pools

This page lets you view and manage the list of application pools on the server. Application pools are associated with worker processes, contain one or more applications, and provide isolation among different applications.

Filter:			•		
Name A		.NET Frame	Managed Pipeli	Identity	Applications
8bdb7f297cbf4c24817ce51f90d0f07f	Started	v2.0	Integrated	EX2010\administrator	1
a999983009ce4d32b8a133cfd41f6e3b		v2.0	Integrated	EX2010\administrator	1
Classic .NET AppPool		v2.0	Classic	NetworkService	0
DefaultAppPool	Started	v2.0	Integrated	NetworkService	1
SecurityTokenServiceApplicationPool	Started	v2.0	Integrated	EX2010\administrator	5
🔊 SharePoint - 11744	Started	v2.0	Integrated	EX2010\administrator	0
SharePoint - 11744 (4.27.2010 12.47.42 PM)	Started	v2.0	Integrated	EX2010\administrator	1
🕼 SharePoint - 21872	Started	v2.0	Integrated	EX2010\administrator	0
SharePoint - 21872 (4.26.2010 7.14.10 PM)	Started	v2.0	Integrated	EX2010\administrator	0
SharePoint - 21872 (4.26.2010 7.14.10 PM) (4.27.2010 4.33	Started	v2.0	Integrated	NetworkService	1
🕼 SharePoint - 25111	Started	v2.0	Integrated	EX2010\administrator	0
🕼 SharePoint - 80	Started	v2.0	Integrated	EX2010\administrator	1
SharePoint Central Administration v4	Started	v2.0	Integrated	NetworkService	0
SharePoint Central Administration v4 (4.9.2010 1.06.15 PM)	Started	v2.0	Integrated	EX2010\administrator	1
🕼 SharePoint Web Services Root	Started	v2.0	Integrated	LocalService	1

NetBackup for SharePoint とクライアント側の重複排除 について

クライアント側の重複排除を指定して NetBackup for SharePoint を使うと、ジョブの詳細 はフロントエンドの Web サーバーで重複排除が起きたことのみを示します。 クライアント 側の重複排除が SQL クライアントと他の SharePoint ファームホストで有効な場合も、ジョ ブはこのように報告されます。重複排除は[クライアント側の重複排除を優先して使用 (Prefer to use client-side deduplication)]か[常にクライアント側の重複排除を使用 (Always use client-side deduplication)]を選択すれば実行されます。

bpbrm のログは (「Client Direct」として示されている) 重複排除の処理の情報を含んでいます。たとえば、SQL バックエンドサーバーのログは次の通りです。

15:49:13.947 [4892.8600] <2> bpbrm main: bpbrm.c.2767: Client Direct is using alternate client: FABLE 15:49:13.947 [4892.8600] <2> initiate_proxy_server: Calling bpcr_start_proxy with hostname:FABLE

SharePoint Server の VMware のバックアップとリストア のトラブルシューティング

1つのアプリケーション状態キャプチャジョブは、ポリシーで選択されるアプリケーションに 関係なく、VMごとに作成されます。

アプリケーションを保護する VMware バックアップを実行するときには、次の点に注意してください。

- VMware ディスクのレイアウトが前回の検出から変更されていると、ASC ジョブが失敗する場合があります。この場合、[VM 選択問い合わせ結果を再利用 (Reuse VMselection query results for)]オプションの値を低くして、NetBackup に強制的に仮想マシンを再検出させます。詳しくは次を参照してください。『NetBackup for Exchange 管理者ガイド』。
- ASC ジョブが失敗しても、VMware スナップショットまたはバックアップは続行されます。アプリケーション固有のデータはリストアできません。
 SQL Server Management Studio (SSMS) に問い合わせを行うと、データベースがバックアップされたことが示される場合があります。この場合、データベースがスキップされても、スナップショットは成功しています。
- ASC ジョブの結果が状態1(部分的に成功)となる場合があります。たとえば、 SharePointが保護されていても、SQLの保護に失敗する場合です。
- 失敗の結果、検出ジョブまたは親ジョブが状態コード1で終了します。
- ASC メッセージは ASC ジョブの詳細にフィルタリングされます。
- 特定アプリケーションのリカバリを有効にしたが、そのアプリケーションが VM に存在 しない場合、ASC ジョブは状態 0 を返します。
- ASC ジョブの詳細はアクティビティモニターのジョブの詳細で見つけることができます。
bpfisが実行され、VSSスナップショットバックアップをシミュレートします。このシミュレーションはアプリケーションの論理情報を取得するために必要になります。

図り

記号

.wsp 17

В

BeVssRequestor.exe 139 bpbkar ログ 137 bpfis ログ 137 bppfi ログ 137

G

GPT ディスク 127

Ν

nbfsd ポート 48 nbfsd ログ 138 NetBackup Client Service ログオンアカウント、構成 54 NetBackup Legacy Network Service ログオンアカウン ト、構成 55 NetBackup アクセラレータ 129 Network File System (NFS)、説明 24 Network File System (NFS) のインストールおよび構成 24 NFS 用サービス Windows Server 2003 R2 SP2 へのインストー ル 46

R

raw デバイスマッピング VMware 127

S

SharePoint Server 一貫性チェックのオプション 60 プロパティ 57
SharePointアプリケーションサーバーのログオンアカウン ト 58
SharePoint サーバーのアップグレード 85
SharePoint ソリューションパッケージ 17
SharePointの個別リストア用プロキシホストプロパティ 131 SharePoint バックアップからの項目の除外 79 SharePoint 負荷分散 21 SharePoint ユーザー 21 SharePoint を保護する VMware バックアップ 125、129 spsv2ra 138 Symantec VSS プロバイダ 126 インストール 129 ログ 139

Т

tar ログ 138

V

VMware VSS プロバイダ 126、129 VSS プロバイダ Symantec 126 VMware 126

W

Web パーツのカスタマイズ 17

あ

 [アクセラレータを使用 (Use Accelerator)]プロパティ 70 圧縮 69
 アプリケーション状態キャプチャ (ASC) 125
 暗号化 69
 一貫性チェック 実行 59
 インストール
 NetBackup クライアントの要件 21
 NetBackup サーバーの要件 20
 Symantec VSS プロバイダ 129
 ライセンスキーの追加 22

か

クライアントリスト、バックアップポリシー 75 結合ファーム NetBackup の構成 61 構成データベース SharePoint のリストア時の注意事項 85 互換性情報 20 個別リカバリテクノロジ (GRT) NetBackup Client Service の構成 54 NetBackup Legacy Network Service の構成 55 サポートされるストレージユニット 53 複数の SharePoint ホストのリストアの構成 61 個別リカバリを有効化する 69 [個別リカバリを有効化する (Enable granular recovery)] プロパティ 69 個別リストア用プロキシホスト (Exchange granular restore proxy host) 131

さ

差分増分バックアップ 71 重複排除とジョブの詳細 144 手動バックアップ 12 スケジュール 間隔 (Frequency) 71 追加 70 プロパティ 71

た

調査リスト、リストア 143 ディザスタリカバリ 要件 133 デバッグログ 136~137 デバッグレベル 139 有効化 137 デフォルトの IIS アプリケーションプールの ID 21 トラブルシューティング NetBackup 操作の状態 140 NetBackup のデバッグログ 136

は

バックアップ
 SharePoint バックアップオプション 83
 自動 12、61
 手動 61
 バックアップ形式 71
 含まれる SharePoint オブジェクト 13、15
 ユーザー主導 84
 概要 12
 バックアップおよびリストアに使用するサーバー (Server to use for backups and restores) 86
 バックアップ対象リスト
 AllWebs 指示句の追加 75

SharePoint リソースの追加 75 [バックアップ前の一貫性チェック (Consistency check before backup)]ホストプロパティ 58 必要なバックアップメディア 20 複数のデータストリームを許可する (Allow multiple data streams) 69 複数のデータストリームを許可する (multiple data streams) 77 プレースホルダ、リストア 143 分散アプリケーションリストアマッピング (Distributed Application Restore Mapping) 61 ポリシー構成のテスト 61 ポリシーの構成 概要 67 クライアントの追加 75 スケジュール 70 属性 69 テスト 61 データベース 67 バックアップを行うオブジェクトの指定 75

や

ユーザー主導バックアップ 83~84

6

ライセンスキー 22 リストア SharePoint Server、SharePoint Foundation また は Windows SharePoint Services 91 個々の項目 101~102 サーバー主導 16 リダイレクトリストア 16 リストアされたデータベースをオンラインにして、前のデー タベースリンクに再接続する (Bring restored databases online and reconnect previous database links) 87 リストアし、リダイレクト 代替 SQL インスタンスに 119 リストアのソースクライアント (Source client for restores) 86 リストアのポリシー形式 (Policy type for restores) 86 リストア、リダイレクト SQL インスタンス 122 Web アプリケーション 113、116 ファイルパス 122 [レプリケーションディレクタを使用 (Use Replication Director)]プロパティ 69 レポート クライアント 140

操作 140 メディア 140 レポート、リストア 143